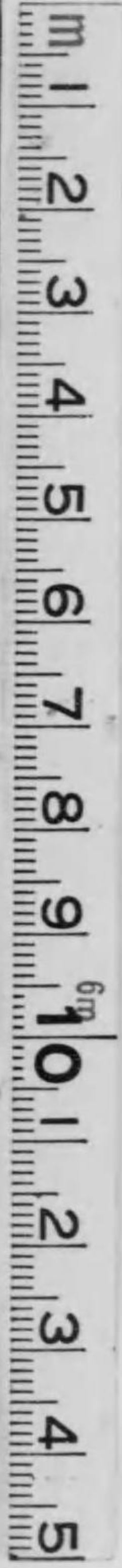




142
250



始



大正
十一年度

靜岡縣立農事試驗場業務報告

靜岡縣立農事試驗場



大正十一年度 静岡縣立農事試驗場業務報告目次

農藝部

種藝ニ關スル事項

第一 水 稻

耕種梗概

甲 品種ニ關スル試驗

一 原種決定試驗

(一) 早稻ノ部

(二) 中晚稻ノ部

二 農商務省農事試驗場畿内支場育成品種比較試驗

三 普通品種比較試驗

四 朝日純系淘汰收量比較試驗

五 富士中神力純系淘汰收量比較試驗

六 曙純系淘汰收量比較試驗

七 谷糯純系淘汰收量比較試驗

八 人工交配特性調査試驗

九 人工交配F₁栽培

一〇 他府縣獎勵品種比較豫備試驗

四四四三三三二二一一
二一〇八三〇六二一九〇七六六一一一 頁

大正
13. 6. 6
内交

正誤表

二四頁 十行	太閤	太閤
二五頁 六行	陸水	陸水
八八頁 十三行	有機質肥料	有機質肥料中
九九頁 十七行	而シテ	而シテ
一〇三頁 三行	蛇紋岩	蛇紋岩
一〇八頁 十三行	三要共	三要素共
一二九頁 三行	五七、八四	五四、八四
一四五頁 表九段	〇	ツ五、〇
一四七頁 六行	三、八	二、八
一五五頁 三行	二、〇	一、〇
一六〇頁 十二行	發原	病原
二〇三頁 五行	日生赤	早生赤
二〇八頁 十行	左	同
二二三頁 六行	日梨汁	梨果汁

一	原種決定參考試驗(委託試驗)	四三
二	寒地向原種決定參考試驗(委託試驗)	四五
三	原種決定簡易試驗(委託試驗)	四八
乙	栽培法其他ニ關スル試驗	五六
一	豊凶考照試驗	五九
二	多收穫挿植法試驗	六一
三	廣畦栽培法試驗	六二
四	直播ニ關スル試驗	六三
五	品種別直播移植比較試驗	六九
六	直播播種法試驗	七〇
第二	麥	七〇
第三	綠肥大豆	七二
第四	甘藷	七二
一	品種比較試驗	七二
二	飯鄉種純系淘汰特性調査試驗(委託)	七五
第五	農具	七五
第六	米麥原種圃及採種圃	七六
一	水稻原種圃	七七
二	水稻第一次採種圃	七八
三	麥原種圃及採種圃	八一



園藝ニ關スル事項		八一
第一	果 樹	八一
一	梨果被袋纏縛材料適否試驗	八二
二	莓石垣栽培試驗	八四
三	見本園	八五
第二	花卉及藥草	八五
第三	蔬 菜	八五
畜産ニ關スル事項		八六
第一	家 畜	八六
一	飼育概況	八六
二	種豚ノ種付	八六
第二	家 禽	八六
一	飼育概況	八六
二	種禽種卵ノ拂下	八六
農藝化學部		八七
第一	肥料ニ關スル試驗	八七
一	窒素質肥料肥効試驗	八七
二	磷酸礬土及アンモホス肥効試驗	八九
三	肥料要素適量試驗	九一

- 四 人造肥料連用試験 九四
- 五 石灰連用試験 九五
- 六 デンヤンデアミド肥効試験 九六
- 七 大豆粕追肥時期試験 九七
- 八 施肥標準試験 九八
- 九 特許肥料肥効試験 一〇一
- 一〇 大正十一年度播種目下調査中ニ屬スル大麥試験項目 一〇二
- 第二 土壤ニ關スル試験 一〇三
- 一 蛇紋岩質土壤ニ對スル肥料要素試験 一〇三
- 二 本場土壤ニ對スル肥料要素試験 一〇四
- 三 志太郡徳山村土壤ニ對スル肥料要素試験 一〇八
- 四 磐田郡下阿多古村土壤ニ對スル肥料要素試験 一一〇
- 五 磐田郡熊村土壤ニ對スル肥料要素試験 一一一
- 六 志太郡稻葉村土壤ニ對スル肥料要素試験及石灰加用試験 一一三
- 七 大正十一年度播種目下調査中ニ屬スル大麥試験項目 一一四
- 第三 委託試験 一一五
- 一 濱名郡富塚村桃肥料委託試験 一一五
- 第四 特殊研究 一一六
- 一 水稻及大麥中ニ含有スル肥料三要素ニ關スル研究 一一六
- 第五 依頼分析及場用分析 一一三

病 蟲 部

- 一 依頼分析 一三三
- 二 場用分析 一三七
- 第六 農産物加工及利用 一三九
- 一 藥草組成分抽出 一三九
- 二 蜜柑酒研究 一四〇
- 三 枇杷、梨、莓等ヲ原料トセル人工酒精飲料ノ研究 一四一
- 第七 施肥標準調査(土性調査) 一四二
- 一 三要素委託試験成績 一四二
- 二 施肥標準委託試験成績 一四四
- 第一 病 害 一六〇
- 一 稻白葉枯病ニ關スル試験及調査 一六〇
- 二 稻萎縮病ニ關スル試験 一六〇
- 三 稻黃化萎縮病ニ關スル試験 一六二
- 四 麥ノ斑葉病及ヒ黑穗病豫防試験 一六六
- 五 七島蘭籠甲病豫防試験 一六六
- 六 茶樹ノ餅病ニ關スル試験 一七三
- 七 柑橘潰瘍病豫防ニ關スル試験(委託試験) 一七八
- 八 桃、柿等ノ病害豫防ニ關スル豫備試験 一八二

九	桃ノ炭疽病豫防試験(委託試験)	一八三
一〇	梨ノ輪紋病及梨樹ノ疣状粗皮病ニ關スル試験	一八七
一一	胡瓜病害豫防ニ關スル試験	一八七
一二	蒟蒻ノ腐敗病ニ關スル試験	一八八
一三	縣内ニ於テ發病ヲ認メタル特殊病害	一八八
一四	野鼠チブス菌ノ培養配付	一八八
第二 害 蟲		
一	稻ニ化螟蟲豫察燈點火調査(各郡委託)	一八九
二	偽瓢蟲驅除試験	一九二
三	販賣驅蟲劑効力比較試験	一九三
第三 梨		
一	梨姫心喰ニ關スル調査研究	一九七
二	桃心喰蟲ノ名稱調査	一九七
三	雌雄ノ割合調査	一九八
四	成蟲ノ生存期	一九八
五	梨果ニ於ケル梨姫心喰蛾ノ産卵位置	一九九
六	一果面ノ卵粒數	二〇〇
七	梨姫心喰蟲ノ侵入狀況	二〇〇
八	侵入口位置調査	二〇〇
九	蛹 期	二〇〇
九	袋掛ケ試験	二〇三

茶 業 部

一〇	ばんど(捲附法)試験	二〇三
一一	藥劑撒布試験	二〇五
一二	燈火誘殺法	二〇八
一三	色硝子使用誘蛾燈試験	二一一
一四	食餌誘殺試験	二一一
一五	天敵ニ關スル調査	二一一
第四 農商務省委託試験調査ニ關スル事項		
一	べたりや瓢蟲飼育配付	二二四
二	いせりや介殼蟲分布發生狀況	二二四
三	二化螟蟲ニ關スル調査	二二四
四	ルビ一蠟蟲天敵ニ關スル調査	二二五
五	瓜守ニ關スル試験	二二八
六	べたりあ瓢蟲配付	二二八
茶 業 部		
第一 茶樹栽培ニ關スル試験		
耕 種 梗 概		
一	貯藏種子發芽試験	二二二
二	播種時期試験	二二三
三	挿木試験	二二五

四	摘採回数試驗	二二七
五	晚芽摘採試驗	二二九
六	摘採時期試驗	二二九
七	摘採缺使用試驗	二三二
八	剪技時期試驗	二三五
九	播種法試驗	二三七
一〇	茶園間作綠肥試驗成績	二三七
一一	茶芽伸育調査	二三八
一二	窒素用量試驗	二四〇
一三	基肥時期試驗	二四三
一四	加里用量試驗	二四五
一五	磷酸用量試驗	二四六
一六	肥料種類試驗	二四七
一七	石灰加用試驗	二四九
第二	委託試驗	二五〇
一	耕耘對施肥法試驗	二五一
第三	綠茶製造ニ關スル試驗	二五一
甲	手採製ノ部	二五一
一	茶葉ノ蒸熱試驗	二五一
二	優良茶製造試驗	二五四

三	品質ヲ損セズシテ製造能率ヲ増進セシムル手採製法	二五四
四	雨芽製造試驗	二五七
乙	機械製ノ部	二五七
一	茶葉ノ蒸熱試驗	二五七
二	茶葉揉捻機試驗	二六〇
三	茶葉精揉機試驗	二六一
第四	研究分析	二六七
一	窒素質肥料ト茶葉中ノ窒素磷酸量トノ關係	二六七
二	窒素ノ多少ト茶葉中ノ成分トノ關係	二六八
三	磷酸肥料施用量ト茶葉中磷酸量トノ關係	二六九
四	加里肥料ト茶葉中加里成分トノ關係	二七〇
第五	綠肥種子ノ配布	二七〇
第六	茶業講習	二七一
蔬菜部		二七二
第一	圃場試驗	二七二
一	葱頭捻曲回数試驗	二七二
二	葱頭肥料試驗	二七三
三	菠薐草石灰加用試驗	二七四
四	白菜品種比較試驗及播種時期試驗	二七五

五	早生甘藍品種比較試驗	二七五
六	甘藍假植回数試驗	二七六
第二	木框栽培ニ關スル試驗	二七七
一	醱熟材料試驗	二七七
二	茄子品種比較試驗	二七八
三	茄子整枝摘心試驗	二七九
四	茄子栽植株數試驗	二八〇
五	南瓜品種比較試驗	二八一
六	菜豆木灰施用量試驗	二八三
第三	温室栽培ニ關スル試驗	二八四
一	胡瓜ニ對スル土壤比較試驗	二八四
二	胡瓜品種比較試驗	二八四
三	蕃茄剪枝試驗	二八六
第四	軟化栽培ニ關スル試驗	二八六
一	里芋軟化方法試驗	二八七
二	種薑取扱試驗	二八七
第五	委託試驗之部	二八八
一	胡蘿蔔人糞尿並ニ種粕用量試驗	二八八
二	甘藷插苗並ニ苗取扱委託試驗	二九〇
三	蘿蔔肥料委託試驗	二九三

四	葱頭肥料委託試驗	二九五
五	里芋植方委託試驗	二九七
六	蕃椒病害防除委託試驗	二九八
七	瓜守防除委託試驗	三〇〇
第六	種苗ノ配付	三〇三
講	習生	三〇四
第一	農事講習生	三〇四
一	本場ノ部	三〇四
二	茶業ノ部	三〇四
第二	委託練習生	二〇四
一	農商務省指定茶業練習生	三〇五
二	茶業組合中央會議所茶業練習生	三〇五
雜	之部	三〇五
第一	職員出張回数	三〇五
第二	文書ノ授受發送件數	三〇六
第三	參觀人員	三〇六
第四	印刷物	三〇七
第五	職員	三〇八

142-250

十一年度正 静岡縣立農事試驗場業務報告

農藝部

種藝ニ關スル事項

第一 水 稻

耕種梗概

特殊ノ試験ヲ除クノ外大體ニ通ズル耕種ノ梗概次ノ如シ。

苗代ノ部

一、整地 馬耕ニ依リ約四寸ノ深サニ冬耕シタル後犁返シテ行ヒ更ニ土塊ヲ細碎シテ地均ヲ行ヒテ肥料ヲ施シ灌水シテ荒搔ヲ爲シ次デ床面四尺ノ短冊形ニ揚床ヲ造リテ播種ノ準備ヲ爲ス。

一、肥料 特殊ノモノヲ除クノ外一坪ニ對スル肥料左ノ如シ。

肥料名	坪當用量	備考
人糞	一升八合	豊凶考照試験
菜種粕	二升五合	品種ニ關スル試験
過磷酸石灰	二升	其他一般
甲 藁	一升	

乙		丙	
人糞	菜種粕	人糞	菜種粕
一升八合	二十五匁	二升七合	五十匁
	二十匁	二升	五十匁
	十匁	二升	十匁
		二升	十匁
		二升	十匁
		二升	十匁
		二升	十匁
		二升	十匁

原種栽培用ノモノ

半陸苗代
(原種栽培其他)

備考、右ノ内糞灰ノミハ床拵ヘノ際ニ施シ其他ハ代掻約一週間前ニ施シ置キタリ。又生育ノ途中ニ於テ肥切ヲ生ジタルガ故ニ右記何レニ對シテモ硫酸安母尼亞ヲ坪五匁ノ割合ニ清水ニ溶解シ如露ヲ以テ撒布追施セリ。

一、選種 粳ハ比重一、一三糶ハ比重一、〇八ノ苦鹽汁水ニテ選種シタリ。

二、浸種 種粳ハ井水ヲ用ヒテ桶浸スルコト七晝夜ニシテ取り出シ水ヲ切りテ播種セリ。浸漬中ハ毎日一回水ヲ更新セリ。

三、播種量 坪當播種量左ノ如シ。

四、豊凶考照試驗

五、品種ニ關スル諸試驗普通耕種法ノ部

六、增收的栽培法ノ部

一、播種期

五月一日

五月二日乃至五日

本田ノ部

豊凶考照試驗、品種ニ關スル諸試驗、原種其他

小割木框

一、整理 休閑地ハ五月中紫雲英栽培地ハ其ノ刈取後牛馬ニ依リ四、五寸ノ深サニ耕起シ塊返シヲ爲シテ土塊ヲ碎キ二毛作地ハ前作物刈取後牛馬ニ依リ鋤キ返シタル後何レモ灌水ヲ行ヒ播秧前ニ至リ馬肥ニテ代掻ヲ行ヒ移植ノ準備ヲ爲ス

一、肥料

配合別	肥料名	反當量	所含三要素	元肥	追肥
普通	堆肥	一七五匁	一、三〇八	一、二〇〇	一、七五匁
	大豆粕	二〇〇	一、三五二	一、三三〇	一、〇〇
	過磷酸石灰(二〇%)	八	一、六〇〇	八	一、〇〇

早稻	肥料							肥料		
	堆肥	紫雲英(乾)	硫酸安母尼亞	大豆粕	鯨粕	過磷酸石灰(20%)	硫酸加里(30%)	計	石灰	硫酸加里(30%)
紫雲英(根部)	堆肥	紫雲英(乾)	硫酸安母尼亞	大豆粕	鯨粕	過磷酸石灰(20%)	硫酸加里(30%)	計	石灰	硫酸加里(30%)
二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
一、五四〇	一、五四〇	一、五七三	一、四〇〇	一、四七三	一、五八八	一、四〇〇	一、二八〇	四、三四四	一、五七三	一、二七〇
一、一三五	一、二八〇	一、一三五	一、〇八二	一、〇八二	一、三五七	一、四〇〇	一、一三五	三、八九四	一、二九三	二、九五三
一、四七五	一、七八〇	一、四七五	一、二六〇	一、二六〇	一、〇三五	一、九〇〇	一、七八〇	四、二〇六	二、二七六	三、六〇〇
二九〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
										一、二〇〇

備考、原種決定試験、純系淘汰收量比較試験等ノ多收穫の栽培法區ニハ前記ノ多肥料(早稻ニハ早稻多肥料)ヲ用ヒ該試験ノ普通栽培法區及ビ其他ノ試験ニハ前記ノ普通肥料ヲ用ヒタリ。

一、播秧期
六月 二十 日 豊凶考照試験
同 月 二十 日 品種別直播移植比較試験
同 月 二十四日乃至二十七日 其他一般
一、一坪株數及一株苗數 特殊ノモノヲ除クノ外左ノ如シ。

早稻收量試験	肥料							肥料		
	堆肥	紫雲英(乾)	硫酸安母尼亞	大豆粕	鯨粕	過磷酸石灰(20%)	硫酸加里(30%)	計	石灰	硫酸加里(30%)
普通栽培法區	堆肥	紫雲英(乾)	硫酸安母尼亞	大豆粕	鯨粕	過磷酸石灰(20%)	硫酸加里(30%)	計	石灰	硫酸加里(30%)
一 尺	一 尺	一 尺	一 尺	一 尺	一 尺	一 尺	一 尺	一 尺	一 尺	一 尺
六寸六分七厘	六寸六分七厘	六寸六分七厘	六寸六分七厘	六寸六分七厘	六寸六分七厘	六寸六分七厘	六寸六分七厘	六寸六分七厘	六寸六分七厘	六寸六分七厘
五十四株	六十株	六十株	六十株	六十株	六十株	六十株	六十株	六十株	六十株	六十株
三本	四本	四本	四本	四本	四本	四本	四本	四本	四本	四本

中晚稻	收穫量試驗	一	尺	六寸六分七厘	五十四株	三	本
一本植	<small>原種 純系淘汰特性調查試驗 其人工交配他種同</small>	一	尺	六寸六分七厘 六寸六分七厘	五十四株 三十四株	一	本

但シ豊凶考照試驗其他特殊ノモノハ之ト異ナル。

一、除草

- 一番除草(蟹爪打) 七月上旬
- 蟹爪直シ 同 中旬
- 二番除草 同 下旬
- 三番除草 同 下旬
- 四番除草 八月下旬

但シ早稻又ハ試驗ノ種類ニ依リテハ除草ノ回数又ハ時期ニ相異アリ。

甲、品種ニ關スル試驗

一 原種決定試驗

本試驗ハ本縣下ニ原種トシテ普及セシム可キ品種ヲ選定スルヲ以テ目的トシ數年來ノ繼續ニ係レリ供試品種ハ農商務省農事試驗場畿内支場及他府縣立農事試驗場ノ育成セルモノニシテ當場ニ於ケル從來ノ試驗成績比較的良好ナルモノ及ビ當場自ラ純系淘汰ヲ行ヒテ育成セルモノ、内成績比較的良好ナリシモノヲ主トシ之ニ比較用ノ在來種ヲモ加フルモノトス。而シテ早稻ノ部及中晚稻ノ部ノ二ニ別テ試驗セリ。

(一) 早稻ノ部

標準區ニハ静岡愛國第一號又ハ特選小丈ヲ用ヒ二區制トシテ試驗セリ。但シ第一區ハ普通栽培法ニ據リ第二區ハ增收の栽培法ニ據レリ。

成績ノ概要左ノ如シ。(縦ノ線ハ田區ノ境界ヲ示スモノトス。但シ畦畔ニ接シテハ三列以上ノ番外ヲ置キタリ)

第一區 (普通栽培法區)

區名	品 種 名	出穂 期	成熟 期	程長	一株 穗數	最長 穗長	實收量	地方更 正收量 百分比	地方更 正換算 收量	玄米 重量	一升 重量	摺 摺量	段當實 收量
1	畿内早生一〇	八月九日	十月十日	二、七六	一五、九	七、一	二、六三三	一〇五、一〇	二、七四五	三九二	八一、六一	一〇八	一九八
2	静岡愛國第一號(標準)	一六	七	七、八九	一三、九	七、二	二、五五六	一〇〇、〇〇	二、六一二	三九二	八一、四四	九七	九七
3	畿内早生二二	二二	一一	三、〇一	一七、八	七、一	三、〇五六	一一五、一七	三、〇〇八	三八七	八一、七〇	一一三	一一三
4	畿内早生七〇	一九	一一	三、〇五	一七、六	六、七	三、二四五	一二四、九四	三、二六三	三八六	八一、六〇	一三六	一三六
5	静岡、愛、一(標準)	一七	五	二、八四	一四、〇	七、一	二、六八二	一〇〇、〇〇	二、六一二	三九二	八一、九五	九九	九九
6	畿早一五六	二三	一一	三、〇八	一八、〇	六、四	二、九二四	一〇九、九八	二、八七三	三九一	八一、〇五	一三四	一三四
7	愛國在來	一七	九	三、〇六	一二、八	七、〇	二、五四六	九五、六二	二、四九八	三九三	八一、二四	一一一	一一一
8	静岡、愛、一(標準)	一六	九	二、八二	一三、〇	七、四	二、六五四	一〇〇、〇〇	二、六一二	三九四	八一、八四	一〇三	一〇三

第二區 (增收的栽培法區)

區名	品 種 名	出 穗 期	成 熟 期	程 長	一 株 穗 數	最 長 穗 長	實 收 量	玄米段當收量	玄米	一 升 重 量	步 摺 量	合 收 量	段 當 量
1	靜岡愛國第一號 (標準)	八、 ^期 一六、 ^日 二〇、 ^日 五	二、 ^日 〇四	二、 ^尺 〇四	一、 ^本 四	七、 ^寸 三	二、 ^市 四八四	二、 ^市 四八四	三、 ^市 九二	八、 ^市 九八	二、 ^市 四	二、 ^市 四	二、 ^市 四
18	靜、愛、一	一、 ^日 七	八、 ^日 三	三、 ^尺 〇四	二、 ^本 八	七、 ^寸 〇	二、 ^市 四七〇	二、 ^市 四七〇	三、 ^市 九四	八、 ^市 三	二、 ^市 六	二、 ^市 六	二、 ^市 六
17	特選小丈 (標準)	一、 ^日 五	八、 ^日 〇	二、 ^尺 九〇	二、 ^本 〇	六、 ^寸 九	二、 ^市 一〇四	二、 ^市 一〇四	三、 ^市 九二	八、 ^市 七	二、 ^市 六	二、 ^市 六	二、 ^市 六
16	小 丈 八 六	一、 ^日 九	一、 ^日 二	二、 ^尺 七四	二、 ^本 二	六、 ^寸 七	二、 ^市 六八四	二、 ^市 六八四	三、 ^市 八八	八、 ^市 六	二、 ^市 八	二、 ^市 八	二、 ^市 八
15	靜 小 丈 一	一、 ^日 六	一、 ^日 〇	二、 ^尺 八五	一、 ^本 四	六、 ^寸 四	二、 ^市 五九二	二、 ^市 五九二	三、 ^市 九一	八、 ^市 二	二、 ^市 三	二、 ^市 三	二、 ^市 三
14	特選小丈 (標準)	一、 ^日 五	一、 ^日 〇	三、 ^尺 〇六	一、 ^本 三	六、 ^寸 六	二、 ^市 三三〇	二、 ^市 三三〇	三、 ^市 八八	八、 ^市 二	二、 ^市 三	二、 ^市 三	二、 ^市 三
13	小 丈 六 七	一、 ^日 五	一、 ^日 〇	二、 ^尺 八四	一、 ^本 三	六、 ^寸 四	二、 ^市 二一三	二、 ^市 二一三	三、 ^市 九二	八、 ^市 二	二、 ^市 八	二、 ^市 八	二、 ^市 八
12	愛 國 五 九	一、 ^日 六	一、 ^日 〇	二、 ^尺 九五	一、 ^本 二	七、 ^寸 二	二、 ^市 四四七	二、 ^市 四四七	三、 ^市 九七	八、 ^市 三	二、 ^市 七	二、 ^市 七	二、 ^市 七
11	靜、愛、一 (標準)	一、 ^日 七	一、 ^日 五	二、 ^尺 八五	一、 ^本 四	六、 ^寸 七	二、 ^市 六二八	二、 ^市 六二八	三、 ^市 九四	八、 ^市 四	二、 ^市 〇	二、 ^市 〇	二、 ^市 〇
10	早 神 力 〇 九	一、 ^日 二	一、 ^日 二	二、 ^尺 六九	二、 ^本 〇	六、 ^寸 六	三、 ^市 二九二	三、 ^市 二九二	三、 ^市 九四	八、 ^市 三	二、 ^市 五	二、 ^市 五	二、 ^市 五
9	畿 早 六 九	一、 ^日 〇	一、 ^日 二	二、 ^尺 七二	一、 ^本 六	六、 ^寸 六	二、 ^市 八八八	二、 ^市 八八八	三、 ^市 九五	八、 ^市 二	二、 ^市 六	二、 ^市 六	二、 ^市 六

2	小 丈 八 六	一、 ^日 九	一、 ^日 〇	三、 ^尺 〇九	二、 ^本 八	七、 ^寸 〇	二、 ^市 三三七	二、 ^市 三三七	三、 ^市 九二	八、 ^市 六	二、 ^市 九	二、 ^市 九	二、 ^市 九
3	靜 岡 小 丈 一 號	一、 ^日 五	一、 ^日 〇	六、 ^尺 三〇	一、 ^本 六	六、 ^寸 八	二、 ^市 一九九	二、 ^市 一九九	三、 ^市 九三	八、 ^市 二	二、 ^市 四	二、 ^市 四	二、 ^市 四
4	靜、愛、一 (標準)	一、 ^日 六	一、 ^日 〇	五、 ^尺 三〇	一、 ^本 三	七、 ^寸 〇	二、 ^市 三四三	二、 ^市 三四三	三、 ^市 九三	八、 ^市 二	二、 ^市 五	二、 ^市 五	二、 ^市 五
5	畿 內 早 生 一 〇	一、 ^日 八	一、 ^日 〇	六、 ^尺 二四	一、 ^本 七	七、 ^寸 三	二、 ^市 一三三	二、 ^市 一三三	三、 ^市 八七	八、 ^市 〇	二、 ^市 三	二、 ^市 三	二、 ^市 三
6	早 神 力 〇 九	一、 ^日 九	一、 ^日 〇	二、 ^尺 七〇	一、 ^本 七	七、 ^寸 一	二、 ^市 二三五	二、 ^市 二三五	三、 ^市 八七	八、 ^市 〇	二、 ^市 九	二、 ^市 九	二、 ^市 九
7	靜、愛、一 (標準)	一、 ^日 五	一、 ^日 〇	三、 ^尺 二九	一、 ^本 三	六、 ^寸 九	二、 ^市 四四五	二、 ^市 四四五	三、 ^市 九四	八、 ^市 一	二、 ^市 〇	二、 ^市 〇	二、 ^市 〇
8	畿 早 二 二	一、 ^日 八	一、 ^日 〇	二、 ^尺 九四	一、 ^本 七	七、 ^寸 〇	二、 ^市 九一五	二、 ^市 九一五	三、 ^市 〇五	八、 ^市 〇	二、 ^市 五	二、 ^市 五	二、 ^市 五
9	畿 早 一 五 六	一、 ^日 三	一、 ^日 〇	一、 ^尺 三〇	一、 ^本 七	七、 ^寸 一	三、 ^市 一九四	三、 ^市 一九四	三、 ^市 〇五	八、 ^市 〇	二、 ^市 八	二、 ^市 八	二、 ^市 八
10	靜、愛、一 (標準)	一、 ^日 五	一、 ^日 〇	二、 ^尺 九九	一、 ^本 三	七、 ^寸 五	二、 ^市 五二〇	二、 ^市 五二〇	三、 ^市 〇八	八、 ^市 一	二、 ^市 七	二、 ^市 七	二、 ^市 七
11	畿 早 七 〇	一、 ^日 九	一、 ^日 〇	一、 ^尺 三〇	一、 ^本 七	七、 ^寸 三	三、 ^市 一三二	三、 ^市 一三二	三、 ^市 〇八	八、 ^市 一	二、 ^市 七	二、 ^市 七	二、 ^市 七
12	畿 早 六 九	一、 ^日 八	一、 ^日 〇	二、 ^尺 八九	一、 ^本 七	六、 ^寸 七	二、 ^市 七九五	二、 ^市 七九五	三、 ^市 〇六	八、 ^市 二	二、 ^市 八	二、 ^市 八	二、 ^市 八
13	靜、愛、一 (標準)	一、 ^日 六	一、 ^日 〇	五、 ^尺 〇一	一、 ^本 八	七、 ^寸 一	二、 ^市 七五〇	二、 ^市 七五〇	三、 ^市 〇二	八、 ^市 二	二、 ^市 五	二、 ^市 五	二、 ^市 五

備考、右表中「地方更正收量百分比」トアルハ標準區ノ收量ニ依リ地方ノ相異ヲ更正シ標準區ノ收量ヲ一〇〇、〇〇トシテ各品種ノ收量百分比ヲ表ハシタルモノ、又「地方更正換算收量」トアルハ各種標準區ノ平均實收量ヲ基準トシ收量百分比ニ據リテ地方更正收量ヲ換算セルモノナリ。以下之ニ準ズ。右ノ内愛國五九ハ累年試験ノ結果收量ニ於テハ靜岡愛國第一號ニ比シ僅ニ優レルコト屢々アリシモ

草丈其他ノ性質之ニ劣ルモノト認メタルガ故ニ本年限り廢棄スルコト、シ其他ハ更ニ試験ヲ繼續スルコト、セリ。

(二) 中晩稻ノ部

三區制ト爲シ第一及第二ノ兩區ハ總テ普通ノ栽培法ニ依リ第三區ハ增收的栽培法ニ依リテ試験シ標準區ニハ大部分愛媛神力ヲ用ヒ豊作選系統ノ部分ニノミハ其在來種ヲ用ヒタリ。
成績ノ概要左ノ如シ。(縦ノ線ハ田區ノ境界ヲ示ス、但シ畦畔ニ接シテハ三列以上ノ番外ヲ置キタリ。)

第一區 (普通栽培法區ノ一)

區名	品 種 名	出穂 始	出穂 期	穂 揃 期	成 熟 期	程 長	一 株 穗 數	最 長 莖 長	米 量	米 重	米 容	米 容	米 容
1	脱粒朝日三	九月五日	九月六日	九月七日	九月十日	二五二、九三、六	六、六	三、〇五〇	三九〇、八八二	九〇六、一	四	一六三	
2	愛媛神力(標準)	九月四日	九月六日	九月七日	九月十日	二五二、九三、六	六、四	三、一九六	三九二、〇八二	四二六、一	一	一六二	
3	神力一七五	九月七	九月八	九月一〇	九月一三	二七二、九三、四	七、一	三、三三七	三八九、五八一	九八六、〇、五	一	一五八	
4	神力二五九	九月四	九月六	九月七	九月一〇	二六二、九六、七、三	六、六	三、三三四	三九一、〇八二	六〇六、〇、四	一	一七〇	
5	愛媛神力(標準)	九月四	九月六	九月七	九月一〇	二五二、九六、七、二	六、二	三、一七五	三九二、〇八二	一三六、〇、六	一	一七一	
6	愛神力〇四〇四	九月三	九月五	九月六	九月九	二五二、九三、七、二	六、四	三、三三一	三九三、〇八二	六七六、二、〇	一	一四九	
7	畿 晚 三三三	九月四	九月五	九月六	九月九	二五二、六六、七、三	六、三	三、三三〇	三九一、〇八二	二六六、一、一	一	一四六	

8	愛媛神力(標準)	九月四	九月五	九月七	九月一〇	二六二、八八、一、六、六	六、三	二、八七三	三九三、〇八一	九五六、〇、六	一	一八一
9	畿 晚 四	九月四	九月五	九月六	九月九	二四二、六七、一、七	五、九	二、九六九	三九四、〇八一	八〇五、八、六	一	一四八
10	畿 晚 五〇	九月四	九月五	九月七	九月一〇	二四二、五三、一、七、〇	六、〇	三、二八一	三八七、五八〇	九八五、六、五	一	一五四
11	愛媛神力(標準)	九月四	九月五	九月六	九月九	二五二、八三、一、七、五	六、二	二、九五四	三九二、五八〇	五四五、八、八	一	一六三
12	磐田朝日三	九月五	九月六	九月七	九月一〇	二六二、八八、一、六、一	六、一	二、八三三	三九二、〇八一	四九六、一、二	一	一五一
13	龜 治 神 力	九月一〇	九月一三	九月一五	九月一八	一三二、五二、九、七、三、三	六、四	三、三二六	三九六、三八三	六〇六、〇、六	一	一七四
14	愛媛神力(標準)	九月四	九月五	九月七	九月一〇	二五二、九一、一、六、七	六、四	三、一四六	三九一、五八一	五五五、六、三	一	一六五
15	富 士	九月二	九月三	九月五	九月八	一五二、二二、八、〇、一、四、八	六、七	三、五四八	三九二、〇八一	四七五、七、九	一	二〇三
16	靜 源 一	九月七	九月八	九月一〇	九月一三	一〇一〇、二八、二、九、二、一、六、八	六、五	三、四一九	三九一、三八二	八〇六、〇、八	一	一九一
17	愛媛神力(標準)	九月四	九月五	九月七	九月一〇	二六三、〇七、一、六、五	六、五	三、一六九	三九三、五八一	七九六、〇、一	一	一七六
18	仙石〇一三〇	九月八	九月九	九月一〇	九月一三	一四二、一四、三、二、四、一、七	七、二	三、三九七	三九七、〇八二	四九五、六、七	一	二二三
19	豊作選七〇	九月一〇	九月一三	九月一五	九月一八	一二三、〇一、一、四、七	六、一	三、三四七	三八八、五八一	五三六、一、八	一	一七五
20	豊作選在來(標準)	九月七	九月九	九月一〇	九月一三	五三、〇九、一、五、六	六、三	三、四七七	三九一、三八一	三〇五、八、八	一	一八〇
21	豊作選八八	九月一〇	九月一三	九月一五	九月一八	一二三、〇八、一、七、一	五、九	三、三三七	三九四、八八一	八〇五、九、三	一	一八四

30	29	28	27	26	25	24
竹成 一七	愛媛神力(標準)	愛竹成在來	竹成 一二	愛媛神力(標準)	神力二五九	神力一七五
三	四	四	五	四	五	八
六	五	五	六	五	六	九
七	六	七	七	七	八	一〇
二四三、二〇二〇、〇	二五三、三三〇、二	二四三、二四一九、二	二三三、三〇一八、〇	二五三、二八二五、〇	二五三、一六二八、八	二八三、二二八、六
六、六	六、五	六、六	六、六	六、六	七、〇	六、九
三、五四七	三、三二九	三、四三八	三、四六八	三、五〇一	三、四一	三、三〇二
三九二、〇八一、七九五、六	三九三、〇八一、四四六、一、三	三九一、三八一、七〇五九、五	三九一、五八二、六二五八、一	三九二、〇八三、〇〇五八、八	三九三、〇八二、七一五九、三	三八九、九八二、三九五八、二
二二〇	二二三	二二七	二二一	二〇六	一九六	一九七

第三區 (增收的栽培法區)

5	4	3	2	1	區名
愛媛神力〇四〇四	愛媛神力(標準)	神力一七五	神力二五九	愛媛神力(標準)	品 種 名
四	三	四	三	九、三	始出穗
六	五	六	四	九、五	期出穗
七	六	七	六	九、六	期穗揃
二五三、一七一八、五	二五三、一九一九、一	二六三、三三六、五	二四三、〇八一八、三	二四三、一五三、一	期成熟
六、五	六、六	七、一	六、八	六、四	株長
三、五七八	三、四四六	三、五二二	三、五五四	三、五七六	穗數
三九一、八八二、三七六、四	三九一、〇八一、四四六、七	三八五、六八〇、七〇五九、五	三九三、五八二、六九六、〇	三九二、五八二、六〇六、二	最長莖
一九二	一六二	一八〇	一八七	一八一	米 初摺歩合

19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6
竹成 一七	愛媛神力(標準)	愛媛竹成(在來)	田 中 錦	愛媛神力(標準)	愛媛神力(標準)	畿内晩生第四號	畿内晩生五〇	愛媛神力(標準)	畿内晩生三三	磐田朝日三號	愛媛神力(標準)	愛媛神力(標準)	脫粒朝日三
五	五	四	五	四	四	三	四	四	四	五	四	三	四
六	六	六	七	六	五	五	五	五	五	七	五	五	六
七	七	七	八	七	六	六	六	六	六	八	七	六	七
二五三、二八一七、一	二六三、二七一九、五	二六三、二〇一六、〇	八一、一三、三五一六、五	二五三、二六一九、六	二七三、二二八、八	二六二、九六一九、九	二六二、八〇一八、七	二六三、一四一九、〇	二七二、九三二八、一	二九三、一六一七、三	二六三、〇八一八、九	二五三、一五一九、一	二五三、二〇一九、七
六、六	六、六	七、九	六、七	六、三	六、六	六、四	六、二	六、〇	六、三	六、三	六、五	六、六	六、七
三、四七四	三、五七四	三、五三七	三、三五二	三、四二四	三、三二八	三、五六〇	三、三九八	三、六三八	三、六九三	三、六二一	三、五五四	三、三九九	三、四七〇
三九一、三八一、八三五九、五	三九三、〇八二、五二六〇、五	三九三、五八二、〇九五九、一	三九四、九八〇、七三六二、三	三九一、五八一、九二六〇、一	三九四、四八一、八〇五九、五	三九三、五八二、三八五八、三	三九二、〇八一、七一五八、六	三九四、四八四、三〇六〇、四	三九一、〇八二、三六六、六	三九一、八八二、九〇六〇、二	三九四、〇八二、二六〇、〇	三九一、〇八一、一六六〇、三	三九一、〇八一、三〇六一、三
一九二	一九〇	二二一	一八一	一九二	一九二	一七六	一九〇	一九一	一七八	一八四	一九六	一九四	一九三

以上三區ノ成績ニ就キ標準區ノ玄米段當實收量ヲ基礎トシテ地力ノ更正ヲ行ヒ標準區ノ收量ヲ一〇〇トシテ各品種ノ收量ヲ百分率ニテ表ハシ且ツ此百分率ヲ基トシテ各區標準區ノ實收量ノ平均ニ依リ各品種ノ換算玄米反當收量ヲ示セバ左表ノ如シ。尚本年度他ノ試驗及既往數年間ノ試驗成績ヲモ附記スベシ。

品 種 名	大 正 十 年 度			大 正 九 年 度		
	第一區 地力更正同換算 玄米收量反當收量 百分率	第二區 換算反當收量 百分率	第三區 換算反當收量 百分率	第一區 畿内品 委託試驗 百分率	第二區 又ハ 三區平均 委託試驗 百分率	第三區 畿内品 委託試驗 百分率
28 愛媛神力(標準)	四	五	七	七〇、二六三、三〇二、〇八	六、五三、三八八	三九、一三八、八〇六、〇二
27 龜治、神力	一〇	一二	一四	八三、五二〇、〇	六、六三、四二六	三八七、五八二、五三七、八
26 仙石〇一三〇	一一	一四	一六	一六一、一四三、五〇三、四	七、四三、三八三	三九二、〇八一、三二五、五二
25 愛媛神力(標準)	五	六	八	八二〇、二六三、五八八、九	六、五三、三六九	三九一、八八二、〇六五、六
24 富 士	一二	一四	一六	一四三、一六二、八、九	六、七三、三五六	三九一、五八一、七七五、六
23 靜 源	八	一〇	一二	一一一、一一、八二九、七	六、六三、二二七	三八四、五八二、二〇六、〇、四
22 愛媛神力(標準)	五	七	八	二七三、二六二、八、四	六、三三、二二六	三九〇、三八一、八八九、五
21 愛媛神力(標準)	四	五	七	二六三、三二九、五	六、五三、四一九	三九一、八八一、九五五、九、八
20 竹 成 一 二	五	六	七	二四三、三四一、六、四	六、五三、四七五	三九一、三八二、六七五、九、八

愛媛神力(標準)	100,000	111,100	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
脱粒朝日三	九五,三三三、九六三	一〇二、六八三、三四二、〇一	六三三、四九六						九九、六七
神力一七五	九八、三七三、〇六〇	九七、五三三、一七四	一〇〇、六五三、四六二						一〇八、七六
神力二五九	一〇四、七三三、三六〇	九九、〇五三、三四一	一〇〇、六〇三、四六一						一〇一、六六
愛媛神力四〇四	一〇一、九三三、一七三	一〇二、〇八三、三三三	一〇四、三三三、五八八						一〇一、二〇
畿内晩生齒號	一〇二、三八三、一八五	九七、七〇三、一八〇	一〇三、九六三、五七六						一〇五、三七
畿内晩生五〇	一一二、〇九三、四八七	一一三、六四三、六九九	九六、二三三、三二〇						一〇三、三一
磐田朝日三號	九四、七〇二、九四六		一〇一、〇九三、四七七						九六、九三
龜治、神力	一〇五、六六三、二八七	一〇六、九五三、四八一	一〇一、三三三、四八五						
富 士	一一二、五〇三、五〇〇	一〇四、八〇三、四二一	一〇一、〇四三、四七六						
静岡源一本第二號	一〇八、一五三、三六五	一一三、五四三、六九六	九八、五七三、三九一						
仙石〇一三〇	一〇六、九三三、三七七	九〇、〇四二、九三二	一〇〇、二三三、四四八						
豊作選七〇	一〇一、五四三、一五九	一一三、一三三、六五〇	一〇七、四二二、六九五						
豊作選八八	九八、六〇三、〇六七	一一一、九八四、二九六	一〇四、四三三、五九二						
豊作選一一五 (豊穂一號)	一一二、三三三、四九四	一一一、九九三、六四五	一一〇、三八三、七九七						

豊作選在來種	105,703,288	104,433,400	104,943,610						
畿内晩生三三三	101,433,109	106,733,473	101,363,487	101,442,576					
竹成一二		100,733,276	100,233,444						
竹成一七		108,433,576	98,633,394						
愛媛竹成		101,533,304	100,373,453						
田中錦			96,433,328						

以上ノ内豊作選一五ハ在來ノ豊作選(安倍郡麻機村ノ原産ニシテ麻機選、望月選、岩科選又ハ瑞穂等ノ別名アリ)ニ就キ大正六年度以來當場ニ於テ純系淘汰ヲ行ヒ育成シタル純系ニシテ分離系統百二十ノ内累年ノ成績最モ佳良ナルガ故ニ新ニ豊穂一號ナル名稱ヲ付シ大正十二年度ヨリ原種ノ内ニ加フルコト、セリ。其特性ハ在來ノ豊作選ニ比シ大ニ異ナリ成熟二三日早ク葉ノ色稍淡クシテ稍廣ク稈長稍低クレドモ穂ハ僅ニ大ナリ。而シテ籾先豊作選ト異ナリテ成熟後モ褐色ヲ呈セズ無芒ナレドモ稈毛稍多キガ如ク粒形米質共ニ中位ニ屬ス。豊作選在來種ニ對スル増収率ヲ示セバ左表ノ如シ。

大正九年	第一區	九,九八	第二區	七,五一	第一區	七,六六	第二區	二,三九	第一區	六,二七	第二區	七,二二	第三區	五,一八
------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------

尙前記ノ品種中脱粒朝日三、神力一七五、神力二五九、愛媛神力〇四〇四、豊作選七〇、竹成一二及ビ田中錦ノ七種ハ累年ノ試験ノ結果大ナル見込無キモノ又ハ現在獎勵品種ニ比シ劣ルトモ優ルコト

無キモノト認メタルニ依リ本年度限り本試験ヨリ除クコト、シ其他ハ更ニ繼續シテ試験セントス。

一 農商務省農事試験場畿内支場
育成品種比較試験

本試験ノ目的ハ農事試験場畿内支場育成ノモノ及他府縣立農事試験場育成ノ新品種ニ就キ比較試験シ有望ナルモノハ次年度之ヲ原種決定試験ニ編入セントスルモノナリ。耕種ハ總テ普通ノ方法ニ據リ一區制ト爲シ標準區ニハ中稻ノ早キモノニ對シテハ富士中神力其他ニ對シテハ愛媛神力ヲ用ヒタリ。試験成績ノ概要左ノ如シ。(縦ノ線ハ田區ノ境界ヲ示ス。但シ畦畔ニ接シテハ三列以上ノ番外ヲ置ク)

區名	品種名	出穂期	成熟期	稈長	一株穗數	穗莖最長	實收量	玄米段當收量		玄米		容積量	段莖當量
								正收量	百分比	重量	重量		
1	畿晚三二	九、六日	九、六日	三、一四七	六、七三	六、七三	九六、二七三	〇、一九三	四、八一	六、六	一、六八		
2	愛媛神力(標準)	六、二四	六、二四	三、〇四八	六、三三	六、三三	一〇〇、〇〇三	一、四六三	五、八二	六、〇	一、五		
3	畿晚三三	六、二六	六、二六	二、七二七	六、七三	六、七三	一〇一、四四三	一、九一三	五、八二	六、一	一、五		
4	畿晚一〇三	五、二六	五、二六	二、七二七	六、四二	六、四二	九、四七三	〇、〇三三	三、九三	〇、八一	四、七		
5	愛媛神力(標準)	五、二五	五、二五	二、九二六	六、三二	六、三二	一〇〇、〇〇三	一、四六三	三、九三	〇、八一	四、七		

19	兵庫新山田穂一	八、三〇	二四	三、七〇	一、七	六、九二	四、三二	八二、五二	四、三九〇、七五	五七、五	二二
18	畿 晚 八	六	二五	三、〇七	一、七五	六、二二	三、二〇	九三、七二	九、四九三、九五	六〇、四	一七四
17	愛媛神力(標準)	六	二四	三、〇七	一、八一	六、四三	三、五二	一〇〇、〇三	一、四三九、二五	五八、三	一六九
16	畿 晚 一 九 二	六	二八	三、二五	一、五三	六、二二	三、〇一	一〇一、〇三	一、七七三、九六	六〇、四	二二
15	畿 晚 一 八 四	四	二四	二、八七	一、七四	六、六三	〇、九七	九七、二〇	〇、五八三、九四	五九、五	一六七
14	愛媛神力(標準)	五	二五	二、九七	一、七〇	六、三三	一、〇四	一〇〇、〇三	一、四六三、九三	六二、二	一六四
13	畿 晚 一 七 一	六	二六	二、九二	一、五八	六、三三	三、六二	一〇〇、四三	四、七三九、二	五八、八	一八〇
12	畿 晚 一 六 三	五	二六	三、〇〇	一、五八	六、一三	三、二九	九六、七三	〇、四四三、九四	六二、五	一八七
11	愛媛神力(標準)	五	二六	三、〇二	一、八一	六、四三	三、六二	一〇〇、〇三	一、四六三、九三	五九、八	一六〇
10	畿 晚 一 〇 一	五	二七	三、〇四	一、八〇	六、七三	三、二一	一〇〇、二八	三、一五三、九二	五九、三	一六八
9	畿 晚 五 〇	五	二六	二、九八	一、五五	六、三三	二、六六	一〇四、七七	三、二九六、三三	五六、〇	一六三
8	愛媛神力(標準)	五	二六	二、九四	一、九七	六、三三	〇、三三	一〇〇、〇三	一、四六三、九一	六〇、六	一五五
7	畿 晚 四	四	二四	二、七六	一、七九	六、二二	三、〇六	一〇三、六〇	三、二五九、三九	五八、七	一五〇
6	畿 晚 一 六 八	六	二八	三、〇三	一、八一	六、七三	三、二二	一〇四、六三	五、七三九、二	六〇、二	一六二

24	神奈川 關取六	二六	二六	二、八六	一、七	六、八六	六、雀害多カリシニ就キ省略ス			一七六
23	富士中神(標準)	三二	二二	二、九五	一、九	六、七二	九、六二	〇、〇二	九、三三	一八七
22	畿 中 二 四	八、三二	二三	三、四一	一、五七	一、雀害多カリシニ就キ省略ス				二二
21	畿 中 二 二	九、一	二四	二、八八	一、五六	六、六三	〇、七二	〇、四四	三、〇六	一七八
20	富士中神(標準)	三〇	一九	二、九二	一、八一	六、八二	九、四三	一〇〇、〇二	九、三九	一八七

以上ノ試験成績並ニ既往ノ試験成績ニ依リ右ノ内畿内晩生一〇三、同一八四、同八、兵庫新山田穂一(四種共収量劣ル)及ビ畿内晩生一六八、同一六三(二種共ニ形質未ダ固定セズ)ノ六種ハ見込無キモノト認メ本年度限り廢棄シ其他ハ更ニ試験ヲ繼續スルコト、ス。

二 普通品種比較試験

本試験ノ目的ハ一般ニ優良視セラレテ縣内ニ相當普及シツ、アル在來品種其他ヲ蒐集シテ比較試験シ品種改良研究上ノ參考資料ト爲シ有望ナル品種ニ對シテハ純系淘汰ヲ施行シテ更ニ改良スルコト有ル可キモノトス。而シテ本年度ハ前年來繼續試験セル本縣晩生粳種ノ主ナル品種ニ就テ引續キ試験ヲ行フノ外本年新ニ主トシテ縣内各地方ヨリ各種ノ糯稻ヲ蒐集シ比較試験ヲ行ヒタリ。

試験方法ハ總テ普通ノ耕種方法ニ據リ一區制トシ標準區ニハ粳ノ部ニ静岡源一本第一號糯ノ部ニ晚生畚糯ヲ用ヒタリ。

試験成績ノ概要左表ノ如シ。(縦ノ線ハ田區ノ境界ヲ示ス。但シ畦畔ニ接シテハ三列以上ノ番外ヲ置キタリ)

(一) 梗ノ部

區名	品名	出穂期	成熟期	稈長	一株穂數	最長莖ノ穂長	玄米段當收量	玄米一升ノ重量	糶摺歩合	段莖收量
1	小錦	九月七日	九月廿六日	三、一七、九	六、五三、四一五	九六、八七三	三九六、三九〇	三八二、二五	五、六、九	一、六、六
2	静岡源一本第一號(標準)	八月	八月廿七	三、〇七、一〇	六、五三、五七	一〇〇、〇〇三	五〇六、三八七	一八二、二	六〇、二	一、八、六
3	仁田雄町	七月	七月廿六	三、二四、六	六、八三、二四六	九二、〇三三	二七三、九一〇	〇八二、〇〇	五九、一	一、八、〇
4	種井戸	七月	七月廿六	三、〇九、二、六	五、八三、四八	九七、二〇三	四〇八、三九一	〇八二、四六	六〇、四	一、八、七
5	静岡源、一(標準)	八月	八月廿八	三、〇〇、二、七	六、四三、五〇	一〇〇、〇〇三	五〇六、三八四	九八一、五四	五九、五	一、九、六
6	田中錦	七月、三	七月、二八	三、二二、八、二	六、三三、五六〇	一〇一、六七三	五六五、三三	四八〇、〇七	五四、九	一、八、三
7	藤花	八月	八月廿七	三、一〇、二、七	六、五三、五〇七	一〇〇、九六三	五四〇、三八七	八八一、三八	五八、一	一、七、四
8	静岡源、一(標準)	八月	八月廿八	三、〇〇、二、七	六、一三、四四五	一〇〇、〇〇三	五〇六、三八四	五八一、三一	五八、一	一、八、六
9	赤曙	八月	八月廿五	三、二六、二、二	六、四三、二二三	九四、九四三	三九三、九五	五八二、七〇	六一、〇	一、六、八
10	赤穂	九月	九月二	三、一五、七、三	五、八二、八四	八四、一三二	九五〇、三八八	八八一、〇五	五九、七	一、六、一
11	静岡源、一(標準)	七月、二六	七月、二一	二、七二、二、六	六、二二、二九	六、二二、二九	五〇六、三九六	八八二、五八	五九、四	一、七、二

(二) 糯ノ部

以上ノ成績、既往ノ試験成績並ニ立毛状態其他ニ依リ前記品種中小錦、仁田雄町、晚白笹ノ三品種ハ見込ナキモノトシ本年度限リ除外スルコト、ス。

區名	品名	出穂期	成熟期	稈長	一株穂數	最長莖ノ穂長	玄米段當收量	玄米一升ノ重量	糶摺歩合	段莖收量
12	豊作選	八月	八月廿六	三、一七、二、六	五、九三、二二三	九三、八三三	二九〇、三八八	五八一、二七	六一、七	一、七、〇
13	仁田雄町	七月	七月廿七	三、一七、二、五、九	六、五三、一七一	八九、二二三	二八三、九二	〇八二、〇七	五七、九	一、八、一
14	静岡源、一(標準)	八月	八月廿七	二、九二、八、四	六、〇三、六八三	一〇〇、〇〇三	五〇六、三八七	五八一、四七	六〇、一	一、九、二
15	富士	八月	八月廿六	二、八五、一、〇	六、二二、四三	九四、〇〇三	二九六、三九一	五八一、五〇	五八、五	一、七、八
16	晚白笹	八月	八月廿六	三、二二、六、六	六、〇三、二七四	九〇、九五三	一八九、三九三	五八一、四〇	五七、四	一、七、三
17	静岡源、一(標準)	七月	七月廿七	二、五八、二、二	六、二二、五五八	一〇〇、〇〇三	五〇六、三九〇	三八二、八〇	六〇、四	一、八、六
18	高野坊主	八月	八月廿四	二、七五、一、四、九	四、八三、六〇六	一一二、五五三	五九五、三二	八八〇、七五	五六、七	一、七、四
1	黒糯	九月、七、二、一	九月、二、一	三、五、一、八、六	六、二、二、五、八	七六、七、四、二	四四八、三七七	五七九、六七	五五、二	一、八、一
2	春糯(標準)	八月、二、三	八月、二、三	二、八、五、二、三	五、八三、二〇七	一〇〇、〇〇三	一〇九、三八四	五七九、〇四	五五、二	一、八、二

及ビキミタ糯ノ八種ハ見込無キモノト認メ本年度限り本試験ヨリ除外スルコト、シ其他ノ品種ニ就テハ更ニ試験ヲ繼續セントス。

四 朝日純系淘汰收量比較試験

本種ハ明治三十年代磐田郡向笠村ノ精農家青島角太郎氏ノ神力ヨリ選出育成シタル品種ニシテ遠州中部地方ニ廣ク普及シ其内磐田郡農會ガ純系淘汰ヲ行ヒテ選抜シタル磐田朝日三號ハ當場ニ於ケル試驗成績亦佳良ナリシヲ以テ大正十年年度ヨリ原種ノ内ニ加ヘテ縣下ニ獎勵シツ、アレドモ別ニ當場ハ自ラ朝日在來種ノ改良ヲ行ハン目的ヲ以テ大正六年度磐田及周智ノ二郡ヨリ種子ヲ取寄セテ栽培セル約八千株ノ内ヨリ二百四十餘株ヲ選抜シテ七、八兩年度特性調査試驗ヲ施行シ順次淘汰ノ結果二十八系ト爲シ之ニ就キ九、十兩年度收量比較試驗ヲ施行シテ更ニ順次淘汰ヲ行ヒ有望ナルモノ八系統ヲ殘シタリ。因テ本年度ハ之等ニ就キ更ニ收量比較試驗ヲ繰リ返シテ精査ヲ行ヒ磐田朝日三號ニ優ル可キ良型ヲ選定セントスルモノナリ。

試驗ノ方法ハ二區制トナシ第一區ハ總テ普通ノ耕種方法ニ據リ第二區ハ增收的栽培法ニ據リ何レモ磐田朝日三號ヲ標準區ニ用ヒテ試驗ンナリ。

第一區 (普通栽培法區)

區名	系統名	出穗期	成熟期	稈長	一株最長	實收量	玄米	糶摺歩合	段莖
1	一	九、七、日	一〇、二、日	三、〇、一、尺	六、二、三、寸	一〇、五、七、石	三、九、一、八、八、二、〇、五、七、九	一、七、七、七、九	一、七、七

區名	系統名	出穗期	成熟期	稈長	一株最長	實收量	玄米	糶摺歩合	段莖
2	磐、朝、三(標準)	六	六	三、〇、六、一、七、五	六、三、三、三、三	一〇、〇、〇、三、三	三、八、九、三、八、七、五、八、一、五、四、六、〇、八、五	一、七、五	
3	二一	六	六	三、〇、一、六、一	六、六、三、二、九、五	九、九、六、三、三	三、七、三、八、七、五、八、一、七、三、六、〇、六、四	一、八、三	
4	四一	六	六	三、〇、一、八、七	六、三、三、三、三	一〇、一、〇、三、三	四、六、〇、三、八、九、九、八、二、五、一、五、九、〇、四	一、八、八	
5	磐、朝、三(標準)	五	五	三、〇、六、六、九	六、三、三、二、七、八	一〇、〇、〇、三、三	三、八、九、三、八、七、五、八、一、八、九、六、一、六、五	一、八、五	
6	六五	六	六	三、〇、〇、一、七、四	六、四、三、〇、五、〇	九、三、四、六、三	一、六、七、三、九、二、八、八、二、六、七、六、〇、四、一	一、八、一	
7	八二	九	七	三、一、二、八、三	六、一、三、六、五、一、〇、九	一、二、三、五、九、八	三、九、八、〇、八、一、九、一、五、七、〇、一	二、〇、〇	
8	磐、朝、三(標準)	七	七	三、一、九、八、一	六、三、三、三、七、八	一〇、〇、〇、三、三	三、八、九、三、九、〇、六、八、一、八、八、五、九、九、四	一、八、四	
9	一二五	九	七	三、〇、四、一、八、六	六、四、三、六、二、一	一〇、五、一、九、三	五、六、五、三、八、四、九、八、一、八、一、五、九、三、一	一、九、九	
10	一四五	八	八	三、〇、四、二、九	六、〇、三、三、九、七	九、六、七、四、三	二、七、九、三、九、一、〇、八、一、七、五、五、七、二、八	一、九、三	
11	磐、朝、三(標準)	六	六	三、三、三、八、八	六、四、三、五、八、一	一〇、〇、〇、三、三	三、八、九、三、八、八、五、八、〇、五、二、六、〇、〇、〇	一、九、一	
12	一九三	九	七	三、三、八、一、七、八	六、八、三、二、九、三	九、〇、二、一、三	〇、五、七、三、八、四、九、八、〇、五、一、五、六、四、七	二、〇、六	

第二區 (增收的栽培法區)

區名	系統名	出穗期	成熟期	稈長	一株最長	實收量	玄米	糶摺歩合	段莖
1	磐、朝、三(標準)	九、五、日	一〇、二、五、日	二、九、八、一、五、九	六、七、三、五	一〇、〇、〇、〇、三、三	二、五、八、三、九、〇、三、八、一、八、七、六、〇、七、四	一、七、三	

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2
磐、朝、三(標準)	六五	二一	磐、朝、三(標準)	一	八二	磐、朝、三(標準)	磐、朝、三(標準)	一二五	四一	磐、朝、三(標準)	一四五	一九三
六	六	六	五	八	八	六	五	七	六	五	五	八
二六	二六	二七	二五	二七	二七	二六	二四	二五	二六	二六	二五	二七
三、三、二九〇	三、一七八、九	三、一八八、三	三、一七八、二	三、〇七二、八、三	二、九六一、八、六	三、〇六一、六、七	三、一七、六	二、九一六、六	二、九五七、七	三、〇三八、五	二、九九九、三	三、二四一、六、八
六、〇三、三九八	六、一三、四一〇	六、三三、三七六	六、三三、四四一	六、二三、三三九	六、一三、五〇二	六、五三、三五〇	六、三三、二四〇	六、三三、一五八	六、二三、三六二	六、四三、〇七六	五、九三、三四五	六、七三、一五四
一〇〇、〇〇三	九九、九〇三	九六、九三三	一〇〇、〇〇三	九七、五五三	九七、三三、三七四	一〇〇、〇〇三	一〇〇、〇〇三	九九、一四三	一〇六、二四三	一〇〇、〇〇三	一〇九、一七三	一〇三、三四三
二、五八、三八六	二、五五、三八八	一、五八、三八七	二、五八、三九一	一、七八、三八五	三、七四、三八八	二、五八、三八九	二、五八、三八六	二、三〇、三八三	二、四三、四六一	二、五八、三八七	五、五七、三九〇	三、六七、三八六
五八六、九五	六五六、三九	五〇六、二四	三、八二、〇六一	五〇五、〇七	六五五、八、五七	三、八二、〇六一	七六六、〇七九	〇六六、五四	六八二、一六五、五九	六八二、一六五、五九	三、八二、〇六一	六八〇、四八、五七、六一
二〇八	二二〇	二〇五	二〇四	一九四	一八七	一七六	一九三	一八四	一八七	一八一	一八五	二〇〇

尙参考ノ爲メ磐田朝日三號ヲ一〇〇トシ各系統ノ地力更正玄米收量百分率累年ノ試験成績ヲ示セバ

左ノ如シ。

系統名	大正十一年度		大正十年度		大正九年度	
	第一區	第二區	第一區	第二區	第一區	第二區
磐田朝日三號(標準)	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
一	105.70	97.55	107.29	107.74	105.51	107.81
二	99.63	96.93	107.35	104.56	105.79	104.73
四	101.10	106.24	101.41	108.74	100.36	111.01
六	93.46	99.90	104.94	98.72	100.81	101.36
八	109.22	103.57	109.45	104.89	106.10	104.17
一二五	105.19	99.14	103.59	114.70	104.59	104.71
一四五	96.74	109.17	103.28	98.40	104.23	106.87
一九三	90.22	103.34	94.56	101.57	111.10	104.16

以上ノ成績、立毛中ノ形質及米質等ニ鑑ミ右ノ内六五(二一ト共ニ磐田朝日三號型ニシテ二一ニ比シ收量劣ル)、八二(一ト共ニ僅ニ芒ヲ生シ稍大粒ナル型ニシテ一ニ比シ收量劣ル)、一四五(源一本型ノ稍異ナルモノニシテ一二五ノ源一本型ニ比シ收量劣リ米質亦下ル)ノ三系ヲ廢棄シ一九三(收量ハ稍多

クレドモ全然異なる型ナリヲ單ニ種子保存栽培ヲ爲スコト、シ、次年度ハ一、二一、四一及一二五ノ四系ニ就テ更ニ試験ヲ繼續スルコト、ス。

五 富士中神力純系淘汰收量比較試験

本種ハ富士郡平坦部地方ニ於テ相當廣ク栽培セララル、中生神力ニシテ同地方ニ於テ優良視セラレ而モ此當時ノ熟期ナル品種ヲ獎勵種ノ内ニ加フルノ必要アルヲ認メタルガ故ニ本種ノ改良ヲ計畫シ大正七年度原種子ヲ富士郡加島村ヨリ得テ約三千株ヲ單植シ此内ヨリ百〇八株ヲ選抜シ翌八年度特性調査試験ヲ施行シテ淘汰ヲ行ヒ選拔セラレタル二十四系ニ就キ九年度收量比較試験ヲ行ヒタルノ結果淘汰ヲ行ヒテ八系統ヲ殘シタリ。次デ昨十年度ハ圃場ノ都合ニ依リ試験ヲ休止シテ單ニ採種ヲ行ヒタルガ本年度ハ此八系統ニ就キ第二次ノ收量比較試験ヲ行ヒタリ。

試験ハ二區制ト爲シ第一區ハ普通ノ栽培方法、第二區ハ增收的栽培方法ニ據リ何レモ富士中神力在來種ヲ標準區トシテ試験ヲ行ヒタリ。

試驗成績ノ概要次ノ如シ。(但シ縦ノ線ハ田區ノ境界ヲ示ス。畦畔ニ接シテハ三列以上ノ番外ヲ置ク)

第一區 (普通栽培法區)

區名	系統名	出穂期	成熟期	稈長	一株穗數	穗莖ノ最長	實收量	正收量	正換算收量	玄米重量	一升重量	糶摺歩合	容量	段收量	當量
2	富士中神力在來種(標準)	八、三	一五	二、九二九、五	六、六	六、六	一〇〇、〇〇三	一四七、三八四	五八、八八五、七	一五八					
1	二	九、一	一〇、一	二、八八九、九	六、三	六、三	一〇一、二九三	一八八、三八三	四八〇、二四五、三五	一五八					

區名	系統名	出穂期	成熟期	稈長	一株穗數	穗莖ノ最長	實收量	正收量	正換算收量	玄米重量	一升重量	糶摺歩合	容量	段收量	當量
6	在來種(標準)	九、二	一六	二、七八二、〇	六、四	六、四	一〇一、二九三	一八八、三八三	四八〇、二四五、三五	一五八					
5	在來種(標準)	八、三	一四	二、八七九、一	六、五	六、五	一〇〇、〇〇三	一四七、三八四	四八〇、二四五、三五	一六一					
4	二一	三	一六	二、八四一、七	六、八	六、八	一〇一、八五三	二〇五、三八四	五八二、三一五、九	一五〇					
3	七	九、一	一五	二、八五一、九	六、五	六、五	一〇三、五五三	二五九、三八三	〇八一、五四五、八	一六〇					
7	在來種(標準)	一	一六	二、八四二、〇	六、七	六、七	一〇三、九七二	二八〇、八八一	五三、五七、四	一四五					
8	在來種(標準)	八、三	一六	二、九〇一、八	六、六	六、六	一〇〇、〇〇三	一四七、三八四	一八二、一五五、九	一五七					
9	五八	三	一五	二、九六一、九	六、四	六、四	一〇三、六五二	一九七、三八四	五八二、〇七五、九	一四四					
10	六五	九、一	一六	三、〇七二、七	七、〇	七、〇	八〇、二九三	九八三、三八三	八八二、二五九、六	一七九					
11	在來種(標準)	八、三	一六	三、〇四一、三	六、七	六、七	一〇〇、〇〇三	一四七、三八四	五八一、八六五、八	一八一					
12	六九	九、一	一六	三、〇一〇、一	六、五	六、五	九五、五二三	〇六三、三八三	八八一、七三九、一	一六六					

第二區 (增收的栽培法區)

區名	系統名	出穂期	成熟期	稈長	一株穗數	穗莖ノ最長	實收量	正收量	正換算收量	玄米重量	一升重量	糶摺歩合	容量	段收量	當量
1	富士中神力在來種(標準)	八、三	一〇、一	二、七六二、四	六、六	六、六	一〇〇、〇〇三	一四七、三八四	五八一、八六五、八	一六〇					

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	
在來種 (標準)	二一	五八	在來種 (標準)	七	六五	在來種 (標準)	在來種 (標準)	四九	二	六九			
八、二九	九、一	三三	三〇	三三	三〇	二九	二六	三〇	三〇	二六	三〇	三二	
一四二、八九一、六、八	一六二、四一九、六	一五二、九九一、二	一四二、四一九、二	一六二、九〇一、八、四	一六二、七六一、七、六	一五二、九一七、八	一四二、八八一、六、四	一四二、九三二、八、二	一四二、八一六、七	一三二、八四一、六、五	一六二、七三二、七、一	一六三、〇〇一、七、九	
七、〇三、四九一、〇〇、〇〇三、二六三、八七、一八二、六〇六、一、七八	六、九三、四二一	六、九三、二二〇	七、〇三、四一八、一〇〇、〇〇三、二八六、三六、八八二、〇一六、〇、九一	六、八三、二六二	七、二二、〇三三	六、七三、二八二、一〇〇、〇〇三、二八、三八五、三八一、三二六、六三	七、二三、二九九、一〇〇、〇〇三、二八六、三八七、五八二、七二六、二六	六、七三、一六八	六、九三、〇五三	七、〇三、二四二、一〇〇、〇〇三、二八六、三八七、五八二、七二六、二六	六、七三、一八七、一〇〇、五四三、三〇四、三八七、九八二、五七六、一、九六	六、八三、〇九七	九、九七三、一八五、三八七、五八二、五四〇、九三
一四四	一九〇	一六八	一七八	一六八	一七七	一六〇	一四五	一六〇	一五二	一五六	一六二	一六八	

尙前表中ノ地力更正收量百分比ヲ九年度ノ分ト共ニ掲グレバ左記ノ如シ。

系 統 名	大 正 十 年 度		大 正 九 年 度
	第 一 區	第 二 區	
富士中神力在來種(標準)	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
二	一〇一、二九	一〇〇、五四	一〇八、九五
七	一〇三、五五	九六、七三	一〇二、三〇
二一	一〇一、八五	九九、一九	一〇二、二六
三八	一〇一、二九	九六、五九	一〇〇、〇一
三	九四、四三	九三、六二	九八、四五
四七	九三、六五	九三、六三	一〇一、三五
五八	九四、八〇	九〇、五七	一〇七、二六
六五	九五、五二	九九、九七	一二三、〇〇
六九			

以上ノ成績及立毛中ノ状況等ニ依リ右ノ内二、二二、三八、六九ノ四系統ヲ選抜シテ更ニ試験ヲ繼續スルコト、シ其他ハ廢棄スルコト、ス。

六 曙純系淘汰收量比較試験

曙ハ最晩生種トシテハ本縣ニ從來最モ廣キ栽培段別ヲ占ムルモノニシテ品質佳良ナラザレドモ收量

多シト稱セラル、モノナリ。因テ之ガ改良ヲ行ヒ原種トシテ獎勵スベキ優良系ヲ育成セン目的ヲ以テ本種ノ純系淘汰ニ着手シ大正九年度志太郡内ノ四ヶ町村ヨリ元種子ヲ取寄セ選抜田ヲ設ケテ此内ヨリ百五十九株ヲ選抜シ昨十年度之ニ就キ特性調査試験ヲ施行シテ淘汰ノ結果三十二系統ヲ殘シタリ。本年度ハ之ニ就キ第一回ノ收量比較試験ヲ行ヒタリ。試験ハ一區制ト爲シ普通ノ栽培法ニ據リ曙在來種ヲ標準區ニ用ヒタリ。

試驗成績ノ概要左ノ如シ。(縦ノ線ハ田區ノ境界ヲ示ス。但シ畦畔ニ接シテハ三列以上ノ番外ヲ設ケタリ)

區名	系統	名	出穂期	成熟期	稈長	一株穗數	最長穗長	實收量	當地正收量	當地正換算收量	玄米重量	玄米容積	段莖收量
1	曙在來種	(標準)	九、四、二	九、四、二	七、三、三	六、三、三	六、三、三	四、八、三	四、五、三	四、五、三	六、八、二	二、九、五	一、八、〇
2	曙在來種	(標準)	二	二	五、三、二	六、六、三	六、六、三	三、四、三	三、四、三	三、四、三	四、八、一	四、五、七	一、七、〇
3	曙在來種	(標準)	二	二	六、三、三	六、四、三	六、四、三	四、四、〇	四、四、〇	四、四、〇	三、八、二	一、七、八	一、七、四
4	曙在來種	(標準)	一六	一六	四、三、〇	六、二、三	六、二、三	三、四、三	三、四、三	三、四、三	八、八、〇	五、六、五	一、七、八
5	在來種	(標準)	一八	一八	六、三、三	六、六、三	六、六、三	三、四、三	三、四、三	三、四、三	三、八、二	四、三、五	一、六、六
6	在來種	(標準)	一八	一八	六、三、三	六、六、三	六、六、三	三、四、三	三、四、三	三、四、三	三、八、二	四、三、五	一、七、五
7	曙在來種	(標準)	三三	三三	七、三、四	六、七、三	六、七、三	三、七、七	三、七、七	三、七、七	九、六、三	一、八、三	一、八、二

區名	系統	名	出穂期	成熟期	稈長	一株穗數	最長穗長	實收量	當地正收量	當地正換算收量	玄米重量	玄米容積	段莖收量
8	在來種	(標準)	二	二	五、三、三	六、七、三	六、七、三	三、四、三	三、四、三	三、四、三	一、八、二	二、六、〇	一、四、三
9	在來種	(標準)	二	二	五、三、三	六、五、三	六、五、三	三、五、三	三、五、三	三、五、三	四、八、二	三、六、五	一、五、三
10	在來種	(標準)	二六	二六	四、三、一	六、六、三	六、六、三	三、四、三	三、四、三	三、四、三	三、九、五	一、八、一	一、四、九
11	在來種	(標準)	四二	四二	六、三、三	六、三、三	六、三、三	三、四、三	三、四、三	三、四、三	三、四、三	三、九、五	一、五、七
12	在來種	(標準)	四二	四二	六、三、三	六、三、三	六、三、三	三、四、三	三、四、三	三、四、三	三、四、三	三、九、五	一、六、七
13	在來種	(標準)	六一	六一	七、三、一	七、〇、二	七、〇、二	八、〇、〇	八、〇、〇	八、〇、〇	六、七、三	四、八、二	一、四、八
14	在來種	(標準)	六一	六一	七、三、一	七、〇、二	七、〇、二	八、〇、〇	八、〇、〇	八、〇、〇	六、七、三	四、八、二	一、四、八
15	在來種	(標準)	六四	六四	五、三、三	六、三、三	六、三、三	四、七、一	四、七、一	四、七、一	〇、八、二	二、六、五	一、九、〇
16	在來種	(標準)	六四	六四	五、三、三	六、三、三	六、三、三	四、七、一	四、七、一	四、七、一	〇、八、二	二、六、五	一、九、〇
17	在來種	(標準)	六五	六五	五、三、三	六、三、三	六、三、三	四、七、一	四、七、一	四、七、一	〇、八、二	二、六、五	一、八、二
18	在來種	(標準)	六六	六六	四、三、一	六、四、三	六、四、三	四、〇、〇	四、〇、〇	四、〇、〇	三、四、三	三、八、二	一、八、二
19	在來種	(標準)	六八	六八	八、三、一	六、四、三	六、四、三	五、九、五	五、九、五	五、九、五	〇、八、二	八、四、五	二、〇、三
20	在來種	(標準)	六八	六八	八、三、一	六、四、三	六、四、三	五、九、五	五、九、五	五、九、五	〇、八、二	八、四、五	二、〇、三
21	在來種	(標準)	六九	六九	七、三、一	六、三、三	六、三、三	四、五、三	四、五、三	四、五、三	三、九、五	三、〇、〇	一、八、八

35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22
在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)
一〇四	一〇一	九四	九一	八〇	七七	七七	八二	八二	八〇	八〇	七七	七七	七三
一三	一三	一四	一三	一三	一三	一三	一三	一四	一三	一三	一六	一三	一三
八三、二二二、九	六三、一三三、九	八三、二八五、六	五三、二九二、七	一〇三、二〇二、八	一〇三、二二五、二	九三、一六六、四	七三、一七〇、〇	九二、九六、四、三	八三、二六六、一	一〇三、二二五、八	二二、四〇一、八、二	九三、三〇一、六、六	五三、三〇一、四、一
六、四二、九、四	六、四三、〇、九八、一〇一、六七三、二二三、三九八、〇八一、八七六一、六九	六、六三、二六二、一〇四、二二三、三三三、九七、八八二、五四五九、五一	六、四三、三三三、一〇〇、〇〇三、一七九、三九九、〇八二、〇八五八、九八	六、二二、一〇七、九四、二七二、九九七、三九六、三八一、〇九五四、七九	六、五三、一五〇、九七、七七三、一〇一、四〇一、八八一、四九五九、一九	六、二二、二四四、一〇〇、〇〇三、一七九、三九六、八八一、八五五九、八二	六、二二、四〇四、一〇四、二二三、三三三、四〇〇、八八三、二五五九、四二	六、三三、二八一、九九、七七三、一七三、三九九、〇八二、八九六〇、七三	六、二二、三二一、一〇〇、〇〇三、一七九、三九六、八八三、〇六六、四一	六、五三、四八六、一〇四、五八三、三三三、三九六、八八一、二九五六、五五	六、三三、五五二、一一二、五二二、七七八、三九四、〇八二、六、九五九、六六	六、三三、一九四、一〇〇、〇〇三、三〇四、〇〇〇、一八二、三七五九、八四	六、三三、二九三、一〇一、九一三、三六七、三九六、三八一、七四五七、五〇
一五二	一四六	一六二	一五五	一八六	一六四	一六四	一六三	一七五	一七二	一八四	二〇二	一七七	一六四

以上ノ成績並ニ立毛中ノ形質等ニ依リ右ノ内一、一六、一八、三五、三六、四二、六六、七三、七

48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36
在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)	在來種 (標準)
一六一	一六〇	一五九	一五六	一五七	一四四	一四四	一三二	一二七	一二五	一二五	一一七	一一七
一四	一三	一三	一三	一三	一五	一三	一四	一三	一三	一三	一五	一五
八三、二二二、九	九三、二二四、四	一〇三、二二五、三	一〇三、二〇二、三	六三、三六五、五	五三、四二二、六、一	五三、二六四、九	七三、二二四、五	七三、二四二、四	五三、二八五、四	六三、二七四、一	七三、二二四、一	七三、二二四、一
六、七三、二五	六、二二、一九七、一〇〇、〇〇三、一七九、三九八、八八二、七四五九、三五	六、四三、九九一〇一、六四三、三二四〇〇、六八三、〇八六〇、〇七	六、六三、三二一〇七、七六三、四二六、三九九、八八二、七六六〇、六〇	六、三三、〇四八、一〇〇、〇〇三、一七九、三九七、五八二、六九五九、九一	六、四三、三三九、一〇三、七九三、二九九、三九八、五八二、一一五七、四四	六、三三、二二一〇〇、〇〇三、一七九、三九六、六八一、六六五七、一四	六、四三、五二四、〇八、九六三、四六三、三九八、八八三、〇九六〇、六三	六、六三、三九七、一〇五、二〇三、三四三、三九六、三八三、一七六〇、八一	六、四三、三三三、一〇〇、〇〇三、一七九、三九九、一八二、一四五九、五六	六、七三、三〇四、一〇、七三、二四五、三九六、三八一、九五五九、三五	六、二二、二五七、一一三、〇五三、五九四、三九八、八八一、六七五七、八五	六、二二、二五七、一一三、〇五三、五九四、三九八、八八一、六七五七、八五
一六〇	一五七	一七二	一六二	一七〇	一八五	一六二	一五八	一七〇	一七六	一六〇	一五二	一五二

七、八〇、一〇一、一〇四、一一七、一三一、一五六、及ビ一五九ノ十六系ヲ選抜シテ試験ヲ繼續シ他ハ廢棄スルコト、セリ。

七 春糯純系淘汰收量比較試験

本縣ノ糯稻ニシテ栽培反別ノ廣キモノ、一種ニ春糯ト稱スル品種アリ。最晩生種ニ屬スルモノナレドモ收量多シト稱セラル。之ガ改良ヲ行ハンガ爲メ大正六年度周智郡ヨリ元種子ヲ取寄セ約三千株ヲ栽植シ此内ヨリ百二十株ヲ選抜シ次デ大正七、八兩年度特性調査試験ヲ施行シ順次淘汰ヲ行ヒテ十五系統ト爲シ大正九年度收量比較試験ヲ行ヒテ六系統ヲ選抜シ更ニ昨十年度第二次收量比較試験ヲ施行シテ三系統ヲ殘スニ至レリ。本年度ハ此三系統ニ就キ第三次收量比較試験ヲ行ヒタルモノニシテ二區制トシ何レモ普通ノ栽培方法ニ據リ圃地ノ都合上二區同一ノ田區内ニ於テ之ヲ行ヒタリ。試験成績ノ概要左ノ如シ。

區名	系統名	出穂期	成熟期	稈長	一株穗數	穗莖ノ長	實收量	地力更正收量百分比	玄米段當收量	玄米一升重	糶摺歩合	段莖收量		
													第一區	第二區
第一區	春在來種(標準)	九月十日	九月廿二日	九二〇	二	六	九、一〇、一、二〇〇	八、四、三、二〇〇	六、四、三、二〇〇	三、八、七、五八〇	二、八、五、八三	一、六、四	一、六、四	
							四、二、八、六二	六、二、三、五八八	一、〇、三、三八七	五、八、〇、九四、九〇	一、四、〇			
							六、二、九、三三	六、二、三、四六六	一、二、七、三、四四、三、七	五、八、〇、五四、四、八	一、八、二			
							六、二、三、七五三	六、二、三、五五六	一、〇、〇、三、三八一	三、八、五、三七九	九、四、五、三、六四	一、七、八		
							五、二、九、三三	六、二、三、七九	一、〇、〇、三、三	六、二、三、七九	三、〇、三、三	六、八、三、八七	五、八、一、三、五、六、九	一、七、三
							二	二	二	二	二	二	二	二
第二區	在來種(標準)	九月十日	九月廿二日	九二〇	二	六	六、二、七、三、八	六、二、三、四八二	一、〇、一、六、七、三	四、七、三、八、九	三、〇、五、三、六	一、八、二	一、八、二	
							六、二、七、三、四	六、一、三、三、七、四	一、〇、〇、三、三八一	三、八、四、五、八	一、〇、一、五、四、九	一、八、四		
							七、二、八、二、三、七	六、〇、三、七、五、七	一、〇、九、七、三	七、五、二、三、八、七	五、八、一、二、〇、五、九	一、五、七		
							四、二、八、三、三、九	六、〇、三、五、三、三	一、〇、三、九、七、三	五、一、五、三、八、四	五、八、〇、五四、五、九	一、七、二		
							三、三、六、三、九	六、一、三、四、九	一、〇、〇、三、三八一	三、八、八、五、七、九	八、七、五、三、五	一、八、五		
							二	二	二	二	二	二	二	二

區名	系統名	出穂期	成熟期	稈長	一株穗數	穗莖ノ長	實收量	地力更正收量百分比	玄米段當收量	玄米一升重	糶摺歩合	段莖收量						
													第一區	第二區				
第一區	春糯在來種(標準)	九月十日	九月廿二日	九二〇	二	六	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇					
							一〇八、一〇	一〇三、九七	一〇〇、〇〇	九一、五八	一〇三、〇六							
							一〇一、二七	一〇一、六七	九四、八三	一二三、六六								
							九二	一〇七、三〇	一一〇、九七	九四、一八	一〇六、二一							
							二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
							二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
第二區	在來種(標準)	九月十日	九月廿二日	九二〇	二	六	六、二、七、三、八	六、二、三、四八二	一、〇、一、六、七、三	四、七、三、八、九	三、〇、五、三、六	一、八、二	一、八、二					
							六、二、七、三、四	六、一、三、三、七、四	一、〇、〇、三、三八一	三、八、四、五、八	一、〇、一、五、四、九	一、八、四						
							七、二、八、二、三、七	六、〇、三、七、五、七	一、〇、九、七、三	七、五、二、三、八、七	五、八、一、二、〇、五、九	一、五、七						
							四、二、八、三、三、九	六、〇、三、五、三、三	一、〇、三、九、七、三	五、一、五、三、八、四	五、八、〇、五四、五、九	一、七、二						
							三、三、六、三、九	六、一、三、四、九	一、〇、〇、三、三八一	三、八、八、五、七、九	八、七、五、三、五	一、八、五						
							二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

尙累年試験ニ據ル地力更正收量百分率ヲ示セバ左ノ如シ。但シ大正九、十一兩年度ノ標準區ハ春糯在來種ニシテ同十年度ノ標準區ハ静岡源一本第一號(糯)ナリトス。

系統名	大正十一年度		大正十年度	大正九年度
	第一區	第二區		
春糯在來種(標準)	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
静岡源一本第一號(標準)	一〇八、一〇	一〇三、九七	一〇〇、〇〇	一〇三、〇六
六	一〇一、二七	一〇一、六七	九四、八三	一二三、六六
一	九二	一〇七、三〇	一一〇、九七	九四、一八
九	二	二	二	二

以上ノ成績及立毛ノ形質其他ニ依リ右ノ内一二及九二ヲ殘シテ更ニ試験ヲ累ヌルコト、シ六號ハ本

年度限り廢棄スルコト、セリ。

八 人工交配特性調査試験

人工交配ニ依ル品種改良ヲ目的トシ大正六年度數組ノ人工交配ヲ行ヒ F_1 及 F_2 ヲ經、一昨年度 F_3 ノ特性調査試験ヲ行ヒタルニ大體上有望ナルベシト思ハル、系統有リシモ何レモ何等カノ點ニ於テ分離シツ、アルヲ認メラレ有ラユル形質ガ固定セリト認メラル、モノ殆ンド無カリキ。故ニ此内有望ナル系統ニ就キ更ニ見込アル數株ヅ、ヲ選抜シテ昨年度 F_2 ニ於テ再ビ特性調査試験ヲ施行シ同年度モ亦前年同様其内有望ナル系統中ヨリ數株ヅ、ヲ選抜セルコト左ノ如シ。

(1) 晚白笹ト静岡源一本第一號トノ交配

F_2 供試用系統數 四一

(2) 愛媛竹成ト愛媛神力トノ交配

F_2 供試用系統數 一五

(3) 愛媛雄町ト静岡源一本第一號トノ交配

F_2 供試用系統數 二五

右ニ就キ本年度特性調査試験施行ノ結果前年同様見込アル系統ニ就キ各系統數株ヅ、ヲ選抜シ次年度更ニ F_2 ノ特性調査試験ヲ施行スルコト、セリ。即チ

(1) 晚白笹ト静岡源一本第一號トノ交配

供試ノ四十一系中十六系統ヲ選擇シ内殆ンド固定シタリト認ムル系統中ヨリハ一株ヲ、又固定疑ハシキ系統中ヨリハ二、三株ヲ選抜シ都合二十二株ヲ選抜シテ次年度ノ試験ニ供スルコト、セリ。

(2) 愛媛竹成ト愛媛神力トノ交配

供試ノ十五系中二系統ヲ選擇シ各々二株ヅ、ヲ選抜シテ次年度ノ試験ニ供スルコト、セリ。
(3) 愛媛雄町ト静岡源一本第一號トノ交配
供試ノ二十五系統中八系統ヲ選擇シ各系一株又ハ二株ヲ選抜シテ次年度ノ試験ニ供スルコト、セリ

九 人工交配 F_1 栽培

主トシテ穗ノ特ニ大ナルモノト分蘗力ノ相當強キモノトヲ結合セシメ度キ希望ヲ以テ昨年度數組ノ人工交配ヲ行ヒタルヲ以テ本年度 F_1 ノ栽培ヲ行ヒタリ。交配ノ組合セ栽植株數及ビ其内ヨリ本年度 F_2 栽培用トシテ選抜シタル株數左ノ如シ。

(1) 静岡源一本第一號ト大明稻トノ交配

母 靜 源 一
父 大 明 稻 F_1 十九株ノ内三株選抜

(2) 静岡源一本第一號ト護國トノ交配

母 靜 源 一
父 護 國 F_1 二十二株ノ内二株選抜

(3) 萬福(モツレ稻)ト大明稻トノ交配

母 萬 福
父 大 明 稻 F_1 十二株ノ内一株選抜

母 大 明 稻
父 萬 福 F_1 八株ノ内一株選抜

(4) 護國ト御蔭稻トノ交配

但シコハ兩親共種大ニシテ分蘖少ナキモノナレドモ試ニ交配セルモノナリ。

母 護 國 F₁ 四株ノ内ニ株選抜

(5) 畿内晩生五十號ト護國トノ交配

母 護 國 F₁ 八株ノ内ニ株選抜

父 畿晚五〇 F₁ 八株ノ内ニ株選抜

母 護 國 F₁ 五株ノ内ニ株選抜

(6) 萬福ト護國トノ交配

母 護 國 F₁ 九株ノ内ニ株選抜

父 萬 福 F₁ 九株ノ内ニ株選抜

母 護 國 F₁ 八株ノ内ニ株選抜

備考、右交配ノ父母ハ參考ノ爲メニ二株ツ、栽植シ置キテ比較ニ供シタリ。又右各組合セノ二品種ツ、ノ最初ニ書キタル品種ガ分蘖ノ多キモノニシテ後ニ掲ゲタル品種ガ穂ノ大ナルモノナリ。

一〇 他府縣獎勵品種比較豫備試驗

他府縣獎勵ノ水稻品種ノ内ニテ本縣ノ風土ニ適シ獎勵品種ニ加フルノ價値アルモノ有ラバ之ヲ選出センガ爲メ本縣ノ風土ト大差無カル可キ府縣ノ農事試驗場ヨリ其ノ獎勵品種ノ種子ヲ取寄セタルモノニシテ本年度ハ之等ニ就キ豫備的ノ試作ヲ行ヒ見込有ルモノハ翌年引續キ試作シ特ニ有望ナルモノニ

就テハ追テ前記ノ畿内支場及他府縣立農事試驗場育成品種試驗ニ加フルモノトス。

本年度試驗ニ供シタルモノハ神奈川、愛知、三重、岐阜、京都、奈良、和歌山、大阪、兵庫、岡山、廣島、山口、島根、香川、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島ノ二十一府縣ノ各獎勵品種通計壹百三十八種ニシテ立毛ノ状態ニテ特性調査ノ結果引續キ試驗ノ必要アリト認ムルモノ六十六種ヲ選抜シ其他ハ本年度限リ廢棄シタリ。

一一 原種決定參考試驗 (委託試驗)

從來ノ品種ニ關スル試驗ノ成績良好ナリシ純系品種其他ニ就キ當場ト風土ノ多少異ナル遠州中部ノ土地ニ於テ比較試驗ヲ爲シ場内ニ於ケル試驗ノ結果ト相俟ツテ原種決定上ノ參考ニ資セントスルヲ以テ目的トス。

試驗地及擔當者

磐田郡袋井町木原

鈴木 準 造

本年度ノ供試品種ハ朝日分離系統其他ニシテ一區制トシ標準區ニハ磐田朝日三號ヲ用ヒタリ。

試驗成績ノ概要左ノ如シ。(縦ノ線ハ田區ノ境界ヲ示ス。但シ畦畔ニ接シテハ三列以上ノ番外ヲ置キタリ)

區名	品 種 名	穗 揃 期	程 長	一 株 穗 數	最 長 莖 長	實 收 量	地 力 更 正 收 量 比	地 力 更 換 算 收 量	玄 米 重 量	一 升 重 量	糶 摺 步 台 重 量	容 量	段 收 量	當 量
1	朝 日 一	九、二二	三、〇九	二三五	六、三三	一、〇一七	二九三	三〇三	三九二	〇八二	二六〇	六四	一三三	二二九
2	磐田朝日三號(標準)	九、二二	三、六〇	二二七	六、三三	一、〇一七	二九三	三〇三	三九四	〇八二	二六三	三四	一二九	

16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	
磐田朝日三號(標準)	龜治神力	靜源一	磐田朝日三號(標準)	畿晚三三	一九三	一四五	磐田朝日三號(標準)	一二五	磐田朝日三號(標準)	八二	六五	四一	二一	
九三、一一二五、六	一七三、六七二、七	一四三、〇二二、四	九三、〇三二、五	八三、一七二、六	一三三、八二二、一	一二三、四二二、七	九三、〇三二、五	一二三、三三八、二四、七	一三三、二九九、〇	九三、三三七、二二、七	一一三、〇七二、五、六	一三三、三五五、二六、二	一一三、一三三、二五、八	
六、三三、〇三三、〇〇三、〇七三、九四、三八二、八四六、三、四七	六、七三、一四〇、一五、六三三、二五、一三九四、八八三、六四六、〇、五四	六、六三、二二三、〇四、八五三、二七三、九四、〇八三、二八六、一、九八	六、七三、〇五七、一〇〇、〇〇三、〇七八、三九三、五八二、八四六、三、二四	六、二二、五二二、一五、七八三、五六四、三九一、八八二、六四六、二、八二	六、七二、八七七、九四、五六二、九一、三九二、五八一、八二五、九、九〇	六、二二、三三三、〇三三、二八三、一七九、三九六、〇八三、四四六、二、二五	六、三三、〇三三、〇〇三、〇七八、三九四、三八二、八四六、三、四七	六、五三、二九一、〇三三、五九三、一八九、三九一、三八二、九六六、三、四九	六、三三、〇三三、〇〇三、〇七八、三九四、三八二、八四六、三、四七	六、二二、四三三、二〇九、四五三、三六九、三九七、〇八三、一八六、〇、一八	六、一三、一〇四、一〇〇、〇〇三、〇七八、三九六、三八三、〇〇六、二、八七	六、四三、二四一、〇四、九四三、二、三〇三、九三、〇八二、八二六、二、五四	六、五三、〇八三、二〇一、四一三、二、一三九五、八八三、〇〇六、一、六八	六、七三、三〇一、〇七、三五三、三〇四、三九二、三八三、四八六、三、〇九
一三五	一五〇	一三五	一二九	一二六	一四四	一三五	一三〇	一二九	一四四	一三二	一三一	一三三	一三三	

21	20	19	18	17
豊作選八八	磐田朝日三號(標準)	豊作選一一五	富士	仙石〇一三〇
二〇三、一八二、七	九三、〇三二、五	一七三、四八二、〇、七	一九二、八六二、〇	一七三、九九一、五、七
六、二二、三三、〇〇一、〇一、八五三、一三五、三九四、〇八三、三六六、一、九六	六、七三、〇五七、一〇〇、〇〇三、〇七八、三九三、五八二、八四六、三、二四	六、七三、三三四、一〇三、二五三、一七八、三九四、八八三、二四八、五、〇	六、八二、八八五、九一、五七二、八一九、三九一、五八一、八四六、五、七六	七、四二、八四八、九二、一三二、八三六、三九六、〇八二、八〇五、八、四八
一五六	一三二	一四四	一四一	一五三

一一一 寒地向原種決定參考試驗 (委託試驗)

右成績ハ場内ノ試験成績ト相俟ツテ結論スルコト前記原種決定試験中晩生ノ部ニ示セルガ如シ。

本縣内富士山麓地方其他ノ寒冷地ニ適スベキ水稻品種ヲ選定セン目的ノ試験ニシテ場内ニ於ケル原種決定試験早生ノ部ト互ニ其成績ヲ参照スルモノトス。

試驗地及擔當者 駿東郡原里村川嶋田 芹澤與作

耕種ハ同地方普通ノ方法ニ準ジテ之ヲ行ヒ愛國在來種ヲ標準區トシ二區制ニ據リ試験シタリ。試験成績ノ概要次ノ如シ。

1	區名	品	種	名	出穂	成熟	稈長	一株	最長	玄米	段當	收量	玄米	糶摺	歩合	段	當
愛國在來種(標準)					八、二六、二〇、五、日	一〇、五、日	二、五〇、尺	一四、本	四、五、寸	六、〇三、石	一〇〇、〇〇、%	四九、三、八、%	三、八、%	五、八、%	二、四、九、%	一、三、%	一九、二、%

第二區

區名	品名	出穗期	成熟期	稈長	一株穗數	穗長	實收量	當地實收量	當地實收量	重量	容步量	收量
12	畿內早生七〇	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
11	早神力〇九	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
10	畿內早生六九	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
9	愛國在來種(標準)	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
8	畿內早生二二	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
7	靜岡愛國第一號	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
6	小丈六七	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
5	愛國在來種(標準)	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
4	靜岡小丈一號	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
3	特選小丈	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
2	小丈八六	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
1	愛國在來種(標準)	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四

區名	品名	出穗期	成熟期	稈長	一株穗數	穗長	實收量	當地實收量	當地實收量	重量	容步量	收量
16	愛國在來種(標準)	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
15	六七	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
14	小丈八六	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
13	愛國在來種(標準)	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
12	靜岡小丈一號	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
11	特選小丈	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
10	靜岡愛國第一號	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
9	愛國在來種(標準)	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
8	早神力〇九	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
7	六九	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
6	畿內早生一〇	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
5	愛國在來種(標準)	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
4	一五六	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
3	二二二	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四
2	畿內早生七〇	八、二六	九、二二	二、四〇	一六	五、〇二	九八、六一	四五六	一七四	一七四	一七四	一七四

13	愛國在來種(標準)	一六	五、二、四〇	一四	五、一、二、四八七、一〇〇、〇〇二、四九一、三九三、八八一、六二五、四〇〇	一六二
14	畿内早生一〇	一六	一一、二、五〇	一三	五、四、二、九八二、一一三、〇七三、九二、〇八一、五、六、五、九、三、六	二二〇
15	一五六	一六	一〇、二、四〇	一三	四、二、二、六三三、一〇六、二二二、六四六、三九、五、八〇、七、八、五、七、三、六	一六八
16	愛國在來種(標準)	一六	五、二、四〇	一三	五、一、二、四四七、一〇〇、〇〇二、四九一、三九四、〇八一、九、九、五、〇、二	一六八

右成績ハ場内ノ試験成績ト相俟ツテ結論スルコト前記原種決定試験早生ノ部ニ示セルガ如シ。

一二 原種決定簡易試験 (委託試験)

本試験ハ當場ニ於ケル累年試験ノ結果最モ有望ト認メタル品種ニ就キ新ニ原種ニ加フルノ價值如何ヲ知ランガ爲メ縣下ノ各地ニ於テ適當ナル者ニ委託シ在來種ト比較シ簡易ナル試験ヲ行ハシメ以テ各種風土ニ對スル適應性ヲ確メ場内ノ試験成績ト相俟テ原種決定上ノ參考ニ資セントスルヲ以テ目的トス。

試験地ハ各郡一箇所ツ、トシ試験品種ハ原種候補ノ改良品種ト比較用在來品種トヨリ成リ本年度ノ原種候補品種ハ畿内晩生五十號、豊作選八十八號及豊作選百十五號ノ三品種ニシテ此内ヨリ其地方トシテ試験スベク適當ト認メラル、モノ一種若クハ二種ヲ選定シテ供試シ又比較用在來品種ハ其地方ニ現ニ廣ク栽培セラル、在來種ノ内成ルベク原種候補品種ト實用上ノ性質相類似セルモノ、内ヨリ一種ヲ選定シ前記候補品種ノ各々ト比較スルモノトス。

試験ノ方法ハ原種候補品種一品種ヲ在來品種ト比較スル場合(一品種式ト名ヅク)ニハ各品種二通り即チ四區ト成シ一枚ノ田圃ヲ田字形ニ四分スルヤウ同一品種ヲ夫々對角線ニ配列スルモノニシテ一區ノ面積ハ十五坪以上トス。又原種候補品種二品種ヲ在來品種ト比較スル場合(二品種式ト稱ス)ニハ

前記一品種式ト同様ノ試験區二箇ヲ設ケテ候補品種ノ各々ヲ在來品種(成ル可ク同一品種ヲ用フ)ト比較スルモノトス。耕種ノ方法ハ特ニ缺點無キ限リハ其地方普通ノ方法ニ準ズルコト、セリ。各郡ニ於ケル試験地ノ位置及供試品種等左記ノ如シ。

郡名	位 置	栽培擔當者	式品種	原種候補品種	比較用在來品種	備 考
賀茂	朝日村吉佐美	楠山紋七	一	豊作選一一五	田中錦	
田方	三島町宮町	堀池藤次郎	二	畿内晩生五〇 豊作選一一五	愛媛神力 静岡源一本第一號	比較用ハ二種共ニ原種ナリ 愛媛神力ハ原種ナリ
駿東	金岡村東熊堂	望月幸作	一	畿内晩生五〇	愛媛神力	
富士	加島村水戸島	石川清藏	二	豊作選八八 同一一五	赤コボネ	
庵原	西奈村瀬名	中川和十郎	一	豊作選一一五	豊作選在來種	
安倍	麻機村東	望月可一	二	豊作選八八 同一一五	豊作選在來種	
志太	藤枝町五十海	五十海青年團農事部	二	豊作選八八 同一一五	豊作選在來種	在來種ハ望月トモ謂フ
榛原	吉田村神戸	藁科角平	二	豊作選八八 同一一五	豊作選在來種	在來種ハ瑞穂トモ謂フ
小笠	和岡村高田	青年團高田支部	二	豊作選一一五 畿内晩生五〇	駿河錦	
周智	森町向天方	望月嘉作	一	畿内晩生五〇	改良神力	
磐田	袋井町木原	鈴木準造	一	畿内晩生五〇	磐田朝日三號	磐田朝日三號ハ原種ナリ

濱名 芳川村立野道下 中津川忠藏
 引佐 中川村中川祝田 柘植榮藏
 試驗成績ノ概要次ノ如シ。
 一 豐作選八八
 二 同 一五
 三 畿内晩生五〇
 四 在來神力
 五〇

郡名	品名	區名	收量	平均區	擔當者ノ概評摘要
賀茂	豐作選一一五(原種候補)	第一區	六、九〇	七、二五	豐作選一一五ハ比較用田中錦ニ比シ出穂成熟共ニ稍遅ケレドモ發育良好ニシテ且ツ一穗ノ粒數多ク收量上記ノ如ク多クシテ品質亦優ルガ故ニ將來原種トシテ有望ナリ。
		第二區	六、一〇〇		
		第三區	七、三〇〇		
		第四區	五、九〇〇		
田中	錦(比較用)	第一區	一八、五〇〇	一七、七五〇	畿内晩生五〇ハ成熟期適當ニシテ粉ノ脱落シ易カラザル點ハ長所ナリ。然シ立毛ノ狀態ヨリ觀テ愛媛神力ニ比レ優レリトノ評ヲ下スモノ殆ンド無カリシモ外見ニ比シ收量ノ多カリシハ案外ナリキ。
		第二區	一四、八〇〇		
		第三區	一六、〇〇〇		
		第四區	一五、五〇〇		
田方	愛媛神力(比較用)	第一區	一八、五〇〇	一五〇、一五〇	豐作選一一五ハ非常ニ賞讃セラレタリ殊ニ收量モ多ク之ガ栽培ヲ希望スル者甚ダ多シ然レドモ成熟時期ノ遅キハ氣遣ハル、モノナリト談ズル者モアリ。
		第二區	一四、八〇〇		
		第三區	一六、〇〇〇		
		第四區	一五、五〇〇		
乙	豐作選一一五(原種候補)	第一區	一八、五〇〇	二〇五、五〇〇	豐作選一一五ハ非常ニ賞讃セラレタリ殊ニ收量モ多ク之ガ栽培ヲ希望スル者甚ダ多シ然レドモ成熟時期ノ遅キハ氣遣ハル、モノナリト談ズル者モアリ。
		第二區	一四、八〇〇		
		第三區	一六、〇〇〇		
		第四區	一五、五〇〇		
甲	畿内晩生五〇(原種候補)	第一區	一八、五〇〇	一八〇、七七五	畿内晩生五〇ハ生育良好、草丈短ク、莖強剛、倒伏ノ虞少ナク多收的多肥栽培ニ有望ナリ。
		第二區	一四、八〇〇		
		第三區	一六、〇〇〇		
		第四區	一五、五〇〇		

郡名	品名	區名	收量	平均區	擔當者ノ概評摘要
駿東	愛媛神力(比較用)	第一區	一八、五〇〇	一八二、三〇〇	畿内晩生五〇ハ生育良好、草丈短ク、莖強剛、倒伏ノ虞少ナク多收的多肥栽培ニ有望ナリ。
		第二區	一四、八〇〇		
		第三區	一六、〇〇〇		
		第四區	一五、五〇〇		
富士	豐作選八八(原種候補)	第一區	六、〇〇〇	六、〇五〇	
		第二區	六、一〇〇		
		第三區	六、二〇〇		
		第四區	五、九〇〇		
乙	赤コボレ(比較用)	第一區	六、〇〇〇	六、四八〇	
		第二區	六、一〇〇		
		第三區	六、二〇〇		
		第四區	五、九〇〇		
甲	豐作選一一五(原種候補)	第一區	六、〇〇〇	六、七五〇	
		第二區	六、一〇〇		
		第三區	六、二〇〇		
		第四區	五、九〇〇		
乙	赤コボレ(比較用)	第一區	六、〇〇〇	六、四八〇	
		第二區	六、一〇〇		
		第三區	六、二〇〇		
		第四區	五、九〇〇		

榛原				志太			
區乙		區甲		區乙		區甲	
瑞穂(豊作選) (比較用) (在來種)	豊作選一一五 (原種) (候補)	瑞穂(豊作選) (比較用) (在來種)	豊作選八八 (原種) (候補)	望月(豊作選) (比較用) (在來種)	豊作選一一五 (原種) (候補)	望月(豊作選) (比較用) (在來種)	豊作選八八 (原種) (候補)
第七區	第六區	第八區	第五區	第四區	第二區	第三區	第一區
二、八四〇	二、七七〇	二、七五六	二、八〇〇	二、六八六	二、六八六	二、七二〇	二、七二〇
二、八四〇	二、七七〇	二、七五六	二、八〇〇	二、六八六	二、六八六	二、七二〇	二、七二〇
二、八〇五	二、七七八	二、六八六	二、七三六	二、六八六	二、六八六	二、七三六	二、七三六
				<p>豊作選八八ハ成熟稍早キ在來望月ト特 性殆ンド異ナル所無シ。</p> <p>豊作選一一五ハ望月及八八ヨリ成熟少 シク早ク長稍短シト雖モ穂ハ長大ニ シテ收量多ク當地ニ適スト認メタリ。</p>			

安倍				庵原			
區乙		區甲		區乙		區甲	
豊作選在來種 (比較用) (在來種)	豊作選一一五 (原種) (候補)	豊作選在來種 (比較用) (在來種)	豊作選八八 (原種) (候補)	豊作選在來種 (比較用) (在來種)	豊作選一一五 (原種) (候補)	豊作選在來種 (比較用) (在來種)	豊作選八八 (原種) (候補)
第七區	第六區	第八區	第五區	第七區	第五區	第六區	第三區
七、〇三三	六、七二六	七、五〇二	七、〇二四	一六三、三〇〇	一七九、九〇〇	一六九、七〇〇	一六九、一七五
七、〇三三	六、七二六	七、五〇二	七、〇二四	一六三、三〇〇	一七九、九〇〇	一六九、七〇〇	一六九、一七五
六、八八九	七、二六三	六、八二三	六、七九九	一六八、三五〇	一六八、三五〇	一六八、三五〇	一六八、三五〇
				<p>本年ハ天候順調ナリシ爲メ稲ノ發育良 好ニシテ病虫害等モ少ク在來種及八 八號ハ極僅少ノ螟蟲害ヲ認メタルノミ ニシテ他ノ病虫害ヲ殆ンド認メザリキ 然レドモ一五號ニハ少シク葉枯病ヲ 認メタリ。收量ハ一五號最モ多キガ 故ニ今少シク葉枯病ニ留意セバ尚一層 ノ多收獲ヲ得ベク最モ有望ナリト思惟 ス。</p> <p>豊作選一一五ハ在來種ニ比シ出穂三日 早ク成熟五日遅レテ播種シ又第一、第 四、第五及第八ノ四區ハ道路ニ接シ第 一、第五及第八ノ四區ハ道路ニ接シ第 地肥沃ナリシガ如ク從テ本成績ハ多ク ノ信ヲ置キ難カル可シ。</p>			

磐田		周智		小笠	
磐田朝日三號 (比較用原種)	畿内晩生五〇 (原種候補)	改良神力 (比較用)	畿内晩生五〇 (原種候補)	駿河錦 (比較用)	駿河錦 (比較用)
第一區	第二區	第一區	第二區	第三區	第一區
同	合計シテ調査ス	五、四〇〇	六、〇〇〇 五、七九〇	二、四六〇	二、六八六
一五九、七五〇	一四五、八〇〇	五、五五〇	五、八九五		
畿内晩生五〇ハ磐田朝日三號ニ比シ生育收量共ニ稍劣リ且ツ穂頸稻熱病ニ罹リ易シ。		畿内晩生五〇ハ相當收量有ルモ葉枯病等ニ弱キ傾アリ。且ツ中田以下ニ適セザルモノ、如ク尙又藁丈短キ爲メ一般ニ當業者ハ收量ノ多キ割合ニ之ヲ歡迎セザルガ如シ。		(四區並列セシノミニテ田字形ニ二區ツ、置カザリキ) (地力不均一ニシテ成績多ク信シ難シ)	

引佐		濱名			
在來神力 (比較用)	畿内晩生五〇 (原種候補)	區乙 礎 穂 (比較用)		區甲 豊作選八八 (原種候補)	
第一區	第二區	第五區	第六區	第七區	第八區
六、一三〇	六、一八三	四、六六〇	四、四二〇	五、二四〇	四、四六〇
六、一五七	五、六二二	四、九五〇	四、四四〇	五、〇〇〇	四、七九〇
畿内晩生五〇ハ前年度ト同様收量多ク且ツ病蟲害抵抗力強ク栽培容易ナリ。					

右供試ノ原種候補品種中豊作選一一五ハ前記ノ如ク塙内ニ於ケル累年ノ試験成績モ著シク佳良ニシテ且ツ右記試験ノ成績ニ觀ルモ縣下ノ大部分ノ地方ニ適シ一般ノ好評大ナルヲ以テ十二年度ヨリ「豊

穂一號」ト改稱シテ原種ノ内ニ加ヘ縣下ニ奨勵スルコト、セリ。

乙、栽培法其他ニ關スル試驗
一四 豊凶考照試驗

年々同一ノ土地ニ於テ同一ノ耕種法ニヨリ早中晩各三品種ノ水稻ヲ栽培シ一定ノ期日ニ於テ生育ノ狀況ヲ調査シ之レヲ例年ト比較對照シ又氣象ノ如何ヲ參照シテ稲作ノ豊凶ヲ知ラントスルモノナリ。本年度各期ノ生育狀況及ビ收量並ニ氣象ノ概要ヲ示セバ左ノ如シ。

一、大 暑

品 種	大正十一年		平 年		比 較
	草丈	數	草丈	數	
早稻三種平均	二、二四	一九 _本	二、〇〇	一九 _本	二 _尺 二四
中稻三種平均	二、一二	二五	一、八二	二二	三〇
晚稻三種平均	一、九〇	三二	一、六五	二五	二五

本試驗ノ水稻ハ例年ノ如ク五月一日ニ播種シ六月二十日ニ插秧シタリ。而シテ苗代期間ノ天候適順ニシテ植付當時ノ早魃モ用水源ニ缺乏ヲ感ゼザル當場ノ如キ地方ニアリテハ殆ド關係ナク植付後ノ天候モ概ネ適順ナリシヲ以テ右表大暑當日ノ調査ニ見ルガ如ク水稻ノ伸長株張甚ダ良好ニシテ本田ニ於ケル螟蟲ノ被害亦尠ク作況平年ニ比シ良好ナリ。但シ插秧當時早魃ノ爲メ植水等ニ缺乏シタル地方等ニアリテハ生育ノ劣レルコトアルベシ。

二、二百十日

品 種	大正十一年		平 年		比 較
	草丈	數	草丈	數	
早稻三種平均	三、四一	一五 _本	三、一一	一六 _本	三〇 _尺 △
中稻三種平均	三、四九	一九	三、一九	一八	三〇
晚稻三種平均	三、四〇	二五	三、一七	二二	二三

大暑以後ノ氣候ハ晴天連續シテ氣温高ク早稻ハ八月十七日ニ出穂シ平年ヨリ三日早ク中晩稻ハ未ダ出穂セズ作況ハ平年ニ比シ良好ナリ。

三、秋 分

二百十日以後二十日迄ハ氣温高ク適順ニシテ二十一日ヨリ急ニ温度低下シタレドモ暴風ノ被害ナク作況ハ平年ニ比シ良好ナリ。

四、大雪(收量)

品 種	大正十一年		平 年		比 較
	玄米收量	一升重量	玄米收量	一升重量	
早稻二種平均	二、二三六	三七九 _石	一、九八一	三七三 _石	二五五 _石 増
中稻三種平均	二、九九八	三八一	二、三九四	三七八 _石	六〇四 _石 同
晚稻三種平均	三、〇三一	三八三	二、三二三	三七七 _石	七〇八 _石 同

△印ハ減ヲ示ス

稻作期間ノ氣候ハ前記ノ如ク苗代時期ヨリ登熟期ニ至ルマデ適順ナリシ爲メ前表ノ如ク平年ニ比シ早稻ハ一割二分八厘、中稻ハ二割五分一厘、晚稻三割〇五厘ノ增收ヲ示セリ。

一、氣象表(大正十一年)

項目	五月		六月		七月		八月		九月		十月		十一月	
	上旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬
最高氣温	30.6	31.9	30.6	31.9	30.6	31.9	30.6	31.9	30.6	31.9	30.6	31.9	30.6	31.9
最低氣温	15.0	16.0	15.0	16.0	15.0	16.0	15.0	16.0	15.0	16.0	15.0	16.0	15.0	16.0
平均氣温	22.8	24.0	22.8	24.0	22.8	24.0	22.8	24.0	22.8	24.0	22.8	24.0	22.8	24.0
最高降水量	67.5	75.0	67.5	75.0	67.5	75.0	67.5	75.0	67.5	75.0	67.5	75.0	67.5	75.0
最低降水量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均降水量	33.8	37.5	33.8	37.5	33.8	37.5	33.8	37.5	33.8	37.5	33.8	37.5	33.8	37.5
日照時間	270	285	270	285	270	285	270	285	270	285	270	285	270	285

一五 多收穫挿植法試驗

多量ノ肥料ヲ施シテ多收穫栽培ヲ行フ場合ニ在リテハ稻苗ノ挿植方法ノ如何ハ倒伏、病害、坪當穂數、穂ノ大小乃至ハ充實ノ良否等ニ大ナル關係ヲ有スルヲ以テ多收穫栽培法トシテ研究ヲ要スル大項目ノ一ツナリト信ズ。因テ之ガ研究ヲ行ハントスルモノニシテ試驗方法ハ二區制ト爲シ第一區ニ磐田朝日三號ヲ用ヒ第二區ニ富士ヲ用ヒタリ。苗ハ普通ノ水苗代坪一合播ノモノヲ用ヒ肥料ハ反當玄米五石ノ收量ヲ目的トシテ設計シ挿植ノ方法ニ依リテハ倒伏其他ノ障害ノ起ル可キヲ豫期シテ左記ノ如キ多肥料ヲ兩區共ニ施シタリ。

肥料名	段當用量	所含三要素			元肥	追肥		
		窒素	磷酸	加里		七月上旬	七月中旬	七月下旬
堆肥	四二、八一八	三、一七一	二、六三六	三、六六五	四一、八一八			
青刈大豆	二七、〇〇〇	六、七九	〇、九四	八、五四	一七、〇〇〇			
大豆粕	三〇、〇〇〇	二、〇一〇	四、九八	六、三〇	一〇、〇〇〇			一〇、〇〇〇
菜種粕	二〇、〇〇〇	九、〇四	四、七二	二、六〇	二〇、〇〇〇			
鯨粕	一五、〇〇〇	一、六〇五	五、四三	一、〇五				
硫酸安母尼亞	三、五〇〇	七、三四					三、五〇〇	
蒸製骨粉	八、〇〇〇	三、三三	一、九六		八、〇〇〇			
強過磷酸石灰	八、三〇三		一、六〇〇				八、三〇三	

硫酸加里	10.67							
石灰	30,000							
計		9,426						
			7,799					
				8,755				
					30,000			
						5,637		
								5,000

試驗區別左ノ如シ。

區名	試驗區別	坪數	一株苗數	坪數當	備	考
1	畦幅一尺三點植區 株間一尺	36 ^株	6 ^本 (二本ヅ、三點)	216 ^本	第一區 (磐田朝日三號)	
2	畦幅一尺 株間六寸六七區(標準)	54	3	162		
3	畦幅一尺八寸ト四寸トノ交互區 株間四寸	81、8	2	164		
4	畦幅一尺八寸三點植區 株間七寸五分	26、7	6(二本ヅ、三點)	160		
5	畦幅一尺 株間六寸六七區(標準)	54	3	162		
6	畦幅九寸區 株間四寸	100	2	200		
7	畦幅一尺 株間六寸六七區(標準)	54	3	162	第二區 (富士)	
8	畦幅一尺八寸三點植區 株間七寸五分	26、7	6(二本ヅ、三點)	160		
9	畦幅一尺 株間六寸六七區(標準)	54	3	162		
10	畦幅一尺八寸ト四寸トノ交互區 株間四寸	81、8	2	164		
11	畦幅一尺 株間六寸六七區(標準)	54	3	162		
12	畦幅一尺三點植區 株間一尺	36	6(二本ヅ、三點)	216		

然ルニ試驗ノ結果ハ九月末迄ハ一般ニ生育極メテ良好ニシテ珍ラシク出來榮ヲ示シタルガ十月一日夜襲來セル烈風豪雨ノ爲メ各區共殆ンド全部平伏シテ下敷トナリタル株ハ其後腐敗ニ近キニ至レリ。故ニ收量調査ノ結果モ參考トセラレ得ベキ成績ヲ得ルコトヲ得ザリシガ故ニ茲ニ記載ヲ省略シ次年度更ニ試驗ヲ行フコト、セリ。

一六 廣畦栽培法試驗

稻田除草ニ人力ヲ省キ畜力又ハ機械力ヲ利用セントスルニハ畦幅ヲ或ル程度迄廣クスルヲ以テ便トスベシ。當場ハ本年度中用稻田除草機ヲ考案製作シテ別ニ之ガ實地試驗ヲ行ヒ豫想以上成績ノ佳良ナルヲ認メタレドモ本試驗ニ在リテハ除草ハ専ラ人力ニ依リテ行フコト、シ單ニ廣畦栽培其事ガ從來ノ插植方法ニ比較シ收量ニ如何ナル結果ヲ來スカヲ知ラントスルモノナリ。

- 試驗區別左記ノ如シ。
- 1 畦幅一尺株間七寸二分區 (坪五十株) (標準)
 - 2 畦幅二尺株間三寸六分區 (同)
 - 3 畦幅二尺ト四寸トノ交互株間六寸區 (同)
 - 4 畦幅二尺ト一尺トノ交互株間四寸八分區 (同)
 - 5 畦幅一尺株間七寸二分區 (同) (標準)

試驗ハ一區制トシ前記ノ區別ノ外ハ苗代本田共ニ總テ普通ノ耕種法ニ據リ各區トモ三本植トシ各區坪五十株植ナルガ故ニ一坪當苗數ハ各區共百五十本トナル。品種ハ磐田朝日三號ヲ用ヒタリ。試驗成績ノ概要左ノ如シ。

區名	試驗區別	出穂始期	出穂期	穂揃期	成熟期	玄米段當收量		一升重量	米段當量
						實收量	地力更正收量百分比		
1	畦幅一尺 株間七寸二分區(標準)	九、五	九、八	九、九	一、一	三、二〇七	100.00	三九〇	一五七
2	畦幅二尺 株間三寸六分區	六	八	九	二	二、九二	九三、二五	三九三	一四二
3	畦幅二尺ト四寸トノ交互區 株間六寸	六	八	九	二	二、九三二	九五、八六	三九三	一三三
4	畦幅二尺ト一尺トノ交互區 株間四寸八分	五	七	八	一	三、〇一五	101.41	三九三	一三三
5	畦幅一尺 株間七寸二分區(標準)	五	七	八	一	二、九〇八	100.00	三九二	一六〇

更ニ試驗ヲ繼續シテ成績ヲ確ムル所アルコトシ。

一七 直播ニ關スル試驗

時代ノ趨勢ハ稻作經營方法ノ根本的改革ヲ要求セントスルガ如ク少ナクモ今日ヨリ之等ニ關スル研究ヲ行フコトハ技術者ノ責務タルベシ。然レドモ之ヲ如何ナル方向ニ如何ニ改革スベキカハ未ダ明ラカニセザル所ニシテ種々ノ方面ニ向テ研究ノ必要アルベキモ其第一着手トシテ直播ニ關スル研究ニ着手シタリ。即チ從來ノ移植法ニ比較シテ直播法ノ勞力節減及ビ其分配調節上又ハ機械ノ利用上適當

ナルベシトハ容易ニ想像セラル、所ナリ。而モ此直播法ハ古來地方ニ依リ往々行ハレツ、アリシガ如キ普通ノ苗代播種期ニ於テ直播スル方法ニテハ害蟲ノ被害及ビ裏作物ノ支障アリテ全般ニハ應用シ難カルベシ。故ニ全然新シキ試ミトシテ裏作物收納後ノ時期ニ於ケル直播ニ重キヲ置キテ試驗ヲ行フコト、シ其内本年度ハ左記一及二ノ二項ニ關シテ試驗ヲ施行シタリ。

一 品種別直播移植比較試驗

普通ノ移植時節即チ六月二十日前後ニ於テ直播スル時ハ稻ノ生育期間短縮セラレ成熟ノ遅ル、關係上稻ノ品種ニ依リテハ(特ニ晩生ニ在リテハ)移植ニ比シ甚シキ減收ヲ來スコト無キヤ否ヤ。又如何ナル品種ガ斯ノ如キ時期ニ於ケル直播ニ適ス可キヤ等ヲ知り兼ネテ移植ニ對シ直播ノ生育收量等ヲ比較セントスルモノナリ。

試驗ノ方法ハ二區制ト爲シ其第一區モ第二區モ一枚ノ田區ニ畦畔ヲ造リテ縱ニ二等分シテ一方ヲ移植區他方ヲ直播區ト爲シ且ツ其ノ移植區ト直播區トニ早生ヨリ晩生ニ至ル七品種ヅ、ヲ同一品種ガ相對スルヤウ配列シテ移植又ハ直播シテ其成績ヲ檢スルモノトス。

耕種ノ方法ハ移植區ハ苗代ハ普通一般ノ場合ト同ジク五月一日播種、坪當三合播トシ六月二十一日移植シ(直播ト同日)坪五十四株三本植トシ本田肥料ハ普通肥料ヲ用ヒタリ。又直播區ハ浸種セル粃種ヲ移植ト同日ニ本田ニ直播シ坪五十四株一株約十粒播トシ肥料ハ移植區ト全ク同一ト爲シ一番除草ノ際株直シヲ行ヒテ各株六、七本ヅト爲シタリ。

試驗成績ノ概要左ノ如シ。

第一區(9區)ハ直播ノ際畿内早生二十二號ヲ用フ可キノ處誤リテ特選小丈ヲ播種シタリ)

區別名	品種名	出穂始期	出穂期	穂揃期	成熟期	稈長	穗數	最長	玄米段當收量	一升重量	粃摺歩合	段當重量

尚各區ニ就キ代表的ノ十株ヲ刈取リテ穂ノ性狀ヲ精査セルニ其成績左表ノ如シ。

第一區

區別	區名	品	種	名	平均一穂ノ穂數	平均長	平均一穂ノ分枝數	平均一穂ノ總粒數	平均一穂ノ稔實粒數	平均一穂ノ批數				
27	畿内早生二十二號(早)	一四	一六	二二	—	三、〇五	一六、四	六、六二	八、九二	七、九七	四、八一	七、三五	九、〇一	一四二
28	静岡愛國第一號(早)	二四	二六	一八	二二	三、〇二	四、四六	六、〇二	五、五二	七、三九	六、八三	七、三六	〇、七四	一一五
1	静岡愛國第一號(早)	二二	二二	六、四二	一〇、〇	一一、〇	九、〇	二〇、二						
2	畿内早生二十二號(早)	(精査ヲ缺ク)												
3	穀良都(早ノ晩)	一三、八	七、〇九	九、五	一〇四、〇	七六、三	二五、七							
4	富士中神力(中ノ早)	一九、七	六、三三	七、九	七二、二	五九、二	一四、〇							
5	愛媛神力(中)	一八、五	五、九九	八、七	七四、五	六五、七	八、八							
6	静岡源一本第一號(中ノ晩)	一六、七	六、〇一	八、九	八一、六	七三、五	九、一							
7	富士(晩)	一七、〇	六、三三	九、六	九八、九	九二、七	六、二							
8	静岡愛國第一號(早)	一九、八	五、〇三	九、六	八一、九	七六、五	五、四							
9	特選小丈(早)	一五、八	五、四六	九、二	七三、一	六七、三	五、八							

第二區

區別	區名	品	種	名	平均一穂ノ穂數	平均長	平均一穂ノ分枝數	平均一穂ノ總粒數	平均一穂ノ稔實粒數	平均一穂ノ批數
10	穀良都(早ノ晩)	一八、二	六、〇八	八、五	七四、八	六三、六	一一、三			
11	富士中神力(中ノ早)	二一、六	五、二〇	六、七	五三、三	五〇、七	一、七			
12	愛媛神力(中)	二四、六	四、九二	七、二	四七、五	四四、二	三、三			
13	静岡源一本第一號(中ノ晩)	一九、七	五、二五	七、七	五八、二	五三、五	四、七			
14	富士(晩)	二〇、四	五、三二	八、五	六九、四	六四、七	四、七			

區別	區名	品	種	名	平均一穂ノ穂數	平均長	平均一穂ノ分枝數	平均一穂ノ總粒數	平均一穂ノ稔實粒數	平均一穂ノ批數
15	富士(晩)	二〇、三	五、三二	八、一	六四、三	五九、六	四、七			
16	静岡源一本第一號(中ノ晩)	二七、五	四、九七	六、六	四九、九	四七、五	二、四			
17	愛媛神力(中)	二五、三	四、六五	五、四	四二、〇	三九、二	二、八			
18	富士中神力(中ノ早)	二四、〇	四、八三	六、〇	四五、三	四〇、〇	五、三			
19	穀良都(早ノ晩)	一五、八	五、七二	七、一	五九、一	五三、三	六、九			
20	特選小丈(早)	一六、五	五、一六	八、五	六〇、三	五四、八	五、五			
21	静岡愛國第一號(早)	二六、三	四、七〇	八、四	五七、九	五三、五	四、四			

移 植 區						
28	27	26	25	24	23	22
静岡愛國第一號(早)	畿内早生二十二號(早)	穀良郡(早ノ晚)	富士中神力(中ノ早)	愛媛神力(中)	静岡源一本第一號(中ノ晚)	富士(晚)
一六、九	一九、九	一五、五	二〇、〇	二〇、一	三三、七	一五、八
六、三	五、九三	六、九九	五、八二	五、七三	五、八四	六、三〇
一〇、三	八、四	七、八	七、四	八、二	八、五	一〇、二
一〇〇、八	八九、四	一〇二、一	六、八	六〇、五	七九、三	六、一
八一、四	七九、〇	八一、六	六二、二	五五、〇	七二、八	八九、七
一九、四	一〇、四	二〇、五	五、六	五、五	七、五	六、四

備考、直播區ニモ前記ノ如ク移植區ト同様當場ノ普通肥料ヲ施シ初期ニ肥料分過多ナリシ爲カ又ハ其他ノ原因カハ不明ナレドモ第一第二區共ニ直播區ニ限リ七月下旬頃ヨリ八月中旬頃迄肥稻熱病ノ發生多カリキ。但シ品種ニ依リ被害ノ程度ニハ差異アリタリ。

右成績ニ就テ之ヲ觀ルニ僅カニ一ケ年ノ試験ニ過ギザレバ未ダ結論ヲ與フルニハ尙早ナレドモ大體上左記ノ判定ヲ下シ得可キカ。而シテ繼續試験ノ成績ニ依リ之ヲ確カムルコト、スベシ。

移植ニ比シ移植時期ニ於ケル直播ハ

(1) 出穂、早生ニテハ十七、八日中晩稻ニテハ十日内外遅延シ成熟ハ早中晩共ニ大凡十日内外遅延セリ。

(2) 稈長ハ一寸以上多キハ三寸五分平均約一寸短縮セリ。

(3) 一株ノ穂數ハ少ナクモ一、二本多キハ七、八本多ク其代リ穂ノ大サ小ニシテ一穗平均分枝數モ

一、二本乃至三本位少ナク一穗平均總粒數ニ於テモ二十粒乃至三十粒内外少ナシ。故ニ直播ノ場合一株ノ粒數(又ハ株直シノ際殘シ置クベキ一株ノ苗數)ヲ減少セバ此現象ハ大イニ緩和セラレ、ニハ非ラザルベキカ。

(4) 玄米收量ニ在リテハ左表ノ如ク早生ハ大差無ク(愛國ノ如キハ却テ幾分ノ增收ヲ示セリ)中生及晩生ハ段當五、六斗乃至八斗以上ノ減收ヲ示セリ。而シテ直播區ノミニ於テ品種ヲ比較セバ中晩生ニ比シ早生ノ方却テ幾分ノ多收ヲ觀ルコト、成リ移植ノ場合ニ早生ニ比シ中晩稻ノ方一般ニ多收ナルコト、ハ其趣ヲ異ニス。

移植區ニ比シ直播區ノ玄米段當減收量(但シ畿内早生ト特選小丈トハ異品種ニ付之ヲ省略ス)

品 種 名	第一區	第二區	二區平均
静岡愛國第一號	〇七二	三四〇	二〇六
穀良郡	(+)(+)	(+)	(+)(+)
富士中神力	一五七	一五五	〇〇一
愛媛神力	五三五	七四五	六四〇
静岡源一本第一號	八八五	八二五	八五五
富士	五〇三	四二四	四六四
富	七八二	八四一	八一二

(二) 直播々種法試驗

水稻ヲ直播スル場合點播、條播、廣播等如何ナル播種式ヲ以テ適當トスルカヲ知ランガ爲メノ試驗ニシテ普通ノ如ク代掻ヲ行ヒタル田面ニ三日間浸種セル種籾ヲ播種セリ。品種ハ静岡愛國第一號ヲ用ヒ各區段當種籾四升ノ割合ニ播種シ肥料ハ普通移植ノ場合ト同一ニ爲シ一區制ヲ以テ試驗シタリ。試驗區別並ニ成績ノ概要左表ノ如シ。

區名	試 驗 區 別	玄 米		粳 米		重 量		容 量		段當重量
		段當收量	一升重量	段當收量	一升重量	重 量	容 量			
1	畦幅一尺 株間六寸六七坪(五十四株)十粒點播區	二、八六〇	二八六	三九五	八四、一六	六〇、九七	一五〇			
2	畦幅一尺 播幅一寸條播區	二、四三三	二八二	三九四	八三、六六	五九、九六	一三九			
3	畦幅二尺 條間五寸二條播區	二、四三八	二七九	三九五	八四、〇七	五九、四七	一四四			
4	畦幅二尺 播幅五寸廣幅條播區	二、三〇〇	二七六	三九六	八三、九四	五八、八四	一三九			

備考、前記ノ内2、3、及4區等ニハ播種ノ際種子ノ幾分流失シタルモノアリテ從テ發芽不充分ナル箇所モアリシ等右成績ノミニテハ未ダ確信ヲ得難シ。故ニ今後繼續試驗ヲ施行シテ確實ナル成績ヲ求メントス。

第一一 麥

大正十年度(十一年收穫)麥試驗成績ニ關シテハ前年度ノ報告ニ掲ゲタルガ故ニ茲ニ登載セズ。十一年度ノ成績ニ就テハ次年度ノ報告ニ記載スベシ。

第三 綠肥大豆

本縣ニ於テ綠肥大豆トシテ園地ハ勿論水田裏作ニ於テモ好成績ヲ揚ゲツ、アルモノハ黒千石三號種ナリトス。而シテ當場ニ於テハ之レガ採種ヲ行ヒ一般當業者ニ無償配布ヲ行ヒツ、アリ。本年度ニ於テ施行セル綠肥大豆栽培試驗方法及成績ヲ示セバ次ノ如シ。

區名	供試面積	播 種 量	各粒ノ間隔	收 量	反當收量
1	〇、七七八	三〇、六	〇、五平方	二、〇〇八	八〇三、二〇〇
2	同	七三、九	一、〇平方	一、七四二	六九六、六〇〇
3	同	三二、八	一、五平方	一、四六一	五八四、五三三
4	同	一八、五	二、〇平方	一、二三六	四九四、二六七
5	同	一一、八	二、五平方	九九九	三九九、七三三
6	同	八、二	三、〇平方	八四一	三三八、九三三
7	同	六、〇	三、五平方	七三五	二九三、八〇〇
8	同	四、六	四、〇平方	五三五	二一四、〇〇〇

備考、播種四月十九日。採收 六月十五日
水田高畦。四尺ノ撒幅ニ撒播ス。
供試品種 黒千石三號

第四 甘 薯

本縣ニ於テ米麥ニ次グ主要食糧農作物タル甘薯ニ就キ品種ノ改良ヲ行ハンガタメ大正九年度ヨリ主産地タル駿東及磐田ノ二郡内ニ委託試驗地ヲ設置シ品種比較試驗及純系淘汰ニ着手セリ。

一 品種比較試驗 (委託試驗)

優良品種ヲ選抜スル目的ヲ以テ縣ノ内外ヨリ煮食用又ハ切干用ノ多數品種ヲ蒐集シテ比較試驗ヲ施行ス。

試驗地及擔當者

(一) 駿東郡 鷹根村 青野

鈴木 仙藏

(二) 磐田郡 富岡村 賀茂西

磐田郡 甘藷切干同業組合

試驗成績ノ概要次ノ如シ。但シ駿東郡ニテハ三尺種ヲ標準區ニ用ヒ磐田郡ニテハ飯郷種ヲ標準區ニ用ヒ試驗ヲ行ヒタリ。而シテ双方共三品種毎ニ標準區ヲ設ケ地力更正ヲ行ヒタルモノナリ。

區名	品種名	著少	著ノ大小	形狀	揃否	外皮色	肉(質)色	諸反當收量	層ノ上ニ對スル%	備考
3	紀州	多	稍小	瘤狀	不	淡紅	淡黃白	九六、五六五	一七、三	縦溝アリ不整形
2	六十日	多	中	短紡錘	中	白稍帶紅	角黃	八八七、一四四	一六、七	
1	三尺	多	大	紡錘圓	稍揃	極淡桃	粉黃	七六四、七九	五、三	

區名	品種名	著少	著ノ大小	形狀	揃否	外皮色	肉(質)色	諸反當收量	層ノ上ニ對スル%	備考
4	細蔓	中	中ノ大圓稍瘤狀	稍揃		淡黃褐	角白	一、四七、一六九	九、九	紀州ヨリ出デタルモノナラン
5	餡入	中ノ上	中ノ大	紡錘圓	揃	紫紅	極淡黃	九五五、九七四	六、九	心淡紫赤色ヲ呈ス
6	飯郷	多	中	紡錘圓	揃	紫紅	角白	九八六、五七五	五、七	心ニ淡紫赤色ヲ呈ス
7	日本白	中	中ノ大	紡錘	揃	白	粉黃	八四一、二五七	五、三	
8	源氏	少	中	紡錘圓	不	淡桃黃	淡黃粉	六五〇、一六二	一五、〇	
9	赤源氏	多	中ノ小	稍紡錘	不	赤褐	淡黃角	七六四、七七九	五、八	
10	オイラン	少	中ノ小	紡錘圓	中	濃紅	角白	六九五、九四九	九、一	
11	南京	中	大	瘤狀	中	極淡桃	角黃	一、〇〇、二四		縦溝凹凸「クビレ」アリ忌地性アリ
12	立四十日	少	小	紡錘	不	極淡桃	角白	六六五、三五八	一七、八	
13	紅赤	多	中ノ大	紡錘圓	稍揃	濃赤	濃黃角	七三四、一八八	六、〇	
14	川越青蔓	多	中	紡錘	揃	紅	濃黃角	六六五、三五八	七、二	縦溝凹凸多ク肉色
15	赤異人	少	中	瘤狀	中	桃赤	角白	八四一、二五七	二、九	ニハ淡桃色ノ痕アリ
16	川越赤蔓	多	中	紡錘圓	揃	濃赤	角黃	六二九、四七一	五、九	
17	八幡	中	大	紡錘圓	揃	淡桃白	粉黃	七四九、四八三	三、九	三尺ニ類似ス
18	日本赤	多	中ノ大	長圓	揃	黃褐	粉			蔓枯死セルモノ多カリシ爲調査セズ

(二) 表中諸ノ肉質ヲ角質ノモノハ切干用ニ適シ粉質ノモノハ煮食用ニ適ス。
磐田郡ノ部

區名	品 種 名	一株重量	反當重量	備 考
1	飯 郷	三一四 ^年	九二三、七七五 ^年	諸ノ心部ニ「アン」アリ
2	六 十 日	二三六	六九二、八三一	「形態其ノ他ハ駿東郡ノ部ト同 様ナルヲ以テ當試驗地ニ於テハ 之レガ調査ヲ略ス」
3	細 蔓	三三三	九七九、二〇二	
4	南 京	二六四	七七七、九七一	
5	立 紀 州	二二六	六六五、一一八	
6	金 時 異 人	二二〇	六四六、六四三	
7	三 尺	一八八	六〇九、六九二	
8	紀 州	二五一	七三九、〇二〇	
9	館 入	二九二	八五九、一一一	
10	日 本 白	二三六	六九二、八三一	
11	オ イ ラ ン	二七三	八〇三、六八二	
12	源 氏	二〇七	六〇九、六九二	

14	川 越 赤 蔓	一七九	五二六、五五二
13	八 幡	二二九	六七四、三五六

以上二表共引續キ試驗調査スルモノトス。

一一 飯郷種純系淘汰特性調査試験 (委託)

甘藷飯郷ハ本縣磐田郡地方ニ最モ廣ク普及セル品種ニシテ收量多ク主トシテ切干用ニ供セラル。因
テ本種ニ就キ純系淘汰ニヨル品種改良ヲ行ヒ優良品種ヲ選定セントス。

試驗地及擔當者

磐田郡富岡村賀茂西

磐田郡甘藷切干同業組合

昨年度二十五系ニ就キ特性調査試験ヲ施行セル結果有望ト認ムルモノ二十四系統ヲ選抜シ本年度ノ
試験用ニ供シ右系統ニ就キ諸ノ大小。形狀。整否。帯皮色ノ濃淡。着藪數ノ多少。館(肉ノ内部ニ紫色
ノ部分アルヲ以テ本種ノ特性トシ俗ニ之ヲ館ト云フ)ノ多少及收量ノ多少等ノ特性調査ヲ行ヒ二十四
系中有望ト認メラル、モノ十系統ヲ選抜シ次年度ノ試験用ニ供スルコト、シ之レヲ貯藏ス。今其ノ一
〇系統ノ特性ヲ記セバ左ノ如シ。

- (イ)「館」微ナルモノ——六號。六三號。七〇號。
- (ロ)「館」少ナルモノ——二三號。三三號。九三號。
- (ハ)「館」中ナルモ收量多キモノ——一號。八七號。
- (ニ)「館」最多ナルモノ——二六號。一〇〇號。

第五 農 具

最近農業勞力不足セルヲ以テ之レガ補給ニ動力用農具ノ必要ヲ認メ當場ニテハ左記ノモノヲ設備ス

ルト同時ニ農具ニ關スル試験研究ヲ行ヒ尙之レガ貸與ヲナシ且ツ一般當業者ノ指導ヲ行フ。

一、耕耘機

ビーマン、ガーレン、トラクトル

固定馬力

牽引馬力

四馬力

一、五馬力

米國製

二、動力機

インターナショナル石油發動機

一、五馬力

米國製

Z型石油發動機

同

同

エドワードモーター

一、五—六馬力

同

三、動力農具

動力掛脱穀機

二馬力

獨逸製

動力掛糶摺機

自働脱穀機

大和式大豆粕粉碎機

清水式精米麥機

第六 米麥原種圃及採種圃

農商務省令主要食糧農產物改良増殖獎勵規則ニ遵ヒ優良品種普及ノ目的ヲ以テ水稻及麥各五段歩ツ、ノ原種圃ヲ當場ニ於テ經營シ其ノ生産種子ヲ増殖セシムル爲メ本縣農會ニ委託シ各郡農會管理ノモトニ米麥第一次採種圃ヲ各郡ニ分置シ更ニ町村農會經營又ハ自家經營ノ第二次採種圃ヲ設置セシメ當場ハ專ラ之ガ指導監督ヲ行ヒタリ。

一 水稻原種圃

(一) 大正十一年度原種圃栽培段別、收穫高及配付數量

獎勵品種名	栽培段別	選種經濟種子高	配付數量
静岡 小丈一號 (早)	一〇〇	二四五	二三七
静岡 愛國第一號 (早)	八〇〇	二、一二〇	二、〇九四
畿内 早生二十二號 (早)	四〇〇	一、〇八四	一、〇七〇
愛媛 竹成 (中)	二一五	七六六	七五五
畿内 晚生第四號 (中)	二〇〇	六一〇	五九五
愛媛 媛神力 (中)	二一五	七八五	七五〇
磐田 朝日三號 (中)	九〇〇	二、九二〇	二、七六五
静岡 源一本第一號 (中ノ晚)	一、二〇〇	四、三九〇	四、二五六
富士 (晚)	九〇〇	三、三二〇	三、二四〇
計	五、〇〇〇	一六、二四〇	一五、七六二

(二) 配付先別配付數量

一、梨果被袋纏縛材料適否試驗

一、目的 各種纏縛材料ノ使用ノ難易並ニ耐久力等ニ關シ試驗ヲ行ハントスルニアリ。

種類	材料十斤ニ對スル採用數		同上數量中使 用ニ耐ヘル數		反當 使用數	結束 行程(十時)	備	考
	採用數	耐ヘル數	採用數	耐ヘル數				
棕 栝	二二七	一一	一、三八九	七八〇	長サ七寸、二ツ切リトス			
サ、ミ	二二〇	八八	二、二七三	七二五	長サ七寸、二度切リ三ツトス			
備 後 蘭	四〇〇	四〇	〇、八三三	九五〇	長サ七寸 全長ヲ二度切リ二ツトス			
琉 球 蘭	二〇四	一〇	一、五四六	九五〇	長サ七寸 全長ヲ三度切リ四ツトス			
藁 莖	八七	九	三、八四六	九三〇	長サ七寸 全長ヲ一度切リ二ツトス			
藁 ミ ゴ	一四七	二九	二、五四二	九五〇	長サ七寸、全長ヲ一度切リトス			
菅	二二〇	六三	二、〇四一	七九〇	長サ七寸 全長ヲ一度切リ二ツトス			

一、纏縛ノ際ニ於ケル成績
 棕栝 葉平タキ故作業迅速ヲ缺キ使用困難ナリ。但シ強靱ニシテ結縛ニ際シ切斷スルコトナシ。
 サ、ミ 切レ易ク結ビニクシ。
 備後 前者ヨリ良ケレ共使用容易トハ云ヒ難シ。細キモノハ切レ易シ。
 琉球蘭 強靱ニシテ取扱ヒ良シ。

藁莖 結束シ易ケレ共節隆起スルタメ太キモノハ惡シ。

藁ミゴ 比較的結ビヨク前者ヨリ可ナリ。

菅 先端部ニアタルモノハ切レ易シ。作業圓滑ナリ。

以上成績ノ結果、琉球蘭、藁ミゴ、藁莖、備後蘭、菅、棕栝、サ、ミノ順位ナリ。最モ強靱ナルハ棕栝ヲ第一トシ次ハ琉球蘭ナリ。

一、耐久力成績

六月二日被袋ノ際使用セシモノヲ七月廿一日調査ス。

棕 栝 一、結縛セルモノ、一端ヲ曳ケバ全數ノ約八割ハ容易ニ切り取ルコトヲ得。當時ノ質甚ダ脆弱トナリ居レリ。

サ、ミ 一、縛跡ヲ附セズ。從ツテ樹枝ニ及ボセシ影響ナキガ如シ。

藁 莖 一、當時甚ダ脆弱トナリ先端部ヲ用ヒシモノハ指ヲ觸ル、ヤ否ヤ離ル、ガ如ク弱レリ。

藁 ミ 一、縛跡影響更ニナキガ如シ。

備 後 蘭 一、比較的強シ。除去ニ際シ一端ヲ曳クトキハ葉枝ヲ損傷スルコトアリ。

琉 球 蘭 一、縛跡ヲ稍附ス。

藁 莖 一、乾燥状態ニテハ比較的脆シ。然レ共除去ニハ稍困難即チ稍強キガ如シ。

菅 一、縛跡比較的的多シ。發育影響殆ドナシ。

一、強靱性ヲ失ハズ。二廻リニ結ビシモノ、除去ハ甚ダ手数ヲ要ス。

一、縛跡ヲ殘存ス。發育ニ對スル影響二廻リノモノ稍アリ。

一、莖部ヲ使用セシモノハ強靱性アリ。先端部ノモノ脆シ。

備後蘭 一、縛跡殆ど無シ。
一、莖部ヲ使用セルモノ比較的強韌性アリ。但シ先端部使用ノモノハ甚ク脆シ。本末ノ

強弱ノ差大ナリ。
一、縛跡影響ナキガ如シ。
要スルニ除去ニ便ナルモノハ、ササミ、棕櫚、菅、備後、藁ミゴ、藁莖、琉球蘭ノ順ナリ。

一 苺石垣栽培試験

一、目的 苺石垣見本栽培ト併セテ早熟栽培上石垣勾配ガ如何ナル關係アルカヲ試験スルニアリ
一、方法其他

面積 十八平方尺

石ノ大キサ 徑大石五寸、小石三寸

第一區 八十度 石數一五二個 株數 九二株

第二區 六十度 同 一七三個 同 一二七株

第三區 四十度 同 一一八個 同 九四株

一、築構法

石垣ニ沿ヒ約一尺ハ肥土ニシテ石垣ヲ造リツ、株ヲ植エ付ケ各株ノ重疊セザル様ニナセリ。
特ニ積上ゲノ際木灰及油粕ヲ右面積ニ對シ約三合ヲ施ス。夜間ハ蓆ニテ覆フ。

一、大正十一年十一月七日ヨリ五十日間ノ石垣地温觀測

第一區 二千六百三十三度五分

第二區 二千二百〇八度

第三區 二千二百七十一度

但シ一日午前十時、午後二時、午後六時三回觀測ノ合算ナリ。

一、成績

地温 第三區最も高シ(五十日間)而シテ風強キ日ハ第一區最も地温ノ上昇少シ。第三區ハ此影響ヲ受クルコト少シ。又夜間温度ノ下降ハ第三區最も甚ダシ。

生育 第三區最も良シ。

開花 第三區最も早く第二區第一區ノ順位ナリ。

三 見本園

見本果樹トシテ栽培セルモノハ梨、桃、葡萄、柿、梅、無花果ニシテ梨ハ日本梨二十八種、西洋梨三十七種、桃ハ十四種、葡萄ハ十種、柿ハ廿柿八種、澁柿九種、梅ハ十五種、無花果ハ十種ナリ。

第二 花卉及藥草

農家ノ副業ノ見本タラシメンガタメ種々ノ花卉並ニ藥草ヲ栽培シ兼ネテ之レガ種苗ノ配付ヲ行フ。
特ニ藥草ニアリテハ以上ノ目的ノ外ニ内務省ノ委託ヲ受ケ各種藥草ノ經過習性ヲ調査ス。

第三 蔬菜

蔬菜ノ各種優良品種ヲ集メテ栽培シ農家ノ見本トナシ且ツ農事講習生ノ實地練習材料トス。而シテ蔬菜ノ試験研究ニ關シテハ蔬菜部ニテ施行ス。

畜産ニ關スル事項

第一 家畜

一、飼育概況

馬 農耕勞役に用シテ去勢馬一頭ヲ飼育ス。
 牛 農耕勞役に用シテ和雜種牝牛一頭ヲ飼育ス。
 豚 「パークシヤア」及ビ「ヨークシヤア」各一番ヲ飼育シテ飼養管理ニ關スル研究ヲ行フト共ニ併セテ仔豚ノ拂下及ビ無料種付ヲ行ヘリ。

二、種豚ノ種付

ヨークシヤア種 種付數 六回
 パークシヤア種 種付數 二回
 計 八回

第三 家禽

一、飼育概況

「黒色ミノルカ」「白色レグホン」「ラインランダー」「名古屋種」「白色ブリマスコック」「横斑ブリマスコック」「ロードアイランドレッド」「淡色ブラマ」ノ八種ヲ飼育シ種禽種卵ノ拂下ヲナセリ。

二、種禽種卵ノ拂下

種禽 四九羽
 種卵 三四五顆

農藝化學部

第一 肥料ニ關スル試驗

一 窒素質肥料肥効試驗

曩ニ數ケ年ニ亘リ圃場試驗ニヨリ縣下重要窒素質肥料ノ肥効ヲ查定セルニ有機性窒素ノ肥効ハ礦物性窒素ニ比シ遙カニ多大ナル成績ヲ得タルヲ以テ大正八年度ヨリ比較ノ爲硝子室内植木鉢試驗及圃場無底圓筒試驗ヲ行ヒ之レヲ繼續シ來リタルモ硝子室内植木鉢試驗ハ本年度收穫ノ第六作大麥ヲ以テ一先打切リトナセリ。

(イ) 硝子室内ニ二分の一反植木鉢試驗
 第六作大麥「青二徳」

前作水稻ト同一設計ノ下ニ其ノ裏作トシテ大麥ヲ栽培セルモノニテ共通肥料ハ磷酸曹達、硫酸加里及炭酸石灰ナリ。一鉢當リ要素量ハ磷酸及加里各々一、五瓦トシ炭酸石灰ハ十瓦ヲ用ヒタリ。窒素ハ〇、五瓦ノ割合ニシテ左記四種ノ窒素質肥料ニ就キ試驗ヲナセリ。今其ノ成績ヲ擧グレバ左ノ如シ。

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	穀實收量	無窒素區ニ對スル同上増收率
一	無窒素區	一、三六	五、三	一五、四三	八、一七	—
二	硫酸「アンモニヤ」區	一、六	一一、〇	三六、五七	一九、六七	100、〇

三	大豆	粕	區	一、八八	一八、三	五、五〇	二六、七三	一六、一四
四	鯨	粕	區	一、八三	一五、三	四二、八三	二二、三	一三、〇
五	菜	種	粕	區	一、八八	一六、〇	四七、四七	一三、四

參考ノ爲既往三年間ニ於ケル水稻及大麥ノ全收量、穀實收量及無窒素區ニ對スル穀實増收率平均ヲ舉グレバ左表ノ如シ。

區名	試驗區別	水		稻		大		麥	
		全收量	穀實收量	全收量	穀實收量	全收量	穀實收量	全收量	穀實收量
一	無窒素區	三、一八	二、八八	—	—	一七、九四	八、七二	—	—
二	硫酸「アンモニヤ」區	七、一〇	三〇、二九	一〇〇、〇	三六、〇一	一六、八九	一〇〇、〇	—	—
三	大豆	六、四六	二七、〇八	八三、三	四九、七四	二三、〇〇	一七六、八	—	—
四	鯨	六、七五	二四、四八	七二、〇	四一、三三	一九、七二	一三七、二	—	—
五	菜	六、三三	二六、〇七	八〇、九	四〇、九〇	一九、七六	一三五、六	—	—

此ノ表ニ見ルガ如ク水稻ノ場合ニ於テハ圃場試驗ノ成績ト反對ニ硫酸「アンモニヤ」ノ肥効、他ノ有機質肥料ニ優レルヲ見ル。然レドモ大麥ノ場合ニ於テハ其ノ反對ナリ。殊ニ注意スベキハ有機質肥料大豆粕ハ水稻及大麥ヲ通ジテ市價最モ高價ナル鯨粕及菜種粕ニ比シ其ノ窒素ノ肥効大ナルコトナリ。

(ロ) 圃場埋設無底圓筒試驗
第四作水稻「愛媛竹成」

供試窒素質肥料ハ前試驗ト同一ニシテ其要素量ハ反當一貫五百トシ磷酸及加里ハ各反當二貫五百トシ過磷酸石灰及硫酸加里ヲ以テ各區共通ニ施給シ尙炭酸石灰ヲ反當四十貫ノ割合ニ加用シテ試驗ヲ施行セリ。
其ノ成績ハ左表ノ如シ。

區名	試驗區別	草丈	一株莖數	全收量	籾收量	無窒素區ニ對スル同増收率	第三作平均
一	無窒素區	二、七三	一〇、一	七〇、二五	三四、二五	—	—
二	硫酸「アンモニヤ」區	二、八二	一四、八	八九、〇八	四四、三八	一〇〇、〇	一〇〇、〇
三	大豆	二、九八	一四、二	一一〇、一三	四六、七五	一三三、四	一三八、七
四	鯨	二、八九	一三、八	一〇三、五〇	四五、〇〇	一〇六、一	一一九、四
五	菜	三、〇〇	一四、一	一〇一、八八	四四、二五	九八、七	一一六、五

第三作成績ハ稍不正確ナルヲ以テ無窒素區ニ對スル増收率平均中ヨリ省畧セリ。

一一 磷酸礬土及アンモホス肥効試驗

近年磷酸肥料トシテ可成其ノ効果ヲ認メラレツ、アル磷酸礬土及「アンモホス」ニ對シテ未ダ其ノ肥効試驗ノ結果トシテ見ルベキモノナキヲ以テ硝子室内ニ二分ノ一反植木鉢ニテ本場無肥料畑地土壤ヲ

以テ他種磷酸肥料ト比較シテ之等肥料ノ肥効ヲ査定センガ爲本試驗ヲ創設セリ。

第一作大麥「青三德」並ニ第二作水稻「愛媛竹成」

本試驗ニ於テハ同一植木鉢ヲ以テ大麥及水稻ヲ交互ニ栽培スルモノニテ其ノ設計ハ同一トス。共通肥料ハ硫酸「アンモニヤ」硫酸加里及炭酸石灰ニシテ窒素及加里ハ各一鉢當リ一瓦ヲ施用シ磷酸ハ試驗區別ノ如キ各種磷酸肥料ヲ以テ一鉢當リ〇、四瓦ヲ施用セリ。而シテ硫酸「アンモニヤ」ハ三回ニ分施シ「アンモホス」中ニ含有スル「アンモニヤ」ハ硫酸「アンモニヤ」中ノ「アンモニヤ」ト同價値ト見做シ「アンモホス」區ノミ共通肥料ノ窒素ヲ減ズ。尙其上炭酸石灰十瓦ヲ各鉢ニ施用ス。今各區三鉢宛ノ平均成績ヲ示セバ次ノ如シ。

大麥「青三德」成績

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	穀實收量	同上百分率
一	無磷酸區	一、九八	二〇、〇 _本	五、七三	二九、二〇	100、0
二	磷酸礬土區	一、九三	二一、三	五、七八七	二九、九〇	101、四
三	沈澱磷酸石灰區	一、九四	一九、〇	五、四七七	二七、四三	九三、九
四	アンモホス區	一、九一	二一、〇	五、八〇三	二八、二三	九六、七
五	過磷酸石灰區	一、九五	二一、三	六、三三七	三二、三三	107、0

水稻「愛媛竹成」成績

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	穀實收量	同上百分率
一	無磷酸區	三、五一	三七、三 _本	一四八、一三	六五、三三	100、0
二	磷酸礬土區	三、四三	三五、〇	一四九、一三	六六、六三	101、0
三	沈澱磷酸石灰區	三、四〇	三三、七	一四五、四〇	六〇、七〇	九二、九
四	アンモホス區	三、五四	三一、三	一四二、五七	五九、一七	九〇、六
五	過磷酸石灰區	三、三三	三五、〇	一四九、七〇	六一、七五	九四、五

三 肥料要素適量試驗

本場無肥料畑地土壤ニ對シテ三要素ノ適量試驗ヲ施行シ其ノ結果ヨリ出デタル肥料要素ノ適量ト以前ヨリ連續施行セル肥料要素試驗ノ結果トヲ對照シテ施肥ノ標準査定ニ資セントスル目的ニテ硝子室内ニ二萬分ノ一反植木鉢ヲ以テ本試驗ヲ施行セントス。但シ加里ノ適量試驗ハ都合上之レヲ創設セズ。

甲、窒素適量試驗

第一作大麥「青三德」並ニ第二作水稻「愛媛竹成」

本試驗ニ於テモ大麥及水稻ヲ同一設計ノ下ニ同一植木鉢ニテ交互ニ反覆スルモノトス。共通肥料ハ磷酸曹達、硫酸加里及炭酸石灰ニシテ其ノ要素量ハ磷酸加里共一鉢當一、五瓦ニテ炭酸石灰ハ一鉢當十瓦トス。窒素ハ硫酸「アンモニヤ」ヲ以テ左記試驗區別ノ如キ分量ヲ三回ニ分施スルモノトス。今各區三鉢宛ノ平均成績ヲ示セバ左ノ如シ。

大麥「青三德」成績

區名	試驗區別	草丈	莖數	全數量	穀實收量	同上百分率
一	無窒素區	一九二	九 _本 〇	三、八七	一五、六七	100、0
二	反當窒素一、五〇〇	一九四	一三、七	四四、四七	三三、〇七	140、0
三	三、〇〇〇	一九四	一九、七	四九、六三	二四、六七	157、四
四	四、五〇〇	一九五	二〇、〇	五三、〇〇	二七、五〇	175、五
五	六、〇〇〇	一九九	二〇、三	五六、三三	二九、四七	188、一
六	七、五〇〇	二〇三	二二、七	六七、五七	三四、六七	221、三

水稻「愛媛竹成」成績

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	穀實收量	同上百分率
一	無窒素區	三、二一	一七、三 _本	八三、七七	三七、一七	100、0
二	反當窒素一、五〇〇	三、三三	一八、七	九五、七三	四一、四〇	111、四
三	三、〇〇〇	三、三三	二二、七	一一、五七	四八、八三	132、四
四	四、五〇〇	三、三五	二五、七	一二、〇〇	五五、〇〇	148、〇
五	六、〇〇〇	三、四一	三一、七	一四〇、一〇	五九、七三	160、七
六	七、五〇〇	三、三九	三三、三	一五八、七三	六五、三三	175、八

乙、磷酸適量試驗

第一作大麥「青三德」並ニ第二作水稻「愛媛竹成」

本試驗モ前試驗同様ナル方法ニテ施行スルモノニテ共通肥料ハ硫酸「アンモニヤ」硫酸加里及炭酸石灰ニシテ窒素、磷酸各一鉢當一、五瓦ヲ施用シ窒素ハ三回ニ分施セリ。炭酸石灰ハ各區共一鉢當十瓦ヲ用ヒ磷酸ハ磷酸曹達ヲ以テ次ノ試驗區別ノ通り施用ス。其ノ成績左ノ如シ。

大麥「青三德」成績

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	穀實收量	同上百分率
一	無磷酸區	二、〇〇	二〇、三 _本	五、四七	二九、六七	100、0
二	反當磷酸一、五〇〇	一九七	二〇、三	五五、六三	二八、七三	166、八
三	三、〇〇〇	一九八	二二、〇	五五、三七	二八、三三	155、五
四	四、五〇〇	二〇四	二三、〇	五四、六〇	二七、九〇	144、〇
五	六、〇〇〇	二〇六	二三、〇	五三、六〇	二八、〇〇	144、四
六	七、五〇〇	二〇五	二〇、三	五三、一〇	二七、五〇	142、七

水稻「愛媛竹成」成績

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	穀實收量	同上百分率
一	無磷酸區	三、二七	四一、三	一五、四七	六三、三	100、0
二	反當磷酸一、五〇〇	三、三二	三九、〇	一四、七〇	六四、二七	101、三
三	三、〇〇〇	三、二〇	三八、七	一五、〇〇	六二、二七	九八、三
四	四、五〇〇	三、二七	三七、三	一五、七三	六三、二七	104、五
五	六、〇〇〇	三、三三	三七、三	一五、二〇	六三、四七	100、二
六	七、五〇〇	三、三七	三九、三	一六、四七	六四、四〇	101、七

四 人造肥料連用試驗

第十二作水稻「愛媛竹成」

本試驗ハ圃場埋設無底圓筒ニテ年々同一設計ニヨリ化學肥料ノミヲ以テ三要素ヲ供給シ且ツ配合肥料最後ノ反應ヲ種々ニシテ之レヲ連用スル場合ニ於テ一ツハ土性ノ變化ヲ査定シ他ハ水稻ノ生育收量並ニ穀粒ノ品質ニ及ボス影響ヲ試驗スルヲ目的トシ肥料要素量ハ反當窒素二貫五百匁、磷酸二貫匁、加里一貫五百匁トシ全體ヲ七區トナシテ試驗ヲ施行セリ。其ノ成績ハ左記ノ如シ。

區名	試驗區別	肥料名	全收量	稻收量	同上百分率	玄米千粒重量	玄米千粒中腹粒平均	玄米千粒中粗蛋白質百分收量平均
一	酸性肥料區	硫酸アンモニヤ	103、三三	51、〇〇	114、九三	281、〇	180、七	〇七六五七、八八二
二	弱酸性肥料區	硫酸アンモニヤ	106、六七	50、六七	114、一五	143、八	170、六	九二九五八、四七九
三	約中性肥料區	硫酸アンモニヤ	99、六七	47、六七	116、八二	476、〇	140、六	三〇五八、六〇九
四	約中性肥料區	石灰窒素	105、六七	42、〇〇	101、九二	61、三	146、五	九六九八、五〇九
五	弱鹽基性肥料區	石灰窒素	115、七三	47、六七	116、八二	67、五	102、五	六八五〇八、四三三
六	鹽基性肥料區	石灰窒素	111、〇〇	44、六七	119、四二	148、九	176、六	〇三〇三八、1060
七	普通肥料區	大豆粕	110、八三	40、八三	100、〇二	292、三	945、八九五	〇八、七三二

五 石灰連用試驗

第十二作水稻「愛媛竹成」

本試驗モ亦埋設無底圓筒ヲ用ヒ前記人造肥料連用試驗ト同目的ニ依リ普通肥料ノ外ニ年々一定量ノ石灰ヲ連用スル場合ニ於ケル影響ヲ驗知センガ爲繼續施行セリ。共通肥料ハ堆肥、大豆粕、過磷酸石灰ニシテ三要素量ハ窒素反當二貫五百匁(内一貫匁ハ堆肥ヲ以テ施與ス)磷酸及加里二貫匁トシ石灰ハ肥料用石灰ニシテ左記試驗區別記載ノ數量ヲ加用セリ。其ノ成績ヲ見ルニ創設當時ノ數ケ年間ハ石灰加用量ノ多キニ從ツテ漸次收量ヲ増加シ玄米ノ剛度及粗蛋白質ノ含量多大ナリシガ中途ヨリ最近迄反當三十貫乃至五十貫ノ石灰ヲ加用セルモノ最モ優良トナリタレ共一昨年ニ於テハ再ビ石灰加用量ノ多キ

ニ從ヒテ收量ヲ増加シ本年度ニ於テハ反當三十貫ノ石灰加用區最モ成績良好ニテ其レ以上石灰ヲ加用スルニ從ヒテ其ノ收量ヲ減ゼリ。今其ノ成績ヲ示セバ左表ノ如シ。

區名	試驗區別	草丈	一株莖數	全收量	粒收量	同百分率	玄米千粒ノ重	玄米千粒中腹粒平均	玄米千粒中腹粒平均	玄米千粒中腹粒平均	玄米千粒中腹粒平均
一	標準區(無石灰)	三、一〇	一四、五二	一、八三	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一八、三六	三、八〇	四、七六	四、九三	四、九三
二	肥料用石灰反當三十貫區	三、一〇	一七、二四	一、〇〇	一〇五、〇二	一〇五、〇二	一七、八五	三、五〇	四、五七	五、三三	五、三三
三	同 五十貫區	三、〇二	一五、三二	一、一七	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一四、七六	三、八五	四、二七	五、一五	五、一五
四	同 百貫區	三、〇一	一六、三二	一、三三	一〇九、〇〇	一〇九、〇〇	一五、九六	三、八八	四、四〇	五、二〇	五、二〇

六 デシヤンヂアミド肥効試驗

從來多年ノ研究ニヨリ「デシヤンヂアミド」ハ水田作物ニハ其ノ肥効大ナルモ麥及陸稻ニ於テハ肥効甚ダ少シ。其ノ原因ガ作物ノ特性ニ歸スベキモノナルヤ又ハ土地ノ狀態ニ歸スベキモノナルヤ否ヤヲ驗知セントシテ本試驗ヲ創設セリ。

第一作水稻「愛媛竹成」

本試驗ハ二萬分ノ一反植木鉢ニ水稻種子ヲ陸稻栽培ニ於ケルガ如ク直播トナシ試驗區別ノ如ク其ノ儘畑地狀態ニテ生育セシムルモノト相當生育セル後灌水シテ水田狀態トナシテ生育セシメタルモノヲ比較スルモノトス。三要素量ハ各一鉢當一瓦ニシテ磷酸加里ハ磷酸曹達及硫酸加里ヲ以テ之レヲ加用シ窒素ハ硫酸「アンモニヤ」デシヤンヂアミドヲ以テ三回ニ分施ス。今其ノ成績ヲ示セバ左表ノ如シ

區名	試驗區別	七月一日	八月一日	九月廿日	全收量	粒重量	同百分率
一	硫酸「アンモニヤ」畑地狀態區	一、一五	四、九七	二、二五	六、一〇	二、八二	一〇〇、〇
二	硫酸「アンモニヤ」七月一日ヨリ水田狀態區	一、一八	四、八〇	二、二四	七、六〇	三、〇二	一三九、五
三	「デシヤンヂアミド」畑地狀態區	一、〇七	三、三三	二、〇八	二、八〇	二、五二	六四、三
四	「デシヤンヂアミド」七月一日ヨリ水田狀態區	一、〇八	三、三三	二、四一	四、九二	三、一八	一三六、一
五	「デシヤンヂアミド」八月一日ヨリ水田狀態區	一、一一	三、三三	二、一八	二、八六	三、〇九	一三三、四

七 大豆粕追肥時期試驗

第一作水稻「愛媛竹成」

本縣ノ如キ暖地ニ於テハ一般ニ元肥ニ多量ノ施肥ヲナスヨリモ追肥ニ多ク用フル時生育最後迄良好ナル場合多シ。故ニ本場埋設無底圓筒ニ於テ施肥ノ時期ニヨリ其ノ收量ニ如何ナル變化ヲ及ボスモノナルヤヲ驗知セントシテ本試驗ヲ創設セリ。

反當窒素用量ハ三貫匁ニシテ其ノ中一貫五百匁ヲ堆肥ニテ元肥ニ施用シ残りノ一貫五百匁ヲ大豆粕ヲ以テ試驗區別ノ如ク施用スルモノトス。磷酸加里ハ窒素質肥料中含有セルモノ以外ニ各一貫五百匁ヲ過磷酸及硫酸加里ヲ以テ施用ス。今其ノ成績ヲ示セバ左表ノ如シ。

區名	試驗區別	草丈	一株莖數	全收量	粒收量	同百分率
一	大豆粕全量元肥區	二、九六	一四、五	一〇〇、七	四六、〇〇	一〇〇、〇

八 施肥標準試驗

委託施肥標準試驗ヲ各地ニ施行中ナレ共亦本場内ニ於テモ本場土壤ニ對スル肥料要素試驗成績ヨリ計算セル本試驗ヲ施行シテ各地委託試驗ノ成績ト比較對照シ施肥標準量決定ノ基礎研究及改良ニ資セントス。

(甲) 圃場埋設無底圓筒試驗

第一作水稻「源一本第一號」

本試驗ニ於テ三要素配合ノ基礎ハ以前ニ施行セル肥料要素試驗中化學肥料區ノ成績ヲ取リ一石生産ニ要スル三要素量及三要素天然供給量ヲ計算シ目的收量四石ノ場合ヲ標準區トナシ其レ以上二、五割増、五割増、七、五割増區ヲ設置シテ無底圓筒ノ場合如何ナル影響アルカヲ知ラントセリ。即チ第一區標準區ノ肥料ハ四石收穫ニ要スル三要素量ヨリ天然供給三要素量ヲ減ジ其レニ窒素及加里ノ吸收率ヲ五〇%ト見做シテ二倍シ磷酸ノ吸收率ヲ二〇%ト見做シテ五倍シ其レヨリ堆肥ニヨリテ供給セラル、三要素量(即チ窒素ハ二〇%、磷酸ハ二〇%、加里ハ五〇%利用サル、ト見做ス)ヲ減ジ殘リヲ金肥ヲ以テ施用スル量トナシ次ノ如キ要素量及配合ヲ以テ施行セリ。堆肥反當四百貫施用ノ時金肥ヲ以テ施

二	同	七月十五日追肥區	三、〇〇	一六、九	一〇九、〇〇	四九、六七	一〇八、〇
三	同	七月三十日追肥區	二、九五	一三、七	一一、〇〇	五一、三三	一一、六
四	大豆粕半量七月十五日追肥區	同	二、九三	一五、七	一〇三、三三	四九、六七	一〇八、〇
五	同	同	二、九三	一三、六	一〇四、一七	四六、六七	一〇一、五

用スベキ量ハ反當窒素三貫二二二、磷酸二貫八一六、加里二貫四〇六トナリ自給肥料ノ三要素ヲ加フル時ハ窒素反當六貫三〇二、磷酸五貫三七六、加里五貫九六六トナレリ。而シテ其ノ配合ハ堆肥四〇貫、大豆粕二〇貫、糠粕一〇貫、硫安二、九六〇貫、蒸製骨粉五貫、強過磷酸石灰四、六四〇貫、硫酸加里(三〇%)六、三八七貫、消石灰三〇貫ノ割合トナセリ。今其ノ成績ヲ示セバ次ノ如シ。

區名	試驗區別	草丈	一株莖數	全收量	糶重量	藁重量	糶重量	糶増收率
一	標準區	三、三三	三〇、三	二二二、〇〇	八七、三三	二八、六七	六、〇〇	一〇〇、〇
二	二割五分増	三、四〇	三一、五	二二〇、六七	九五、三三	二八、六七	六、六七	一〇九、二
三	五割増	三、五九	三四、三	二二三、六七	一〇一、六七	二六、六七	五、三三	一一六、四
四	七割五分増	三、六〇	三五、六	二二二、三三	一〇七、三三	二四九、六七	五、三三	一二三、九

備考、無底圓筒試驗ニ於テハ日射ヨキ爲全部倒伏セズ

(乙) 普通圃場試驗

第一作水稻「源一本第一號」

本試驗ニ於ケル三要素配合ノ基礎ハ以前施行セル肥料要素試驗中慣用肥料區ノ成績ヲ取リ一石生産ニ要スル三要素量及三要素天然供給量ヲ計算シ目的收量四石ノ場合ヲ標準トナシ第一種標準ハ前試驗ト同一ナル方法ニヨリテ算出セルモノニテ第二種標準ハ本場ニテ目下施行セル施肥標準委託試驗ト同一ナル方法ヲ取レルモノナリ。即チ目的收量ヲ生産スルニ要スル三要素量ヨリ三要素天然供給量ヲ減ジタルモノニ窒素ハ五〇%、磷酸二〇%ノ吸收率ヲ加味シ加里ハ吸收率ヲ加味セズ而モ要素試驗ニ使

用セシ量以上ノ堆肥ニ就テハ其ノ窒素ニ三〇%ノ吸收率ヲ掛ケ之レヲ前ノ窒素量ヨリ減ジ堆肥中ノ磷酸及加里ハ無視セリ。

其レ故ニ第一種標準ニ於テハ堆肥反當三〇〇貫、青刈大豆一〇〇貫以外ニ施用スベキ三要素量ハ窒素三、〇〇四貫、磷酸三、五二四貫、加里四、二九〇貫ニシテ第二種標準ニ於テハ窒素三、〇〇四貫、磷酸三、七八貫、加里二、五九〇貫ナリ。而シテ其ノ反當肥料配合量ハ次ノ如シ。

第一種標準 堆肥三〇〇貫、青刈大豆一〇〇貫、硫酸アンモニヤ二、五貫、大豆粕一八貫、糠粕九貫、蒸製骨粉一〇貫、過磷酸石灰二、五貫、硫酸加里三、八三〇貫(三〇%)

第二種標準 堆肥三〇〇貫、青刈大豆一〇〇貫、硫酸アンモニヤ二、五貫、大豆粉一八貫、糠粕九貫、蒸製骨粉一〇貫、過磷酸石灰三、七三二貫、硫酸加里七、一六三貫(三〇%)ナリ。

尙此ノ試験ハ無石灰ノモノト石灰反當三〇貫ヲ施用セルモノトノ二連トナセリ。今其ノ成績ヲ示セバ左ノ如シ。但シ面積十坪ノ成績ナリ。

甲、無石灰區

區名	試驗區別	草丈	莖數	米		玄		米		歩合	藁重量
				重量	容量	重量	容量	重量	容量		
一	第一種標準	四、二四	三三、八 ^本	二、〇〇〇	二、〇〇〇	四、四四 ^重	三、八二 ^容	一四 ^重	〇、八二	八、〇〇〇	
二	第二種標準	四、一五	三三、六	二、〇七〇	二、八五、〇	四、六八〇	三、八八、二	一一〇	〇、八二六	八、〇〇〇	
三	第二區ノ二、五割増	四、二〇	三三、九	二、一四〇	二、八八〇	四、〇〇〇	三、八四、五	一一〇	〇、八〇〇	八、四〇〇	
四	同	四、二二	二四、四	四、四〇〇	一、六九〇	二、六八、五	三、三八〇	一一〇	〇、七九三	八、六〇〇	

乙、石灰加用區

五	同	七、五割増	四、一九	二四、四	四、四七〇	一、七四〇	二、六八、五	三、三七〇	三七六、七	一一〇	〇、七八一	八、四六〇
六	同	一〇割増	四、二〇	二五、〇	四、四四〇	一、六〇〇	二、六八、〇	三、三三〇	三八二、五	一九〇	〇、八三〇	八、〇〇〇
一	第一種標準	四、一〇	二四、五	五、七四〇	二、〇七〇	二、八二、〇	四、五二〇	三八九、五	一一〇	〇、八〇七	九、二五〇	
二	第二種標準	三、九八	二五、三	六、二二〇	二、二七〇	二、七九、〇	四、七七〇	三八二、五	一六〇	〇、七九四	九、三七〇	
三	第二區ノ二、五割増	四、一七	二五、〇	六、一六〇	二、二八〇	二、七九、〇	四、六三〇	三八一、五	二〇〇	〇、七九一	九、六〇〇	
四	同	五割増	四、一五	二七、〇	四、五三〇	一、七三〇	二、六八、五	三、四七〇	三八一、七	一三〇	〇、七九五	九、〇〇〇
五	同	七、五割増	四、一九	二六、八	四、四六〇	一、七二〇	二、六七、〇	三、三六〇	三七三、〇	一四〇	〇、七六五	九、〇〇〇
六	同	十割増	四、一八	二七、三	四、四五〇	一、七二〇	二、六五、〇	三、二九〇	三八一、五	一〇〇	〇、七六二	八、三五〇

右試験ニ於テ結實期ニ到ル迄ハ施肥ノ量ニ應ジテ生育良好ナリシモ十月初旬ニ至リテ標準區ヲ除外全部倒伏シ施肥量ニ從ツテ收量ヲ減ゼリ。

九 特許肥料肥効試験

第一作水稻「愛媛竹成」

特許肥料ナル名稱ノ下ニ販賣セラル、肥料ハ石灰窒素ヲ加工シテ製造セラル、モノナルモ「アンモニヤ」性窒素以外ノ水溶性窒素モ可成リ含有セラル、モノナレ共未ダ其ノ肥効試験ノ成績ナキヲ以テ

普通施用セラル、代表的肥料ト比較シテ其ノ肥効ヲ査定セントス。
 本試験ハ五萬分ノ一反植木鉢ヲ用ヒ要素量ハ一鉢當窒素〇、三瓦、磷酸加里〇、五瓦宛トシ窒素ハ
 特許磷安加里第三號、硫酸「アンモニヤ」大豆粕、練粕ヲ以テ施用シ磷酸加里ハ之等窒素質肥料中含有
 スル量ヲ計算ニ入レ其ノ不足分ヲ過磷酸石灰、硫酸加里ヲ以テ補給ス、其成績ハ次ノ如シ。

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	籽重量	無窒素區ニ對 スル籽增收率
一	特許肥料區	二、九四	一三、三	五、三〇	一七、九〇	110、1
二	硫酸アンモニヤ區	二、八四	一三、三	四、六〇	一六、八三	100、0
三	大豆粕區	二、八四	一三、三	四、〇七	一六、〇七	九、八
四	練粕區	二、六六	一、三	三、九〇	一六、五〇	六、九
五	無窒素區	二、六六	四、三	一、五、四七	六、三〇	—

十大正十一年度播種目下調査中ニ
 屬スル大麥試驗項目

- (一) 窒素適量試驗(硝子室内植木鉢二萬分ノ一反)
- (二) 磷酸適量試驗(同)
- (三) 特許肥料肥効試驗(硝子室内植木鉢五萬分ノ一反)
- (四) 促肥素肥効試驗(同)

(五) 磷酸礬土及「アンモホス」肥効試驗(硝子室内植木鉢二萬分ノ一反)

第二 土壤ニ關スル試驗

一 蚊紋岩質土壤ニ對スル肥料要素試驗

第五作大麥「青三德」

本土壤ハ引佐郡伊平村字東黒田ノ熟田ヨリ採取セル土壤ニシテ乾土五百匁ヲ五萬分ノ一反植木鉢ニ
 填充シテ試驗ヲ行フ。肥料ハ硫酸「アンモニヤ」磷酸曹達及炭酸加里ヲ用ヒ其ノ要素量ハ〇、六瓦トス
 其ノ外各區共通ニ炭酸石灰五瓦ヲ加用セリ。其ノ結果ハ左記ノ如シ。

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	穀實收量	同上百分率
一	無肥料石灰加用區	〇、六六	三、〇	三、一〇	〇、六七	五、五
二	無窒素石灰加用區	一、三三	三、〇	八、七三	三、八〇	三、一
三	無磷酸石灰加用區	〇、八六	三、〇	三、八〇	〇、七五	六、一
四	無加里石灰加用區	〇、五二	三、〇	三、三三	不結實	—
五	完全肥料石灰加用區	一、五九	一〇、〇	二四、八七	一、二、三	100、0

蛇紋岩質土壤ニ關スル要素試驗及土地改良試驗ハ本試驗ノ外水田未耕土ニ近キモノ及山間部未耕土
 ニ就キテ昨年度迄試驗ヲ施行セシ結果本土壤ハ甚シク磷酸及加里ニ缺乏シ此等不足要素ノ補給及石灰

ノ適當ナル加用ニ依テ十分其改良ヲナシ得ルコトヲ知レルヲ以テ本試験ハ本作ヲ以テ完了トシ更ニ現地ニ於テ之ガ改良試験ヲ施行セントス。

一一 本場土壤ニ對スル肥料要素試験

本試験ハ硝子室内植木鉢及圃場ノ兩所ニ於テ施行シ其ノ目的ハ本場土壤ニ對シテ有効性肥料要素ノ多寡ヲ驗知シ以テ施肥ノ標準ヲ査定シ且ツ其ノ成績ヲ縣下各地ニ設置セシ土性調査肥料要素試験ノ成績ト比較對照シテ施肥標準量決定ニ資セントスルニアリ。

甲、植木鉢試験

イ 大正十年度播種第十四作大麥「青三徳」

二萬分ノ一反植木鉢ヲ用ヒ前作水稻ニ就キ試験セル跡地ニ播種セルモノナリ。完全肥料石灰加用區ニ於ケル肥料ハ硫酸「アンモニヤ」過磷酸石灰、硫酸加里ニシテ三要素量ハ各一瓦宛トス。本作ニ於テハ石灰ヲ加用セズ。

ロ 第十五作水稻「愛媛竹成」

本試験ハ前(十四作)大麥ノ跡地ニ於テ同一設計ノ下ニ施行セリ。本作ニ於テモ石灰ハ加用セズ。因ニ石灰加用ノ各作ハ次ノ如ク。

第一作	水稻	二〇瓦	第二作	大麥	二〇瓦	第三作	水稻	二〇瓦
第四作	大麥	二〇瓦	第五作	水稻	二〇瓦	第六作	大麥	不加用
第七作	水稻	不加用	第八作	大麥	一〇瓦	第九作	水稻	不加用
第十作	大麥	一〇瓦	第十一作	水稻	不加用	第十二作	大麥	不加用

第十四作大麥「青三徳」成績

第十三作	水稻	一〇瓦	第十四作	大麥	不加用	第十五作	水稻	不加用
------	----	-----	------	----	-----	------	----	-----

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	穀實收量	同上百分率	同上七作平均
一	無肥料區	一、二二	五、〇	三、〇七	六、五七	四八、一	二四、〇
二	同上石灰加用區	一、〇七	四、三	九、三〇	四、〇〇	二九、三	三一、五
三	無窒素區	一、一九	五、〇	一〇、一〇	五、〇七	三七、一	二七、五
四	同上石灰加用區	一、一三	四、七	九、四七	五、〇〇	三六、六	三八、七
五	無磷酸區	一、二八	一〇、〇	二二、三七	八、九六	六五、五	五一、〇
六	同上石灰加用區	一、三六	九、七	二九、三〇	一三、八三	一〇一、二	九一、八
七	無加里區	〇、九三	一五、〇	二二、一五	八、二五	六〇、四	四四、二
八	同上石灰加用區	〇、八三	八、三	一三、六三	三、七三	二六、三	五一、九
九	三要素區	一、八九	二二、三	六四、七〇	三三、五七	二三八、三	二二八、五
十	同上石灰加用區	一、五二	一六、〇	三三、三三	一三、六七	一〇〇、〇	一〇〇、〇

第十五作水稻「愛媛竹成」成績

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	籾收量	同上百分率	同上八作平均
一	無肥料區	二、六三	一〇、七	二九、三	一一、六	三〇、四	三九、四
二	同上石灰加用區	二、六三	一一、三	二九、八	一二、七	三〇、五	三七、一
三	無窒素區	二、八〇	八、三	三三、八	一四、〇	三三、八	三五、六
四	同上石灰加用區	二、六	一〇、三	三三、三	一三、八	三三、二	三八、五
五	無磷區	三、一〇	三三、〇	二六、六	四九、〇	一一七、六	一一〇、一
六	同上石灰加用區	二、九	二五、〇	八、七	三四、三	七三、一	九五、九
七	無加里區	二、五	三二、五	六五、一	二二、〇	五〇、六	七九、九
八	同上石灰加用區	二、六	三三、〇	七、一	三一、四	七五、四	九〇、八
九	三要素區	三、一	三三、七	二六、七	五二、四	一二五、八	一二一、五
十	同上石灰加用區	二、六	二九、〇	一〇、八	四一、六	一〇〇、〇	一〇〇、〇

備考、本試驗ニ於テ各要素半量加用區並ニ磷酸及加里多用區ハ第十一作水稻ヨリ除外セリ。

乙、圃場試驗

本場水田土壤ニ對スル肥料要素試驗ハ圃場稻轉ノ爲メ第六作ヲ以テ完結セルモノト認メ之レヲ中止シ現在ニ於テハ畑地土壤ニ對スル要素試驗ノミヲ繼續施行ス。

第六作大正十年播種大麥「青三徳」

本場畑地土壤ニ對シテモ亦前記ノ目的ヲ以テ大麥ニ就キ本試驗ヲ施行セリ。試驗區ハ一區十二坪ニシテ試驗ノ種類ハ慣用肥料及化學肥料ノ二種トナシ各々六區トセリ。而シテ前者ノ完全肥料區ニハ堆肥反當二百貫ヲ基本トシ之レニ硫酸「アンモニヤ」過磷酸石灰、硫酸加里ヲ以テ三要素ヲ補給シ化學肥料試驗ハ前記化學肥料ノミヲ以テ三要素ヲ施用セリ。其ノ要素量ハ兩試驗トモ同一ニシテ窒素ハ「アンモニヤ」性窒素ニ改算シテ合計二貫四百四十匁、磷酸ハ可溶性磷酸トシテ二貫匁、加里ハ硫酸加里ニテ二貫トセリ。尙肥料用石灰ハ反當三十貫ノ割合ニ加用セリ。今其ノ成績ヲ示セバ左表ノ如シ。

區名	試驗區別	草丈	一尺間		一區當收量	同上百分率	同上六作平均
			莖數	全收量			
一	完全肥料區	二、七	一一、五	七、四	三、五	一一〇、五	一一〇、七
二	完全肥料石灰加用區	二、六	一〇、七	六、五	三、三	一〇〇、〇	一〇〇、〇
三	第二區ヨリ硫酸「アンモニヤ」省略區	二、三	六、二	三、〇	一、六	四九、六	六二、九
四	第二區ヨリ過磷酸石灰省略區	二、四	八、八	四、六	二、三	七三、〇	八八、三
五	第二區ヨリ硫酸加里省略區	二、三	七、二	四、八	二、四	七六、九	八七、三
六	基本肥料石灰加用區	二、三	五、三	三、六	一、九	六二、七	五六、一
一	完全肥料區	二、四	九、七	六、三	三、二	一一六、一	一一〇、五

甲、慣用肥料試驗

乙、化學肥料試驗

二	完全肥料石灰加用區	二、〇八	九二	四、六七四	二、四三四	100.0	100.0
三	無窒素石灰加用區	一、四七	四五	一、五九九	〇、七六一	三、四	五九、七
四	無磷酸石灰加用區	二、二二	八六	四、五七三	二、四四〇	100.7	九四、五
五	無加里石灰加用區	一、七二	七四	三、七二五	一、三三〇	五四、九	七六、九
六	無肥料石灰加用區	一、四七	五〇	一、四三六	〇、六六五	二七、四	四八、六

備考、一前表收量ハ一區十二坪ニ對スルモノトス。
 (二)穀實收量百分率ハ兩試驗共第二區ヲ標準トス。

志太郡德山村土壤ニ對スル肥料要素試驗

供試土壤ハ志太郡德山村大字田野口字合平ノ川根層ニ屬スル礫質壤土ニシテ試驗ノ目的ハ施肥標準量ヲ査定セントスルニアリ。

(イ) 第四作大麥「青三德」(大正十年播種)
 (ロ) 第五作水稻「愛媛竹成」

試驗ノ方法ハ二萬分ノ一反植木鉢ヲ用ヒ施用肥料ハ硫酸「アンモニヤ」過磷酸石灰、硫酸加里ニシテ要素量ハ三要共一鉢當一瓦宛ナリ。尙肥料用石灰ハ本作ニ於テハ施用セズ。

第四作大麥「青三德」成績

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	穀實收量	穀實收量百分率	第二第四作同上平均
一	無肥料石灰加用區	一、四四 ^尺	七、三 ^本	二六、一七 ^五	一三、一七 ^五	四七、九	三四、五

二	無窒素石灰加用區	一、五九	五、三	三三、三〇	一一、〇七	四三、五	三五、三
三	無磷酸石灰加用區	一、四七	九、七	二六、九七	一二、八〇	五〇、三	五九、〇
四	無加里石灰加用區	一、八四	一七、三	四九、〇七	二三、二三	九一、三	九九、一
五	完全肥料石灰加用區	一、六	一七、三	五〇、六七	二五、四三	100.0	100.0
六	完全肥料無石灰區	二、〇〇	一八、三	五三、二三	二六、五〇	104.2	107.5

第五作水稻「愛媛竹成」成績

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	穀實收量	同上百分率	第一第三第五作同上平均
一	無肥料石灰加用區	二、八七 ^尺	一一、七 ^本	四〇、八三	一七、五〇	三九、六	五六、一
二	無窒素石灰加用區	二、八〇	一二、〇	三七、三七	一六、一七	三六、六	五五、六
三	無磷酸石灰加用區	三、〇五	二九、三	109、二〇	四四、〇〇	九九、五	九五、一
四	無加里石灰加用區	二、八九	三〇、三	九九、五〇	四一、〇〇	九二、七	九七、四
五	完全肥料石灰加用區	三、〇七	三三、三	111、四〇	四四、二三	100.0	100.0
六	完全肥料無石灰區	三、一三	三四、〇	118、二三	四六、六七	105.5	102.6

備考、收量比例ハ第五區ヲ百トス。

四 磐田郡下阿多古村土壤ニ對スル肥料要素試験

供試土壤ハ磐田郡下阿多古村大字石神字中垣戸ノ土壤ニシテ結晶片岩ノ崩解シテ成レル礫質壤土ナリ。試験ノ目的及其ノ方法ハ前試験ト同様ナリ。

第四作大麥「青三德」(大正十年度播種)

第五作水稻「愛媛竹成」

肥料ノ種類及要素量等ハ凡テ前試験ト同様ニシテ其ノ成績ハ左表ノ如シ。

第四作大麥「青三德」成績

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	穀實收量	同上百分率	第二作第四作同上平均
一	無肥料石灰加用區	一、四五	七、三 _本	二二、〇七	八、五〇	三八、二	二七、〇
二	無窒素石灰加用區	一、五三	六、〇	三三、六三	一一、一七	三七、〇	三三、三
三	無磷酸石灰加用區	一、二七	一一、〇	四二、二〇	一九、八五	六五、八	五四、二
四	無加里石灰加用區	〇、六四	一一、〇	一一、三七	二、〇七	六、九	三九、七
五	完全肥料石灰加用區	一、八八	二四、三	六〇、五三	三〇、一七	一〇〇、〇	一〇〇、〇
六	完全肥料無石灰區	一、六五	一九、三	五四、六五	二三、七〇	七六、六	九四、七

第五作水稻「愛媛竹成」成績

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	穀實收量	同上百分率	第一第三第五作同上平均
一	無肥料石灰加用區	二、六六	一一、三 _本	三五、一〇	一五、八三	三二、三	五一、九
二	無窒素石灰加用區	二、八〇	一二、三	三九、三七	一七、一七	三四、〇	五三、〇
三	無磷酸石灰加用區	二、九六	二九、〇	一〇五、〇三	四五、二三	八九、六	一〇六、一
四	無加里石灰加用區	二、六八	三五、七	八九、〇〇	三八、二〇	七五、六	八二、六
五	完全肥料石灰加用區	二、九七	三三、七	一一〇、〇七	五〇、五〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇
六	完全肥料無石灰區	三、〇〇	三六、五	一二四、九〇	五四、七〇	一〇八、三	一一六、四

備考、穀收量百分率ハ第五區ヲ百トセリ。

五 磐田郡熊村土壤ニ對スル肥料要素試験

本土壤ハ磐田郡熊村大字熊字カキ平ニテ採取セル結晶片岩ノ崩解シテナレル礫質壤土ニテ磷酸含量多キ土壤ナリ。試験ノ目的及方法等ハ前試験ト同様ナレ共本試験ニ於テハ第一作ヲ大麥ヨリ開始セリ

第三作大麥「青三德」(大正十年度播種)

第四作水稻「愛媛竹成」

肥料ノ種類及要素量ハ前試験ト同一ナレ共石灰ハ本作ニ於テハ施用セズ。今其ノ成績ヲ示セバ左表ノ如シ。

第三作大麥「青三德」成績

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	穀實收量	同上百分率	第一第三作 同上平均
一	無肥料石灰加用區	一、六八	二、三七	四、一	三、八三	六、二	六、一、五
二	無窒素石灰加用區	一、八〇	一、三、三	五、一、四七	二、四、三七	七、二、八	六、三、四
三	無磷酸石灰加用區	二、〇七	二、三、三	六、九、八〇	三、四、六七	一〇、三、六	八、七、四
四	無加里石灰加用區	二、〇九	二、一、七	六、七、一七	三、一、一七	九、六、一	八、三、六
五	完全肥料石灰加用區	一、九六	一、九、七	六、五、六〇	三、三、四七	一〇〇、〇	一〇〇、〇
六	完全肥料無石灰區	二、〇一	一、九、三	六、一、九七	二、九、三	八、七、三	九、七、三

第四作水稻「愛媛竹成」成績

區名	試驗區別	草丈	莖數	全收量	穀實收量	同上百分率	第二第四作 同上平均
一	無肥料石灰加用區	三、二三	二、六、三	一、五、八〇	五〇、四七	七、五、四	八、一、一
二	無窒素石灰加用區	三、一四	二、四、〇	九、七、四七	三、九、一七	五、八、五	六、八、九
三	無磷酸石灰加用區	三、三九	四、三、三	一、六〇、五三	六、二、〇〇	六、九、九	一〇〇、〇
四	無加里石灰加用區	三、一八	四、一、三	一、五、一、二〇	五、九、五七	八、九、〇	九、五、八
五	完全肥料石灰加用區	三、四〇	三、八、三	一、六、九、三〇	六、六、九三	一〇〇、〇	一〇〇、〇
六	完全肥料無石灰區	三、三四	三、八、七	一、七、三、〇〇	六、八、一七	一〇〇、九	九、八、八

備考、收量百分率ハ第五區ヲ以テ百トス。

六 志太郡稻葉村土壤ニ對スル肥料
要素試驗及石灰加用試驗

供試土壤ハ第三紀層礫質壤土ニシテ乾燥細土ニ對スル鹽化加里法ニヨリ全酸度ハ六七、四八ニ達スルモノナリ。本土壤ニ對シテハ現地栽培試驗モ行ヒシガ更ニ場内硝子室ニ於テ五萬分ノ一反植木鉢ヲ以テ有効性肥料要素量ノ多寡並ニ石灰ノ効果ヲ査定セントシテ本試驗ヲ施行セシモ本作ヲ以テ大體完結セルモノト認メテ打切トス。

第四作大麥「青三徳」

肥料ハ硫酸「アンモニヤ」過磷酸石灰、硫酸加里ヲ施用シ三要素量ハ各成分共ニ一鉢當〇、六瓦トス而シテ要素試驗ニ於ケル肥料用石灰ハ第一作ニ於テハ一鉢當五瓦トシ石灰加用試驗ニ於テハ試驗區別ニ應ジテ種々ノ分量ニ加用セリト雖モ第二作以下ニハ加用セズ。其ノ成績ヲ示セバ左表ノ如シ。

區名	試驗區別	全收量	穀實收量	同上百分率	同上四作 平均
一	無肥料無石灰區	三、九七	一、五〇	一〇、五	一三、四
二	無肥料石灰加用區	三、九〇	一、七七	一二、四	一九、二
三	無窒素石灰加用區	五、九三	二、四〇	一六、八	二二、八

肥料要素試験		石灰加用試験	
四	無磷酸石灰加用區	九	同上
五	無加里石灰加用區	八	肥料用石灰一鉢當三瓦加用區
六	完全肥料無石灰區	七	完全肥料石灰加用區
七	完全肥料石灰加用區	六	完全肥料無石灰區
八	肥料用石灰一鉢當三瓦加用區	五	無加里石灰加用區
九	同上	四	無磷酸石灰加用區
十	同上	三	完全肥料無石灰區
		二	完全肥料石灰加用區
		一	無加里石灰加用區

備考、收量比例ハ第七區ヲ百トス。

七 大正十一年度播種目下調査中ニ屬スル大麥試驗項目

- (一) 本場土壤ニ對スル肥料要素試験(硝子室内植木鉢及圃場試驗)
- (二) 志太郡德山村土壤ニ對スル肥料要素試験(硝子室内植木鉢試驗)
- (三) 磐田郡下阿多古村土壤ニ對スル肥料要素試験(同前)
- (四) 磐田郡熊村土壤ニ對スル肥料要素試験(同前)

第三委託試驗

一 濱名郡富塚村桃肥料委託試驗

本試驗ハ大正八年ニ着手シ當初ヨリ同一設計ノモトニ肥料試驗ヲ繼續セリ。桃ノ種類ハ天津水蜜桃ニシテ反當百十二本植各區ノ樹數ハ五本宛ナリ。全體ノ區數ヲ五區トナシ第一區ハ從來施用セル肥料菜種粕、人糞尿、木灰ヲ以テ反當窒素一貫二百五十匁、磷酸九百五十三匁、加里一貫九百二十一匁ヲ施シ第二區ハ其ノ上肥料用石灰反當三十貫ヲ加用シ第三區ハ標準肥料區ニシテ鱒粕、大豆粕、過磷酸石灰、蒸製骨粉及木灰ヲ用ヒ之レガ反當窒素量ハ窒素一貫八百匁、磷酸及加里二貫五百匁トセリ。第四區ハ標準肥料區ヨリ磷酸質肥料ヲ省略シ第五區ハ標準肥料ニ更ニ反當三十貫ノ割合ヲ以テ肥料用石灰ヲ加用セリ。今其ノ一本當リ成績及四年間ノ同平均成績ヲ示セバ左ノ如シ。

區名	試驗區別	個數	收量	一畝平均重量	四ヶ年平均		
					個數	收量	
一	在來肥料區	四七、八	二、二五	四、四	八八、二	二、五〇六	二八、四
二	在來肥料石灰加用區	五七、八	二、六〇〇	四、五、〇	八五、三	二、七二三	三二、八
三	標準肥料區	二八、七	五、一九七	四、〇、〇	一〇七、三	三、一一一	二九、九
四	標準肥料ヨリ磷酸質肥料省略區	六三、四	二、九四二	四、六、〇	八九、五	二、七〇五	三〇、二
五	標準肥料石灰加用區	五九、五	二、六八〇	四、五、〇	八四、八	二、七四一	三三、三

第四特殊研究

一 水稻及大麥中ニ含有スル肥料

三要素ニ關スル研究

水稻及大麥等ノ施肥標準量ヲ計算スルニ當リ之等ニ對スル肥料要素天然供給量ヲ算出スルニハ豫メ其ノ三要素含有量ヲ知ラザルベカラズ。然ルニ之等ノ含有量ハ品種施肥量、施肥法、栽培管理、天候、地質、土性等種々ノ條件ニ依リテ差異有ルベキハ想像ニ難カラザルヲ以テ之等ノ條件ヲ異ニセル收穫物中ニ含有スル三要素量ヲ調査センガ爲メ前年度ヨリ繼續施行セルモノニシテ本年度ニ於テ調査セル成績ハ左ノ如シ。

一、品種トノ關係

品 種	分析記號	全 窒 素	全 磷 酸	全 加 里
静岡青三徳 (十三種平均)但シ子實	一 區	一、四二五	〇、八〇〇	〇、五九〇
	二 區	一、四四一	〇、八四四	〇、六〇二
	三 區	一、五九五	〇、九三六	〇、六三二
	四 區	一、五一五	〇、八三七	〇、五九九
	五 區	一、五〇七	〇、八七七	〇、五二三
	六 區	一、五五七	〇、九四七	〇、六一八

在來青三徳 (十一種平均)但シ子實				山間地方在來種 (四種平均)但シ子實			
一 區	二 區	三 區	四 區	五 區	六 區	一 區	二 區
一、五七八	一、六五五	一、七一三	一、七〇〇	一、六九〇	一、六九〇	一、八二九	一、八〇〇
〇、六八五	〇、六九八	〇、七二九	〇、六一四	〇、六四五	〇、六八七	〇、八一〇	〇、七一〇
〇、五〇〇	〇、五〇二	〇、五三四	〇、五二〇	〇、四八九	〇、五二五	〇、五四七	〇、五三〇
〇、六八五	〇、六九八	〇、七二九	〇、六一四	〇、六四五	〇、六八七	〇、八一〇	〇、七一〇
〇、五九〇	〇、六〇二	〇、六三二	〇、五九九	〇、五二三	〇、五二五	〇、五四七	〇、五三〇
〇、六一八	〇、六三二	〇、六六二	〇、五五七	〇、五五七	〇、五二五	〇、五二五	〇、五二五

備考

分析材料ハ大正十一年度ニ第二、第三、第四作ニ相當スル大麥肥料要素委託試驗地ノ收穫物ニシテ該供試品ハ品種、土性、土質、氣候、栽培其他肥料以外ノ凡テノ條件ヲ異ニセル境遇ノモトニ生産セラレタルモノナリ。

分析記號ノ一區、二區等ハ大正十年度業務功程ニ記載セシモノト同様ナリ。
 更ニ品種トノ關係ヲ明ニスルタメニ各品種ノ第二區(ニ要素石灰加用區)ヲ比較スレバ次ノ如シ。

品 種	子 實		中 麥		稗 科	
	全窒素	全磷酸	全加里	全窒素	全磷酸	全加里
静岡青三德	一、四四二	〇、八四四	〇、六〇二	〇、三三三	〇、二五二	一、三五三
在來青三德	一、六五五	〇、六九八	〇、五〇二	〇、六三三	〇、二〇八	一、二三五
山間地方在來種	一、七三七	〇、六七五	〇、五五六	〇、六五七	〇、一五七	一、三五三
平坦地方在來種	一、七二七	〇、六八八	〇、四五四	〇、四二二	〇、二〇〇	一、三三一
三保稗麥	一、四九〇	〇、八三五	〇、五〇〇	〇、三五二	〇、一六七	一、二〇〇

二、粒ノ大キサトノ關係
 土地肥培法其他凡テ同一條件ノ下ニ同時ニ生産セラレタルモノニテモ其ノ子實ノ大小ニ因リテ左表
 ノ如キ差異アリ。

品 種	分析記號	一粒ノ重量 (平均)		全窒素	全磷酸	全加里
		全窒素	全磷酸			
三保稗	一區大粒	〇、〇三八六	一、六七七六	〇、七三〇五	〇、五七三二	
同	同中粒	〇、〇三〇一	一、五四七八	〇、七三四三	〇、五七四八	
同	同小粒	〇、〇二一〇	一、四四七三	〇、七二四六	〇、五五三九	

同	二區大粒	〇、〇四〇〇	一、六〇二二	〇、八四八六	〇、五二五六
同	同中粒	〇、〇三一五	一、四九八六	〇、八一六三	〇、四九三二
同	同小粒	〇、〇二二四	一、三四五五	〇、七八二八	〇、四八三九
同	三區大粒	〇、〇四〇三	一、七〇二〇	〇、九三七五	〇、五二〇〇
同	同中粒	〇、〇三一二	一、五八五七	〇、九〇〇三	〇、五〇二二
同	同小粒	〇、〇二〇一	一、六八三〇	〇、八五三八	〇、四九八九
同	四區大粒	〇、〇四二〇	一、五八四三	〇、八一七〇	〇、五一三八
同	同中粒	〇、〇三二〇	一、三四九一	〇、七八三二	〇、五〇〇〇
同	同小粒	〇、〇一九一	一、三四九一	〇、七八三二	〇、四一〇〇
同	五區大粒	〇、〇三九四	一、五四一五	〇、八六二九	〇、四八三二
同	同中粒	〇、〇二八七	一、三〇六六	〇、八一三七	〇、四七二八
同	同小粒	〇、〇一九五	一、二七七二	〇、八一二七	〇、四六九九
同	六區大粒	〇、〇四一五	一、六五七三	〇、七三四五	〇、四六三二
同	同中粒	〇、〇二八四	一、五四六六	〇、七二六三	〇、四六〇〇
同	同小粒	〇、〇一七二	一、	〇、七二三五	〇、四五三九

二一三	二四九	二四五	二四一	二三九	二三八	二三六	二三四	二三三	二三二	二三一	二二九	二二八	二二七	二二五
一、三九七八	一、二九三二	一、二七三九	一、二五三三	一、一九九八	一、一二三九	一、一五三一	一、三三三〇	一、四六五五	一、七三三八	一、八四〇〇	一、九五二九			
〇、七七二七	〇、七六七七	〇、七四九九	〇、六七二二	〇、六六七二	〇、六六七二	〇、五一二三	〇、四九九九	〇、四二八五	〇、三五八〇	〇、二二七〇	〇、二二八二			
〇、三五〇〇	〇、三八三一	〇、三一七七	〇、三一二六	〇、三三三一	〇、三五二一	〇、三六八九		〇、四四二一	〇、五三〇八	〇、五四二二	〇、四九三五	〇、五〇一五	〇、五二一五	〇、五九四一
〇、三五四四	〇、三五四四	〇、三〇二八	〇、二五四四	〇、一九三八	〇、一八五六	〇、一四二〇	〇、一〇〇二	〇、〇六〇八	〇、〇四九九	〇、〇四一二	〇、〇三九一	〇、〇四九二	〇、〇四二一	〇、〇三七八

右表ニ據レバ收量ハ施肥量ニ正比例シ特ニ磷酸〇、一瓦ト〇、一二五瓦トノ間ニ於テ著シキ差異アルヲ知ル。次ニ施肥量ト含有量トノ關係ヲ見ルニ左表ノ如シ。

二一三	二四九	二四五	二四一	二三九	二三八	二三六	二三四	二三三	二三二	二三一	二三〇
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
〇、一二五	〇、一五〇	〇、二〇〇	〇、二五〇	〇、三〇〇	〇、四〇〇	〇、五〇〇	〇、七五〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇
六、三四	七、八一	一〇、一八	一二、三八	一三、五八	一四、四六	一五、六六	二二、三六	二五、九五	二六、五二	二六、三二	二六、三二
八、一三	一二、一三	一九、二八	二五、九〇	二三、二八	二八、三四	二八、五五	三四、八二	四五、三八	四三、二八	四三、一六	四三、一六

四、水稻生育期ト窒素及磷酸含有量トノ關係

水稻生育期中ニ於ケル窒素及磷酸含有量ノ變化ヲ調査センガ爲メニ源一本(中生)静岡愛國(早生)豊作選(晩生)春糯(晩生)ノ四品種ヲ用ヒ各三要素區、無窒素區、無磷酸區、無加里區ヲ設ケ一坪五十二株ノ割合ニ早生ハ三本植、中晩生ハ二本植トシテ移植セリ。施肥量ハ三要素區反當堆肥二〇〇貫、硫酸アンモニヤ八貫、硫酸加里(四〇%)四貫、過磷酸石灰十二貫トシ無窒素區ハ之ヨリ硫酸アンモニヤヲ省略シ無磷酸區ハ過磷酸石灰ヲ省略シ無加里區ハ硫酸加里ヲ省略セリ。

供試材料ハ移植後五日目毎ニ各區ヨリ中庸ニ生育セルモノ十五株宛ヲ根ノ儘拔取リ水洗風乾シ莖葉、根、穂ヲ秤量シ更ニ其一部ヲ採リテ分析材料トセリ。但シ移植後五十日目即チ第十回目ヨリハ各區毎ニ十株宛第十五回目ヨリハ五株宛ヲ拔取レリ。

(イ) 成育中ノ草丈、分蘗數及一株ノ莖葉穂ノ重量

移植 苗 草丈	草 丈 及 分 蘗 數		一株ノ莖葉及穂ノ重量	
	分蘗數	二本	三要素區	無窒素區
第一回	1,25	1,10	0,90	0,53
第二回	1,54	1,51	1,34	0,92
第三回	1,65	1,55	2,66	2,66
第四回	9,8	6,0	1,66	1,96
第五回	1,79	1,63	3,29	1,96
第六回	1,40	8,0	1,00	2,35
第七回	1,79	1,70	1,33	0,53
第八回	2,05	1,25	2	0,73
第九回	2,05	1,25	1,33	0,53
第十回	2,66	2,38	2,76	2,53

第一〇回	草 丈 及 分 蘗 數		一株ノ莖葉及穂ノ重量	
	分蘗數	二本	三要素區	無窒素區
第一回	1,65	1,55	2,66	2,66
第二回	9,8	6,0	1,66	1,96
第三回	1,79	1,63	3,29	1,96
第四回	1,40	8,0	1,00	2,35
第五回	1,79	1,70	1,33	0,53
第六回	2,05	1,25	2	0,73
第七回	2,05	1,25	1,33	0,53
第八回	2,30	1,68	2,97	1,50
第九回	2,56	2,30	3,68	2,07
第十回	2,66	2,38	2,76	2,53

第一八回	第一九回	第二〇回	第二一回	第二二回	第二三回	第二四回	第二五回
三、三	一四、六	三、三〇	一七、四	三、三五	一七、四	三、三五	一七、四
二、八九	一〇、四	二、九八	一一、〇	三、〇一	二、九八	一一、〇	三、〇一
三、四五	二〇、〇	三、四九	一九、九	三、五九	一九、二	三、〇九	一九、二
四一、八三	五〇、一三	五四、九五〇	四、五一九	六〇、六六六	七、二三五	六四、〇二一	六九、二三三
二六、八〇〇	三〇、三〇〇	三五、九九〇	二、九三九	三八、二四五	三、二九五	四〇、四五〇	四四、四〇〇
五七、一八三	五五、二〇〇	六四、〇〇〇	四、八九〇	六〇、六〇〇	七、〇〇〇	六一、八六四	六八、九〇〇

第一一回	第一二回	第一三回	第一四回	第一五回	第一六回	第一七回
三、七	二、六四	二、五	二〇、三	二、七〇	二〇、五	二〇、七
一八、〇	二、三八	一七、〇	二、三八	二、四三	一七、〇	二、四七
二八、七	二、七	一八、〇	二、八〇	二〇、〇	二、九〇	二〇、〇
三三、二七〇	二四、二五〇	二九、九九八	三三、七五〇	三八、三〇〇	四三、一五三	四二、五九九
一三、九〇七	一六、二五〇	一六、九九九	一七、四七〇	二〇、二九九	二三、八二四	二四、五五五
二五、八七八	三三、四六七	三四、二九六	四〇、一五〇	四二、八五五	五一、〇三七	五三、八〇一

第三二回	第三一回	第三〇回	第二九回	第二八回	第二七回	第二六回
一七、二	三、〇七	一六、二	一七、三	一六、八	一六、〇	一五、五
二、〇七	三、一〇	一八、二	三、一〇	三、二一	三、二五	三、二五
二、八四	二、二〇	二、八二	二、八二	二、八五	二、八五	二、七八
一、四	二、八二	一、三〇	二、二五	二、二八	二、二八	二、二八
一六、〇	一五、〇	一六、〇	一六、〇	一六、六	一五、九	一七、〇
三、一三	三、〇九	三、〇九	三、二〇	三、二六	三、二五	三、三三
三五、三〇	三六、二九九	三七、一六〇	三七、五〇〇	三七、九二〇	三七、〇〇八	三七、五五〇
二八、〇九〇	二八、八八〇	二九、〇〇〇	二九、二〇〇	二九、八二〇	二〇、〇〇一	二一、三二〇
五二、三七〇	五二、四四四	五二、〇〇〇	五二、二〇〇	五二、八二〇	五〇、二〇七	四六、六六〇
三五、一三〇	三五、九九〇	三六、二七〇	三七、二九〇	三七、六八〇	三二、九〇五	二一、三六〇
一八、五〇〇	一八、五〇〇	一八、五〇〇	一八、五〇〇	一八、五〇〇	一八、五〇〇	一八、五〇〇

(口)分析成績

第三三回	第三四回	第三五回	第三六回
三、〇八	一七、八	三、一〇	一八、〇
一七、〇	三、〇六	三、一〇	三、〇九
二、八八	二、九三	二、九〇	二、八七
一、一〇	一、三二	二、九〇	二、八七
三、一二	三、一九	三、一二	一四、九
七五、九三〇	七五、三三〇	七五、六二九	七六、六四〇
五三、二〇四	五七、八四〇	五六、三〇五	五七、一六〇
二八、一〇〇	二八、九九二	二九、〇九九	三〇、一四〇
七五、四〇三	七四、二〇〇	七三、二九九	七三、二八二
三五、二〇〇	三五、三八七	三四、八〇八	三四、〇六〇

移植苗	第一回	第二回	第三回
〇、九七六六	一、九六三三	二、五二七八	二、四六七三
〇、九七六六	一、八四三三	二、四四一〇	二、三五二一
(+)	(+)	(+)	(+)
〇、一〇九	〇、二〇七	〇、一七六	〇、一五三
〇、五八二	〇、五九一七	〇、五九九八	〇、六〇〇七
〇、五八二	〇、五七〇七	〇、五七五〇	〇、五九三七
(+)	(+)	(+)	(+)
〇、一〇一〇	〇、一〇一〇	〇、一〇一〇	〇、一〇一〇

第一九回	第二〇回	第二一回	第二二回	第二三回	第二四回	第二五回	第二六回
0, 六九〇〇	0, 六四五〇	0, 五八五四	0, 五八〇四	0, 五七九七	0, 五三九五	0, 四九二四	0, 四七九九
0, 七五三五	0, 六六八〇	0, 六六一二	0, 六六八〇	0, 六六二七	0, 五八三三	0, 四七三五	0, 四六四七
(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
0, 〇六二五	0, 〇三三〇	0, 〇二八七	0, 〇三三四	0, 〇二九五	0, 〇二九四	0, 〇三四五	0, 〇二七六
0, 四四三三	0, 四二三四	0, 三九〇〇	0, 四九二七	0, 三六九九	0, 五三〇〇	0, 二六〇三	0, 二三五五
0, 四七三〇	0, 四六八八	0, 四〇五八	0, 四二五九	0, 四三三八	0, 五〇〇〇	0, 三〇九四	0, 二七一一
(-)	(-)	(+)	(+)	(-)	(+)	(-)	(-)
0, 〇二八〇	0, 〇四六四	0, 〇三七五	0, 〇六六八	0, 〇三五二	0, 〇三〇〇	0, 〇四九一	0, 〇三五六
0, 〇一八四	0, 〇六一四	0, 〇五八二	0, 〇五九八	0, 〇六二七	1, 〇三六九	0, 九六七〇	0, 八六〇九
0, 九一八四	0, 六六八〇	0, 六六一二	0, 六六八〇	0, 六六二七	1, 〇三六九	0, 四七三五	0, 四六四七
(+)	(-)	(-)	(-)	(-)	(+)	(-)	(+)
0, 〇一五二	0, 〇二八七	0, 〇二九五	0, 〇三三四	0, 〇二九五	0, 〇二九四	0, 〇三四五	0, 〇二七六
0, 四九九七	0, 五五五九	0, 五三二一	0, 五五五六	0, 五七二五	0, 二六〇三	0, 五三二七	0, 五三二七
0, 四九九二	0, 五〇〇九	0, 五三三一	0, 五三三九	0, 五二七九	0, 三〇九四	0, 五三二七	0, 五三六八
(+)	(-)	(+)	(+)	(+)	(-)	(+)	(-)
0, 〇一五七六	0, 〇〇三六	0, 〇〇三三	0, 〇一四七七	0, 二五四三	0, 〇二四四	0, 〇六〇一	0, 〇三三〇
0, 六三〇〇	0, 六九〇三	0, 七四九五	0, 七〇三七	0, 六六〇二	0, 六四二七	0, 六〇九二	0, 六〇九二
0, 五五五〇	0, 六七三二	0, 七三三六	0, 六八八〇	0, 六三七九	0, 六〇三三	0, 五八〇九	0, 五七七三
0, 〇三五六	0, 〇一七一	0, 〇二五九	0, 〇一五七	0, 〇三三一	0, 〇三九五	0, 〇二八三	0, 〇二七九
二, 四五四	二, 三四五六	二, 二六五三	二, 一三〇〇	一, 五二五六	一, 四九八七	一, 四三三一	一, 二四三二
二, 三〇〇八	二, 三四〇〇	二, 二七六〇	二, 一三〇〇	一, 七七八	一, 五二二二	一, 四九三三	一, 二二六七
二, 三〇〇八	二, 三四〇〇	二, 二七六〇	二, 一三〇〇	一, 七七八	一, 五二二二	一, 四九三三	一, 二二六七
(+)	(+)	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)	(-)
二, 四五四	二, 三四五六	二, 二六五三	二, 一三〇〇	一, 五二五六	一, 四九八七	一, 四三三一	一, 二四三二
二, 三〇〇八	二, 三四〇〇	二, 二七六〇	二, 一三〇〇	一, 七七八	一, 五二二二	一, 四九三三	一, 二二六七
二, 三〇〇八	二, 三四〇〇	二, 二七六〇	二, 一三〇〇	一, 七七八	一, 五二二二	一, 四九三三	一, 二二六七
(+)	(+)	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)	(-)
二, 四五四	二, 三四五六	二, 二六五三	二, 一三〇〇	一, 五二五六	一, 四九八七	一, 四三三一	一, 二四三二
二, 三〇〇八	二, 三四〇〇	二, 二七六〇	二, 一三〇〇	一, 七七八	一, 五二二二	一, 四九三三	一, 二二六七
二, 三〇〇八	二, 三四〇〇	二, 二七六〇	二, 一三〇〇	一, 七七八	一, 五二二二	一, 四九三三	一, 二二六七

第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第一〇回	第一一回	第一二回	第一三回	第一四回	第一五回	第一六回	第一七回	第一八回
二, 四五四	二, 三四五六	二, 二六五三	二, 一三〇〇	一, 五二五六	一, 四九八七	一, 四三三一	一, 二四三二	一, 一三四五	一, 〇六五四	一, 〇三三一	〇, 九五〇一	〇, 八五三〇	〇, 七四二九	〇, 六九〇〇
二, 三〇〇八	二, 三四〇〇	二, 二七六〇	二, 一三〇〇	一, 七七八	一, 五二二二	一, 四九三三	一, 二二六七	一, 一六六五	一, 〇五六七	一, 〇四三九	〇, 九九六三	〇, 九〇九九	〇, 八五八一	〇, 七五三五
(+)	(+)	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(+)	(+)	(-)	(-)	(-)	(-)
0, 〇一五七六	0, 〇〇三六	0, 〇〇三三	0, 〇一四七七	0, 二五四三	0, 〇二四四	0, 〇六〇一	0, 〇三三〇	0, 〇二八七	0, 〇二八七	0, 〇二八七	0, 〇四六二	0, 〇五五九	0, 〇一五二	0, 〇六二五
0, 六三〇〇	0, 六九〇三	0, 七四九五	0, 七〇三七	0, 六六〇二	0, 六四二七	0, 六〇九二	0, 六〇九二	0, 五八八八	0, 五七二五	0, 五五五六	0, 五三二一	0, 五一一一	0, 四九九七	0, 四四三三
0, 五五五〇	0, 六七三二	0, 七三三六	0, 六八八〇	0, 六三七九	0, 六〇三三	0, 五八〇九	0, 五七七三	0, 五五七三	0, 五二七九	0, 五二三九	0, 五三三一	0, 五〇〇九	0, 四九九二	0, 四七三〇
0, 〇三五六	0, 〇一七一	0, 〇二五九	0, 〇一五七	0, 〇三三一	0, 〇三九五	0, 〇二八三	0, 〇二七九	0, 〇三五六	0, 〇四四六	0, 〇三三七	0, 〇三五六	0, 〇三〇九	0, 〇〇〇五	0, 〇二八〇
二, 四五四	二, 三四五六	二, 二六五三	二, 一三〇〇	一, 五二五六	一, 四九八七	一, 四三三一	一, 二四三二	一, 一三四五	一, 〇六五四	一, 〇三三一	〇, 九五〇一	〇, 八五三〇	〇, 七四二九	〇, 六九〇〇
二, 三〇〇八	二, 三四〇〇	二, 二七六〇	二, 一三〇〇	一, 七七八	一, 五二二二	一, 四九三三	一, 二二六七	一, 一六六五	一, 〇五六七	一, 〇四三九	〇, 九九六三	〇, 九〇九九	〇, 八五八一	〇, 七五三五
二, 三〇〇八	二, 三四〇〇	二, 二七六〇	二, 一三〇〇	一, 七七八	一, 五二二二	一, 四九三三	一, 二二六七	一, 一六六五	一, 〇五六七	一, 〇四三九	〇, 九九六三	〇, 九〇九九	〇, 八五八一	〇, 七五三五
(+)	(+)	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(+)	(+)	(-)	(-)	(-)	(-)
0, 〇一五七六	0, 〇〇三六	0, 〇〇三三	0, 〇一四七七	0, 二五四三	0, 〇二四四	0, 〇六〇一	0, 〇三三〇	0, 〇二八七	0, 〇二八七	0, 〇二八七	0, 〇四六二	0, 〇五五九	0, 〇一五二	0, 〇六二五
0, 六三〇〇	0, 六九〇三	0, 七四九五	0, 七〇三七	0, 六六〇二	0, 六四二七	0, 六〇九二	0, 六〇九二	0, 五八八八	0, 五七二五	0, 五五五六	0, 五三二一	0, 五一一一	0, 四九九七	0, 四四三三
0, 五五五〇	0, 六七三二	0, 七三三六	0, 六八八〇	0, 六三七九	0, 六〇三三	0, 五八〇九	0, 五七七三	0, 五五七三	0, 五二七九	0, 五二三九	0, 五三三一	0, 五〇〇九	0, 四九九二	0, 四七三〇
0, 〇三五六	0, 〇一七一	0, 〇二五九	0, 〇一五七	0, 〇三三一	0, 〇三九五	0, 〇二八三	0, 〇二七九	0, 〇三五六	0, 〇四四六	0, 〇三三七	0, 〇三五六	0, 〇三〇九	0, 〇〇〇五	0, 〇二八〇

第二七回	0,433.9	0,409.9	0,575.5	0,246.6	0,235.7	0,011.1
穗	0,860.9	0,852.9	0,014.0	0,537.7	0,532.7	0,005.0
第二八回	0,396.0	0,388.0	0,008.0	0,181.8	0,225.3	0,033.5
穗	0,863.3	0,814.9	0,008.0	0,539.5	0,535.8	0,003.7
第二九回	0,379.7	0,352.2	0,022.6	0,175.4	0,225.3	0,039.9
穗	0,880.0	0,833.3	0,047.6	0,539.5	0,225.3	0,039.9
第三〇回	0,373.1	0,344.9	0,038.2	0,164.2	0,223.3	0,049.0
穗	0,894.2	0,848.9	0,045.3	0,542.5	0,510.3	0,033.3
第三一回	0,352.6	0,331.9	0,020.7	0,149.7	0,163.3	0,036.6
穗	0,894.2	0,853.6	0,040.6	0,546.8	0,519.8	0,027.0
第三二回	0,344.6	0,331.9	0,002.7	0,137.1	0,171.1	0
穗	0,894.2	0,866.2	0,028.0	0,548.2	0,567.7	0,025.5
第三三回	0,360.1	0,333.3	0,027.0	0,155.0	0,229.2	0,058.8
穗	0,894.2	0,869.7	0,034.5	0,555.9	0,520.3	0,056.6
第三四回	0,359.7	0,331.9	0,027.8	0,130.8	0,280.0	0,001.8
第三四回	0,359.7	0,331.9	0,027.8	0,130.8	0,280.0	0,001.8

第三五回	0,894.2	0,870.5	0,013.7	0,558.2	0,526.7	0,041.5
穗	0,345.0	0,330.0	0,011.0	0,229.2	0,273.3	0,001.9
第三六回	0,894.2	0,844.2	0,030.0	0,566.9	0,527.4	0,046.5
穗	0,347.2	0,342.2	0,030.0	0,229.2	0,251.1	0,041.1
第三六回	0,894.2	0,862.2	0,034.0	0,567.7	0,529.9	0,047.8

備考、前表中「印アルモノハ三要素區ノ莖葉穂中ノ全窒素或ハ全磷酸含有量ガ無窒素區或ハ無磷酸區ノ夫レヨリモ大ナルヲ示シ」印アルモノハ逆ニ小ナルコトヲ示ス。

第五 依頼分析及場用分析

一 依頼分析

(一) 依頼分析許可件数	138
(二) 肥料内 依頼分析許可成分数	293
(三) 肥料内 分析依頼者別	249
土壤	33
其他	11

(五)

分析肥料ノ種類及成分含有量

肥料名	件數	成分			素			磷			酸			加里			其他		
		最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
硫酸加里	五	六	二	二六、七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アンモホス	一	二	五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
配合肥料	二五	七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鱈粕	四	八	九、三	六、六	八、三	五、五	七、八	三、三	五、二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
乾燥鱈身粉末	一	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鹽鱈粕粉末	一	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
魚粕粉末	二	四	九、三	七、三	八、二	五、九	五、九	二、八	四、三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
雜魚粕	六	一	一八、〇	六、一	六、六	九、九	六、〇	六、〇	六、六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鯉荒粕	三	六	七、三	六、〇	六、七	二、一	三、八	九、九	一、〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鯉煮出粕	一	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
唐人粕	一	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
海老粉末	一	三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
海老皮	二	四	四、三	三、五	三、九	四、〇	二、七	三、四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(四)

依頼者郡市別

郡市別	件數	成分數			郡市別	件數	成分數		
		最高	最低	平均			最高	最低	平均
静岡市	一〇	—	—	—	志太郡	二〇	—	—	—
濱松市	一三	—	—	—	榛原郡	七	—	—	—
賀茂郡	一	—	—	—	笠原郡	—	—	—	—
田方郡	三	—	—	—	小笠原郡	—	—	—	—
駿東郡	二	—	—	—	磐田郡	三	—	—	—
富士郡	五	—	—	—	田名郡	一〇	—	—	—
庵原郡	八	—	—	—	濱名郡	一七	—	—	—
安倍郡	一五	—	—	—	引佐郡	五	—	—	—

一反當生草量 二七八、六
同上風乾量 七三、七 風乾歩合 二六、五%

風乾物ニ對スル收油歩合 ○、三六%

備考、風乾物ハ乾燥ノ際少シク醱酵シテ種子脱落セルヲ以テ莖ト種子ヲ交互ニ蒸溜器ニ詰メテ蒸溜ス。播種期ハ五月三日、採種期ハ九月十二日ナリ。

二 蜜柑酒研究

前年度ニ於テ試醸セル結果製品ニ苦味多カリシヲ以テ之ガ原因ヲ知ランガ爲メ酵母、砂糖、中和劑等ノ種類ヲ異ニスル試驗及ビ混菌ヲ防グベキ試驗ヲ行ヒ併セテ蒸溜酒ノ製造及貯藏試驗等ヲ行ヒタリ次ニ其醱酵法及成績ノ概要ヲ列記ス。

イ 醱酵法

蜜柑ハ皮ヲ去リ布袋ニ入レテ壓搾シ搾汁ヲ三立入三角壺ニ入レ一石ニ對シテ二十斤ノ割合ニテ白糖ヲ添加シ酸ハ其大部分ヲ中和シテ〇、五%ヲ殘シ少量ノ純粹培養酵母ヲ加ヘ輕ク綿栓ヲ施シテ主醱酵ヲ終リ其上澄液ヲ他ノ壺ニ移シ醱酵栓ヲ施シテ第二醱酵ヲ行ヒタリ。

ロ 酵母ノ種類ニ因リテ製品ノ品質ニ及ボス影響

酵母ハ「ヨハネスベルヒ」「カーレント」及蜜柑皮ヨリ分離セル自然酵母ヲ使用セリ。其結果清澄ノ度ニ於テハ「ヨハネスベルヒ」最モ早ク自然酵母最モ遅レ、此ノ自然酵母ハ醱酵力極メテ微弱ニシテ完全ニ醱酵ヲ終ル迄ニハ約五月ヲ要シタリ。然レ其苦味ノ程度ニ於テハ自然酵母最モ少ナク「カーレント」之ニ亞ギ「ヨハネスベルヒ」最モ大ナリ。

ハ 砂糖ノ種類ニ因リテ製品ノ品質ニ及ボス影響

精製白糖及市賣葡萄酒ヲ添加比較セシニ其味ニ於テハ殆ンド差異ヲ認メザレ共添加セル葡萄酒純白

ナラザリシ爲メ製品ノ色ヲ稍濃厚ニセリ。精製糖ヲ添加セルモノハ淡黄色ニシテ鮮明ナリ。

ニ 中和劑ニ因リテ製品ノ品質ニ及ボス影響

搾汁ノ酸度ハ枸橼酸トシテ一、五%ヲ含有セルヲ以テ其三分ノ二ヲ苛性加里及炭酸石灰ヲ以テ中和セシニ何レノ場合ニモ製品ノ品質ニ特別ナル差異ヲ認メズ。

ホ 醱酵前加熱殺菌ニ因リテ製品ノ品質ニ及ボス影響

搾汁ヲ三十分間沸湯中ニテ加熱シ冷却後酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタレ共加熱セザルモノニ比シ香味共ニ差異ヲ認メズ。尙自然酵母ニ於テハ豫メ殺菌セルモノノミ完全醱酵ヲ終リ清澄セシモ他ノ場合ニハ殆ンド全部多少ノ異狀醱酵ヲ起セリ。

ヘ 蒸溜酒ノ製造

清澄セル蜜柑酒ヲ蒸溜シ沸騰點百度ニ上昇スルニ至リテ蒸溜ヲ中止セルニ溜出液約三分ノ一ヲ得タリ。此ノ溜出液ハ酒精約三十%ヲ含有シ香味良好ナリ。

ト 貯藏試驗

貯藏後ニ於ケル香味ノ變化ヲ檢センガ爲メ醱酵液及蒸溜液ヲ共ニ瓶詰トシ床下ニ貯藏シ一年後ニ於テ其變化ヲ檢セントス。要之以上ノ試驗ニ於テハ未ダ醱酵液ノ苦味ヲ去ル能ハザルヲ以テ更ニ研究ヲ繼續施行セントス。

三 枇杷、梨、苺等ヲ原料トセル人工酒精飲料ノ研究

枇杷、梨、苺等ノ屑物ハ之ヲ醱酵セシムルヨリモ寧ロ酒精ヲ以テ其香味及色素ヲ浸出シ之ニ砂糖ヲ加ヘテ人工酒精飲料トナスヲ得策ト信ジ之等ヲ試製セシニ枇杷及梨ノ兩者ハ殆ンド其特色ヲ發揮スル

能ハズシテ已ミタレ共獨リ苜ハ色澤恰モ赤葡萄酒ノ如ク鮮紅色ニシテ稍飲用スルニ足ルモノヲ製スルヲ得タリ。

第七 施肥標準調査(土性調査)

一 三要素委託試驗成績

大正八年度ニ於テ現地調査ヲ施行セル區域中代表的地ニ水稻及ビ麥ニ對スル十三箇所ノ試驗地ヲ前年以來設置繼續セリ。而シテ本試驗地ハ凡テ各郡農會ニ委託シ町村農會ト協力シ以テ其ノ成績ノ遺憾ナキヲ期セリ。

試驗地各區ノ面積ハ一様ナラズト雖モ一區九坪乃至十八坪ナリ。今參考ノタメ水稻ニ對シテハ大正十一年、大麥ニ對シテハ大正十年ノ收量ヲ表示スレバ次ノ如シ。

但シ左表中第二區ノ數字ハ一反歩ニ改算セルモノニシテ其他ノモノハ第二區ノ收量ニ對スル百分比例ヲ示シタルモノトス。

甲、水稻ノ部

試驗地位	地質	土性	試驗						
			年次	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區
椋原郡				完全肥料	完全肥料石灰加用	同上	同上	同上	同上
下川根村	第四紀新層	壤土	三二六、一	一三八、二	一〇〇、〇	一〇六、九	一〇一、九	九七、三	一〇一、七
			比	例	同比例	同比例	同比例	同比例	同比例

乙、麥ノ部

試驗地位	地質	土性	試驗						
			年次	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區
駿東郡				完全肥料	完全肥料石灰加用	同上	同上	同上	同上
須山村	火山灰砂	腐植質壤土	二八九、二	四八、八	一〇〇、〇	七二、三	八九、二	一〇四、六	三六、九
富士郡			三九五、一	四一、〇	一〇〇、〇	八五、四	八五、四	八七、八	七六、〇
大宮町	富士火山系	礫砂及腐植質壤土	三	三	三	三	三	三	三
安倍郡			二九九、二	五五、一	一〇〇、〇	六五、〇	二〇八、八	九三、四	五八、四
玉川村	三倉層	礫質壤土	三	三	三	三	三	三	三
志太郡			三八〇、七	八九、三	一〇〇、〇	六七、〇	八〇、七	九一、五	四五、二
東川根村	川根層	含礫壤土	三一〇八、〇	五八、五	一〇〇、〇	五〇、四	八八、八	八四、六	四一、九
德山村	同	礫質壤土	三一〇六、九	四八、〇	一〇〇、〇	五一、五	九四、五	七九、七	四五、二
伊久身村	三倉層	同							

榛原郡	中川根村	川根層	礫質壤土	三	一三〇、八	五四、三	一〇〇、〇	三六、八	九二、二	九六、八	二七、七
周智郡	奥山村	花崗岩	礫質壤土	三	九七六	一〇二、五	一〇〇、〇	七〇、七	一〇一、〇	一〇〇、〇	五六、三
磐田郡	熊切村	古生層	同	三	一〇三、一	八七、五	一〇〇、〇	八一、七	一〇〇、〇	一〇一、四	六〇、〇
光明村	第四紀新層	含礫壤土		三	一一二、七	五七、四	一〇〇、〇	六八、九	九八、〇	一一三、〇	五六、三
龍川村	太古層片岩	礫質壤土		三	一〇五、六	九三、七	一〇〇、〇	四五、一	七九、六	九二、三	四三、七
浦川村	片麻岩	同		三	八〇、〇	九〇、〇	一〇〇、〇	三九、八	九二、〇	九四、〇	四二、七

一一 施肥標準委託試驗成績

本試験ハ大正四年度ヨリ施行シ來ルル土性調査及ビ肥料三要素試験ノ完了セシ區域中代表的ト認メタル地ニ實地踏査、成績土壤理化學的分析成績並ビニ肥料三要素試験成績ヲ應用シ其ノ地方慣用自給肥料ヲ基礎トセル合理的配合法ニ依リ栽培シ理想的施肥法ト收穫量トヲ知ラントスルモノニシテ尙ホ其ノ地方ニ於テ最モ普通ニ行ハルル在來ノ施肥法ト比較對照シ以テ一般農家ノ實見ニ供セントス。

設計ノ概要ハ肥料要素試験ノ完全肥料石灰加用區即チ第二區ニ於ケル收量ヲ標準トシ之レニ土壤ノ理化學的性質ヲ斟酌シテ目的收量(豫定收量)ヲ定メ其レニ伴フベキ全收穫物(粃、藁、世秤)中ノ三要素含有量ト要素試験ヨリ得タル天然供給量トヨリ三要素ノ不足量ヲ算出シ更ニ之ヲ肥料利用率ヨリ換算シテ實際補給量ヲ定メ更ニ土壤ノ理化學的性質及ビ慣用肥料調査成績ヨリ動物、植物、礦物質肥料ヲ配合シ以テ施肥量並ビニ施肥回数ヲ定ム。

大正十年度及ビ大正十一年度ニ設置セシ水稻十六箇所ノ目的收量ニ對スル肥料名及ビ反當施肥量ヲ示セバ次ノ如シ。

試驗地位	區名	玄米目		大豆	硫磺	過磷酸	石灰	綠肥	桑種	花生	骨粉	成分	
		基本肥料	收量									收量	收量
田方郡 仁南村大字 仁田	標準一	堆肥	100.0	10.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0
	標準二	堆肥	100.0	10.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0
	標準三	堆肥	100.0	10.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0
	在來	乾草	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
賀茂郡 下河津村 田中	標準一	堆肥	100.0	10.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0
	標準二	堆肥	100.0	10.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0
	標準三	堆肥	100.0	10.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0
	在來	乾草	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0

小笠原郡 垂木村大字 田中		小笠原郡 加茂村大字 三軒家		榛原郡 吉田村大字 片岡		志太郡 高洲村大字 高柳		志太郡 越後島 越後島		
標準一	標準二	標準一	標準二	標準一	標準二	標準一	標準二	標準一	標準二	在來
二、八〇〇	二、八〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
生草	生草	生草	生草	生草	生草	生草	生草	生草	生草	生草
一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
二、八〇〇	三、八〇〇	八、〇〇	八、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇
ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
一、八〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
五、〇〇	四、五〇	六、〇〇	七、五〇	五、〇〇	四、〇〇	六、〇〇	五、〇〇	六、〇〇	七、〇〇	七、五〇
五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	四、〇〇	五、〇〇	四、〇〇	五、〇〇	四、〇〇	五、〇〇	五、〇〇
ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇
二、七〇	二、〇〇	三、五〇	三、七〇	一、八〇	二、五〇	一、九〇	三、八〇	一、六〇	三、一〇	二、五〇
二、五〇	一、〇〇	二、八〇	二、二〇	一、〇〇	二、六〇	一、〇〇	三、八〇	一、〇〇	二、六〇	二、六〇
三、二〇	二、八〇	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	二、八〇	一、〇〇	三、八〇	一、〇〇	三、一〇	三、一〇

安倍郡 千代田村大字 字谷ノ谷		庵原郡 庵原村大字		富士郡 加島村大字 水戸島		駿東郡 小山町大字 藤曲		
標準一	標準二	標準一	標準二	標準一	標準二	標準一	標準二	在來
三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇
生草	生草	生草	生草	堆肥	堆肥	生草	乾草	生草
一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
九、〇〇	七、〇〇	七、五〇	五、〇〇	六、〇〇	七、五〇	八、〇〇	六、〇〇	一〇、〇〇
四、〇〇	五、〇〇	三、五〇	三、五〇	四、〇〇	三、五〇	五、〇〇	五、〇〇	四、〇〇
ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇
二、九〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
二、九〇	二、五〇	二、七〇	二、〇〇	三、三〇	二、七〇	三、九〇	四、三〇	三、八〇
二、八〇	三、六〇	二、七〇	二、〇〇	一、五〇	二、六〇	五、五〇	五、八〇	四、五〇

調査ヲ施行シ以テ成績ノ遺憾ナキヲ期セリ。
 今參考ノ爲メニ前記水稻試驗地十六箇所ニ對スル大正十一年度ニ於ケル反當收量成績ヲ示セバ次表
 ノ如シ。

試驗地位	地質	土性	供試品種	區名	標準區 的收量	實際收量	在來區 増減量	擔當人
駿東郡 小山町	富士燒岩 火山礫	埴質壤土 特選小丈	第一標準區 第二標準區 第三標準區	第一標準區 第二標準區 第三標準區	同 同 同	同 同 同	同 同 同	室伏義雄
田方郡函南村	同	埴質壤土 愛媛神力	標準區 在來區	標準區 在來區	同 同	同 同	同 同	高橋伊三郎
賀茂郡 下河津村	第四紀新壤	土田中錦	第一標準區 第二標準區 第三標準區	第一標準區 第二標準區 第三標準區	同 同 同	同 同 同	同 同 同	鈴木藤吉

富士郡 加島村	第四紀新壤	土中神力	第一標準區 第二標準區 在來區	第一標準區 第二標準區 在來區	同 同 同	同 同 同	同 同 同	石川清藏
庵原郡 庵原村	同	埴質壤土 静岡源一 本第一號	第一標準區 第二標準區 在來區	第一標準區 第二標準區 在來區	同 同 同	同 同 同	同 同 同	乾藤吉
安倍郡 千代田村	同	同	第一標準區 第二標準區 在來區	第一標準區 第二標準區 在來區	同 同 同	同 同 同	同 同 同	青木萬藏
志太郡廣幡村	同	同	第一標準區 第二標準區 在來區	第一標準區 第二標準區 在來區	同 同 同	同 同 同	同 同 同	甲賀伊吉

磐田郡富岡村	濱名郡中ノ町村	濱名郡積志村	
同	同	同	
同	壤質砂土	砂質壤土	
同	同	磐田朝日三號	
在來區	在來區	在來區	在來區
第一標準區	第一標準區	第一標準區	第一標準區
二、八	二、八	三、五	同
三、三	二、三〇	三、二九	三、三六
〇、〇六增	〇、三〇	〇、一五增	〇、三三
門奈權三郎	岡本幸一郎	尾上荒太郎	

周智郡園田村	小笠郡垂木村	小笠郡加茂村	榛原郡吉田村	志太郡高洲村
同	同	同	同	同
壤	同	埴質壤土	壤	砂質壤土
土源一本	新朝日	同	土源一本	曙
在來區	在來區	在來區	在來區	在來區
第一標準區	第一標準區	第一標準區	第一標準區	第一標準區
三、五	三、〇	二、八	二、八	同
三、二九	二、九八	三、一〇	二、七三	三、一八
〇、四〇減	〇、二五增	〇、〇七減	〇、一〇增	〇、三七
村松七藏	堀内市朗	八木春平	絹村治郎吉	谷澤伊作

引佐郡中川村 同	地質壤土源 一本第二標準區	第一標準區	二、七	三、五二	〇、九六	増	内山保次郎
在來區	同	同	三、七二	二、五五	一、二七		

乙、大麥之部

大正十年度ニ新設セル大麥十四箇所ノ目的收量ニ對スル肥料名及ビ反當施肥量ヲ示セバ次ノ如シ。

試驗地位置	區名	支米目 的收量	基本肥料	大豆粕	硫酸アン モニヤ	過磷酸石 灰(15%)	硫酸 里(10%)	煉精	菜種粕	落花生粕	蒸製 骨粉	成分 量	加量
賀茂郡 岩科村岩科	標準一	四、〇	厩肥	100.0	1.0	1.0	1.0	5.0	—	—	—	四、六	二、八
	標準二	四、〇	石厩肥 人糞尿	100.0	1.0	1.0	1.0	7.0	木灰	—	—	四、九	三、三
田方郡 錦田村竹倉	標準一	三、五	堆肥 人糞尿	100.0	1.0	1.0	1.0	2.0	—	—	—	二、九	一、九
	標準二	三、五	堆肥 人糞尿	100.0	1.0	1.0	1.0	5.0	石灰	木灰	—	二、八	二、五

縣	郡	村	標準一	標準二	在來	堆肥	人糞尿	大豆粕	硫酸アン モニヤ	過磷酸石 灰(15%)	硫酸 里(10%)	煉精	菜種粕	落花生粕	蒸製 骨粉	成分 量	加量	
駿東郡 原里村川島	標準一	二、五	堆肥	100.0	1.0	1.0	1.0	10.0	—	—	—	—	—	—	—	三、六	二、六	二、二
	標準二	二、五	堆肥 人糞尿	100.0	1.0	1.0	1.0	8.0	—	—	—	—	—	—	—	三、六	二、八	二、八
志太郡 朝比奈村宮	標準一	三、〇	堆肥 人糞尿	100.0	1.0	1.0	1.0	6.0	—	—	—	—	—	—	—	四、二	二、三	二、二
	標準二	三、〇	堆肥	100.0	1.0	1.0	1.0	7.0	—	—	—	—	—	—	—	四、一	二、〇	二、六
安倍郡 三保村羽衣	標準一	二、五	堆肥	100.0	1.0	1.0	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	四、三	二、三	三、〇
	標準二	二、五	堆肥	100.0	1.0	1.0	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	三、六	二、二	二、一
在來	標準一	二、五	堆肥	100.0	1.0	1.0	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	三、三	二、三	三、〇
	標準二	二、五	堆肥	100.0	1.0	1.0	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	三、六	二、一	二、一

安倍郡三保村	志太郡朝比奈村	榛原郡川崎町	磐田郡富岡村
第四紀新砂	三倉層埴質壤土	牧之原系壤	第四紀古埴
土三保	稗借金切	土青三德	土白六角
第一標準區	第一標準區	第一標準區	第一標準區
在來區	在來區	在來區	在來區
二、五	三、〇	二、五	三、〇
一、六	二、五	一、八	二、〇
〇、一五	〇、六	〇、四	〇、三〇
遠藤平左衛門	長島金作	大石榮次郎	青田治五平

濱名郡三方ヶ原村	引佐郡伊平村
同	蛇紋岩含礫壤土
壤質埴土	青三德
庄内白穂	在來區
第二標準區	第一標準區
在來區	在來區
三、五	二、五
三、三六	二、四三
〇、二六	〇、四三
内山政藏	柴田源作

病 蟲 部

第一病 害

一 稻白葉枯病ニ關スル試驗及調査

本病原細菌ニ就テ前年度ニ繼續シ培養上其他ノ性質ノ研究ヲ施行スルト共ニ室内ニ於ケル接種試驗、肥料成分ト發病ニ關スルボット試驗及品種ノ耐病性ニ關スル比較試驗等ヲ施行セリ。

(イ) 肥料成分ト發病ニ關スル試驗

前年度ニ繼續シ室外ニ放任セル其儘ノボット土壤ニ就キ前年度ニ準ジテ各區別肥料ヲ施シ稻(愛媛神力)ヲ培養シテ之ニ數回ニ涉リ培養病原細菌ヲ撒布接種シテ發病狀態ヲ比較セシニ何レモ多少ノ發病ヲ示シタリト雖モ著シキ差異ヲ認ムルコト能ハザリキ。

(ロ) 水稻品種ノ耐病性比較試驗

本病ニ對スル耐病性ヲ比較センガ爲メ水稻七十三種ヲ各六十九株三列宛一本植トナシ愛媛神力ヲ標準トシテ八十四區ヲ設ケ其一半ニ對シ發原細菌(C系)ノ馬鈴薯煎汁寒天培養(四十五日)ヲ殺菌水ニ溶解浮游セシメ八月五日ヨリ三週間置キニ三回各品種別一定量宛撒布接種シ爾後ノ發病狀態ヲ觀察比較セリ。

八月中ハ極メテ僅カノ發病ヲ認メタルノミナルモ第二回接種後九月中旬ニ至リ病徵著シク品種的ノ差異顯著トナルニ至レリ。而シテ各品種共初期ハ其片側接種部ノミニ著シク發病シ無接種部ノ稻ニハ殆ンド認ムルコト能ハザリシモ後期十月上旬ニハ無接種部ニモ傳染發病スルニ至レリ。

九月二十日及十月五日ニ於テ愛媛神力ヲ標準トシテ調査セル成績ニ依レバ静岡源一本一號、富士、春糯、赤糯、晚糯、太閤糯等ハ耐病性ニ富ミ、静岡愛國一號、畿内早生六九號、郡益、兵庫新山田穂一號、愛媛雄町、畿内一七一號、朝日一二五號、同一四五號、同一九三號、晚白笹、豊作選七〇號、同八八號、藤花、三德糯、中生春糯、陸水糯等稍耐病性ヲ有シ愛媛神力、神力二五九號、磐田朝日三號、朝日六五號、畿内晚生四號、同三二號、同一〇三號、同八號、小錦、仁田雄町、田中錦、神力糯、愛知平和糯等ハ最モ罹病性著シキモノ、如シ。

(ハ) 白葉枯後期發病ニヨル被害影響調査

本縣地方ニ於ケル本病ノ著シク發生ヲ見ルハ主トシテ九月中下旬以降ニシテ特ニ稻ノ將ニ成熟セントスル頃最モ顯著ニ廣ク發生スルモノ、如シ。即チ是等稻成育後期ノ發病ガ收量及品質ニ如何ナル影響ヲ及ボスモノナルカニ關シテ未ダ精密ナル調査ナキヲ以テ場内品種比較試驗區中九月二十四五日頃ヨリ點々集團的發病ヲ認メタルヲ以テ殆ンド地力均等ナル同一試驗區中之等發病部(直徑二間位ノ圓形面積)ノ中心ト相接シタル無發病部ト一坪宛並ニ番外部ヨリ顯著ナル被害株及無病ノモノ十株宛ヲ脱粒朝日三號及ビ愛媛神力〇四〇四號ノ二品種ニ就キ十月下旬ニ至リ他ト同様ニ刈取り室内ニ於テ乾燥ノ上左記ノ如キ調査ヲ施行セリ。成績次表ノ如シ。

十株ニ對スル調査

品 種 名	部 位	莖 數	粒着(百)		程重量	粒重量	粉一升		粉千粒	玄米一	玄米千
			本平均	平均			ノ重量	重 量			
脱粒朝日三	被害部	一九五	八六、〇元	一一〇	一一三	二六〇、三	二八、一四	三九四、〇	二二、八八		
	比較	一七三	八三、一〇	一三二	一〇四	二六〇、〇	二八、六八	三九八、〇	二四、七〇		

愛媛神力〇 四〇四號	被害部 比較	二〇九 二二八	九五、二 八七、五	一二三 一二七	八六 八二	二八〇、〇 二七五、〇	二七、三 二八、二	三九一、〇 三九七、〇	二四、一八 二四、四三
---------------	-----------	------------	--------------	------------	----------	----------------	--------------	----------------	----------------

一坪刈ニ對スル調査

區別	葉重量	籾重量	籾千粒重	籾一升重	籾摺歩合	玄米一升重
脱粒朝日被害區	六〇三	五六九	二七、八八	二八一、〇	七九、八五	三八九、二
同 比較區	六六五	五六七	二八、二七	二八、四	八一、七五	三九一、〇
愛媛神力被害區	六四四	五七七	二七、七七	二八五、六	八一、二五	三九三、五
同 比較區	六四	五四五	二八、四〇	二九三	八一、九八	三九五、六

但シ一升重量ハ「ブラワー氏」穀粒檢定器ヲ用ヒ前表ハ三回、後表ハ六回調査ノ平均ニシテ籾摺歩合ハ千瓦宛ニ回調査ノ平均トス。而シテ各回ノ檢定數ハ殆ンド平均數ト一致セリ。
以上ノ成績ニ就テ見ルニ稻成熟間際ニ於ケル白葉枯病ノ發生被害ハ直接粗收量特ニ籾容量ニ對シテハ其被害影響顯著ナラズトスルモ籾摺歩合ヲ減ズルノミナラズ穀質重量ニ減耗ヲ來シ其他著シク品質ヲ低下セシムルモノ、如シ。

一一 稻ノ萎縮病ニ關スル試驗

榛原郡ノミナラズ志太郡及ビ磐田郡ノ一部等點々本病ノ認メラル、モノニシテ前年度ヨリ本病除害

並ニ病原關係ニ就テ試驗ヲ開始シ本年度モ被害地ニ於テ除害防除ノ指導徹底ヲ期スルト共ニ場内及現地ニ就テ繼續試驗ヲ施行セリ。
場内試驗

四月十五日榛原郡吉田村川尻地方ニ於ケル前年萎縮病發生地附近ノ紫莖英田ヨリ「ツマダグロヨコバイ」ノ越年成蟲ヲ採集シ來リ、又比較ノタメ當試驗場圃場ノ紫莖英田ヨリモ「ツマダグロヨコバイ」ヲ採集シ、之等ヲ同月十七日ヨリ溫室内大型飼育箱ニ移シ三月下旬豫メ下種培養セル稻苗並ニ同日愛媛神力ヲ下種セル「ポット」ヲ入レ飼育培養シテ稻ノ成育並ニ發病關係ヲ調査セリ。五月中旬ニ至リ兩者共次代ノ幼蟲盛シニ發生シテ稻幼苗ヲ吸收ス。六月十三日之等兩方ノ加害苗及ビ無蟲ノ苗ヲ別々或ハ相列ベテ小「ポット」ニ移植栽培セシニ比較ノ無蟲苗及ビ試驗場産「ツマダグロヨコバイ」ノ加害苗ハ何レモ健全ニ發育セシニ反シ、吉田村産「ツマダグロヨコバイ」加害苗ノ大部分ハ六月下旬ヨリ次第ニ萎縮病徴ヲ示シ七月下旬明瞭ナル萎縮病稻トナレリ。

又六月十三日無被害苗ヲ移植シ之等ニ前日吉田村採集ノ「ツマダグロヨコバイ」及「イナヅマヨコバイ」並ニ試驗場産ノモノ等ヲ放飼培養セシニ吉田村産害蟲放飼加害ノモノハ點々發病株ヲ生ゼリ。
圃場委託試驗(榛原郡農會委託)

試驗地 榛原郡吉田村字川尻區

試驗ノ目的及方法 前年度ニ於ケル試驗及各種調査ノ成績ニヨリ本病除害ノ目的ニ對シテ苗代期ニ於ケル害蟲(主トシテ「ツマダグロヨコバイ」)驅除ノ必要ナルノミナラズ。無被害地ニテ養成セル苗モ本田ニ於テ又病害蟲ノ加害ニヨリ著シク傳播發病スルモノナルヲ以テ本年度ニ於テハ左記ノ如キ方法ニヨリ主トシテ本田ニ關スル試驗ヲ施行セリ。

一、本田注油驅除ニ關スル試驗 調査地區ハ被害地中央部ニ二畝歩ヲ設ケ之ニ現地ニ於ケル普通苗及

試驗場養成苗ヲ一本植トシ其周圍二町歩位ヲ同様ニ驅除ス。
 驅除ハ除蟲菊浸出石油(石油一斗ニ對シ除蟲菊二百匁)ヲ反當リ一升五合ノ割ニテ移植後五日目、十日目、廿日目ノ三回ニ同様注加驅除ス。

二、除害ニ對スル栽植及手入法ニ關スル試驗 被害地ニ於テ養成セル普通苗ヲ用ヒ同一狀態ノ被害地區ヲ一畝步宛四區ニ分チ次項以外ノ肥料管理ヲ同一ニシテ收量ヲ比較調査ス
 一區、在來法ニ準ジ株間八寸ニ八寸ノ六本植トシ放任。
 二區、在來法ニ植ヘ豫備苗ヲ用意シ置キ罹病株ノ除去補植ヲ行フ。

三、株間ヲ六寸ニ一尺三本植トシ罹病株除去補植ヲ行フ。
 四、株間三寸ニ一尺一本植トシ罹病株ヲ見次第踏込ヲ行フ。
 三、病害傳播ニ關スル試驗 發生地水田内ニ長サ三間、幅二間、高サ三尺ノ寒冷紗覆室ヲ作リテ害蟲ノ出入ヲ遮斷シタルモノ二個ヲ作り、此中ニ株間一尺ト六寸トシテ試驗場養成苗二百十六株、被害地ニテ養成セル苗百三十二株宛一本植トシ、一方ハ絶對無蟲區トシ他ノ一ツハ附近ノ「ツマガコロコヨバイ」ヲ採集シテ此内ニ放飼ス。而シテ八月中旬ニ至リ罹病歩合調査ノ上寒冷紗覆ヲ全部除去ス。

移植期ハ全部六月廿七日トス。
 成績及觀察
 一、本田注油驅除ノ成績ニ就テハ地方ノ擔當々事者石油使用ニ對シ直接被害ヲ恐レテ所期通りノ充分ナル注油ヲ手控スルノ傾向アリテ完全ナル殺蟲ヲ期スル事能ハズタメニ僅少ノ發病ヲ認メタリ。成績次表ノ如シ。

苗別	供試株數	罹病株數	罹病歩合
試驗場養成苗	一三六四	一五	一、一%

現地養成普通苗 六八二 一一 一、九%
 現地養成普通苗 三二〇 一一 三、二%

即チ本田ニ於テ約一%ノ被害株ヲ生ジ、現地養生ノ普通苗ハ約三%ヲ示セリ。
 然レドモ昨年ノ同試驗地ニ於ケル三十一區ノ平均發病被害歩合十六、八%ニ比シ、又本年同地附近ニ於ケル二回ノ本田一般驅除ヲ實施セルモノノ見込成績約五乃至七%位ナルニ比シ極メテ良好ナル成績ヲ示セリ。

二、栽培法ニ關スル比較試驗ノ成績ハ補植及ビ病株踏込等ノ管理未ダ充分ナラズ。又地區ノ配置第一區ハ水田ノ最下方ニアリ順次上位ニアリタル等ノ關係上次表ノ如キ成績ヲ得タリ。調査ハ各區ノ中部十二坪宛ヲ刈取リタルモノナリ。

區別	稲重量(匁)	稲容量(合)	米重量	米容量
一、在來植方放任區	四、五〇〇	一七七	三、三七〇	九六、〇
二、在來植方補植區	四、三〇〇	一六五	三、一七〇	八八、〇
三、一尺ニ六寸三本植補植區	三、七〇〇	一四二	二、八〇四	七九、四
四、一尺ニ三寸一本植病株踏込區	三、九二〇	一五七	三、〇一〇	八四、〇

三、病害傳播ニ關スル試驗成績ハ放飼區ノ蟲數僅少ニシテ且ツ内部ニ於ケル「ツマガコロコヨバイ」ノ繁殖モ外部ニ於ケルガ如ク良好ナラズ。從テ罹病株ノ發現多カラザリシモ比較無蟲區ニ比スレバ稍顯著ナル成績ヲ得タリ。即チ罹病株數次表ノ如シ。

區別	試驗場苗二一六株中	現地苗一三二株中	合計
放蟲區	三	一一	一五
比較無蟲區	一	一	二

但シ比較區ニ二株ノ罹病株ヲ出セルハ既ニ苗代時代ヨリノ感染苗ナルカ或ハ又充分注意修繕ヲナシタルモ暴風雨ノタメ寒冷紗覆ノ破損部ヨリ害蟲ノ侵入傳播ヲ來セシタメナルベシ。

一、前年度ヨリ引續キ場内外ニ於ケル以上ノ如キ試験成績ニ就テ見レバ一病毒ノ傳播ハ各地ニ於ケル試験ノ結果ト等シク罹病株ヨリ主トシテ「ツマダグロヨコバイ」(「イナヅマヨコバイ」モ傳播ヲ行フモノノ如シ)ヲ通ジテ苗代及本田初期ノ間ニ行ハル、モノノ如シ。

二、本年度吉田村川尻地方ニ於テハ既ニ苗代時期ニ約二バーセント内外ノ罹病株ヲ有シタルモノノ如シ。

三、移植後本田ニ於ケル初期注油驅除ハ本病除害上効果顯著ナルモノノ如シ。

二 稻黃化萎縮病ニ關スル試驗

前年度ニ於ケル供試罹病「ボット」ヲ室外自然状態ニ保存セルモノニ五月上旬試驗場産健全種子(愛媛神力)ヲ下種セシニ六月上旬ニ至リ「ボット」中八本ノ罹病苗ヲ發生セリ。

又六月中旬之等罹病苗ヲ細切シテ「ボット」表面ニ撒布シ之ニ前同様下種セシニ又數本ノ罹病苗ヲ發生セリ。同時ニ普通「ボット」ニ下種セル比較用ノモノハ何レモ發病スルコトナシ。

即チ本病ハ罹病植物組織内ニ形成セル卵胞子ニヨリテ土壤中ニ越年シ年々傳播シ苗ノ腐朽並ビニ萎縮ヲ發生スルノミナラズ又其年内ニ於テモヨク傳染發病ヲ來スモノノ如シ。

四 麥ノ斑葉病及ビ黑穗病豫防試驗

前年度試驗成績ニ鑑ミ更ニ試驗項目ノ取捨ヲ行ヒテ各種所理法ガ麥ノ發芽生育並ニ病害豫防効果收量等ニ及ボス影響ヲ比較研究センガタメ引續キ室内及圃場試驗ヲ施行セリ。

供試品種

- 一、大麥 青三徳 前年度試驗標準區ヨリ採種(前年斑葉病被害歩合二〇、一七%)
 - 二、大麥 (品種不詳) 引佐郡氣賀町産
 - 三、小麥 三州小竹 同 前
 - 四、小麥 三州小竹 當場産純系品種
- 種子所理期日 大正十一年十二月十一乃至十二日

試驗區別

室内試驗番號	圃場試驗番號	區名	所理方	法
一	一	標準	無所理	
二	二	冷水温湯浸法	六時間冷水浸、華氏百十五度ノ温湯ニテ温メラ後五分間華氏百三十二度ノ温湯浸法ヲ行ヒ冷却ス	
三	三	華氏百十五度風呂浸法	夜十時ヨリ上記風呂湯ニ投入放置シ六時間後引揚グ	
四	四	華氏百二十度風呂浸法	前者ニ準ズ	
五	五	石灰硫黄合劑浸	比重ボーメー五度液ニ六時間浸	
六	六	同	一度液ニ六時間浸	
七	同	同	〇、五度液ニ二十四時間浸	
八	同	同	〇、五度液ニ六時間浸	
九	同	同	〇、二度液ニ二十四時間浸	

一〇	七	市販フォルマリン液浸	〇、二%液ニ六時間浸
一一	硫酸銅液浸	〇、二%液ニ六時間浸	〇、三%液ニ同
一二	八	〇、三%液ニ同	〇、五%液ニ同
一三	同	〇、五%液ニ同	〇、二%液ニ二十四時間浸
一四	九	〇、二%液ニ二十四時間浸	〇、二%液ニ六時間浸
一五	同	〇、二%液ニ六時間浸	〇、五%液ニ同
一六	同	〇、五%液ニ同	〇、一%液ニ十分間浸
一七	昇	〇、一%液ニ十分間浸	〇、一%液ニ五分間浸
一八	汞	〇、一%液ニ五分間浸	〇、〇五%液ニ十分間浸
一九	同	〇、一%液ニ五分間浸	〇、〇五%液ニ五分間浸
二〇	同	〇、〇五%液ニ十分間浸	〇、〇五%液ニ五分間浸

附記 藥液浸漬ノモノハ所理後總テ水洗陰乾セリ。

室内試驗

發芽勢、發芽歩合及伸長度試驗

方法 左ノ二種ニ分チ試驗ス

(イ) 發芽勢、發芽歩合調査ハ「トリーびつひ」氏發芽試驗器ニ百粒宛下種シ調査セルモノニシテ下種後十

日間ノ歩合トス。

(ロ) 幼植物伸長度調査ハ硝子皿ニ河砂ヲ入レ之レニ下種シ幼芽伸長後全部拔取り幼植物各個ニ就キ幼芽ノ長サヲ測定セルモノニシテ第一回ハ二月十九日下種シ三月十二日調査シ第二回ハ四月十九日下種シ五月三日調査ス。

標準 (無所理)	發芽歩合調査成績			伸長度調査成績		
	三月三日下種	四月十一日下種	平均	一回調査	二回調査	平均
(一) 標準 (無所理)	九二	九二	九二	九二	九二	九二
(二) 冷水温湯浸法	七六	八八	八二	七六	八八	八二
(三) 百十五度風呂浸	九三	八八	九〇	九三	八八	九〇
(四) 百二十度風呂浸	九六	九一	九三	九六	九一	九三
(五) 石灰硫黃合劑浸(五度液六時間)	八二	八八	八五	八二	八八	八五
(六) 同 (一度液六時間)	九八	九三	九五	九八	九三	九五
(七) 同 (〇、五度液廿四時間)	九二	九四	九三	九二	九四	九三
(八) 同 (〇、五度液六時間)	九二	九四	九三	九二	九四	九三
(九) 同 (〇、二度液廿四時間)	九〇	九一	九〇	九〇	九一	九〇

豫防効果ニ關スル試驗
 室内試驗區ノ内十區ヲ撰ミテ場内水田ニ栽培シ前年度ト同様ニ之レガ斑葉病並ニ黑穂病ノ發生程度
 及收量ニ就キ調査セリ。
 下種 大正十一年十二月十一日
 收穫 同 十二年六月十三日
 斑葉病被害調査 大正十二年五月十八日

(一) フォルマリン液浸	(二) 硫酸銅液浸(〇、二%)	(三) 同 (〇、三%)	(四) 同 (〇、五%)	(五) 硫化加里液浸(〇、二%廿四時間)	(六) 同 (〇、二%六時間)	(七) 同 (〇、五%六時間)	(八) 昇汞液浸(〇、一%十分間)	(九) 同 (〇、一%五分間)	(一〇) 同 (〇、〇五%十分間)	(一一) 同 (〇、〇五%五分間)
七六	六八	七九	六二	九六	九六	九四	九五	八五	八六	七九
八六八、〇	八八三、〇	九三六、〇	九八〇、〇	九四九、〇	九四九、五	九三九、五	八二八、〇	九〇八、五	九二八、〇	八五八、〇
九六	五九	六五	七六	九八	八九	九八	九二	八三	六九	七三
八八、五〇	七一、〇〇	七五、五〇	七九、〇〇	九六、五〇	九二、七五	九五、七五	八九、五〇	八四、七五	七九、〇〇	七七、〇〇
七四	九五	八九	九二	九四	一〇〇	八八	九二	九二	八九	八九
六九、八九	六〇、九八	七五、三〇	六九、五三	六九、〇七	八二、三九	七四、八三	七六、四五	七二、七三	八一、四二	七六、二九
五三	九二	九二	一〇〇	九八	八七	八七	九二	八七	九〇	九〇
七二、二	九二、七九	九〇、五六	九一、三五	八六、六〇	九三、〇八	九五、五七	九〇、九九	八九、五四	八九、一八	八七、九五
七一、〇九	七六、八九	八二、九四	八〇、四四	七七、八四	八七、七四	八五、二〇	八三、七三	八〇、六四	八五、三〇	八三、二二

第一表 甲圃 大麥(青三德)各區六坪宛内三坪斑葉病調査

區名	調查事項	秤量		殺實		斑葉病發病歩合%
		三坪當	反當	三坪當	反當	
標準 (甲)	冷水温湯浸法	三五三	三五、三〇〇	三五四	三五、四〇〇	二一、一四
百十五度風呂浸法	三三〇	三一、〇〇〇	三一五	三一、五〇〇	三一、五六	一一、二七
百二十度風呂浸法	三四五	三四、五〇〇	三八〇	三八、〇〇〇	六、五一	
石灰硫黄合劑浸(五度液浸)	四一二	四一、二〇〇	四一二	四一、二〇〇	〇、六五	
標準 (乙)	石灰硫黄合劑浸(五度液浸)	二九四	二九、四〇〇	三〇〇	三〇、〇〇〇	一五、六九
フオルマリン液浸	三七一	三七、二〇〇	三四一	三四、一〇〇	二、九五	
	三三一	三一、一〇〇	三六七	三六、七〇〇	一一、五一	

硫酸銅液浸	三七四	三七、四〇〇	三八一	三八、一〇〇	〇、八九
硫化加里液浸	三六四	三六、四〇〇	三九八	三九、八〇〇	〇、三四
昇汞液浸	三二二	三二、二〇〇	三三三	三三、三〇〇	一四、五八

第二表 乙圃 大小麥

區名	大麥 (反當)		小麥 (反當)		黑穗病株數
	稈重量	穀實重量	稈重量	穀實重量	
標準 (甲)	三三、三〇〇	三二、三〇〇	五〇、七〇〇	三二、七〇〇	二
冷水温湯浸	四一、四〇〇	三四、七〇〇	四二、〇〇〇	三九、九〇〇	〇
百十五度風呂浸	四〇、〇〇〇	三二、八〇〇	五四、三〇〇	四〇、六〇〇	七
百二十度風呂浸	四一、九〇〇	三四、二〇〇	五〇、四〇〇	四三、四〇〇	〇
石灰硫黄合劑 (五度液浸)	三九、七〇〇	三一、八〇〇	五二、〇〇〇	三九、〇〇〇	三
標準 (乙)	二八、二〇〇	二六、一〇〇	五二、八〇〇	三七、四〇〇	二
石灰硫黄合劑 (〇、五度液浸)	三八、七〇〇	三三、〇〇〇	四八、四〇〇	三九、八〇〇	一四
フオルマリン液浸	三六、五〇〇	三七、六〇〇	五八、四〇〇	四〇、六〇〇	一〇
硫酸銅液浸	三八、一〇〇	三五、七〇〇	五四、七〇〇	四二、八〇〇	二

硫化加里液浸	三九、〇〇〇	三七、六〇〇	五八、五〇〇	四四、七〇〇	八	五
昇汞液浸	—	二六、四〇〇	五〇、〇〇〇	三七、六〇〇	四	三

附記 本年度試験區ハ生育一般ニ不良ニシテ且ツ收穫期ニ際シ雨天打續キ赤微病ノ被害ヲ蒙リシ爲メ收量著シク減少セリ。
 以上ノ成績ヲ見ルニ各區共何レモ多少ノ發病アリシモ冷水温湯浸法ハ斑葉病並ニ黑穗病ニ對スル豫防効果最モ良好ニシテ百二十度風呂浸法之ニ亞ギ百十五度ノ風呂浸ハ著シク効果減セリ。而シテ石灰硫黄合劑ハ斑葉病豫防ニ對シテハ著シク良好ナルモ黑穗病ニ對シテハ殆ンド効果ナキモノ、如ク硫化加里液、硫酸銅液、フオルマリン液モ同様ノ傾向ヲ示セリ。

五 七島菌黴甲病豫防試験

七島菌黴甲病豫防ノ目的ヲ以テ場内試験及委託試験ニ分チ左記ノ試験ヲ施行ス。
 (イ) 病原越年及ビ傳染ニ關スル試験(ポット試験)
 病斑アル屑藪ヲ表土ニ埋メタルモノ二區、無病地土壤ニ昇汞消毒ノ苗ヲ植付、無病地土壤健全苗植付、對病性ノ「フトキ」植付等五區ヲ設ケ試験セシ成績ニ依レバ菌類學上ヨリ想像セラル、ガ如ク病原ハ前年度ノ被害莖内ニ存セル卵胞子ニヨリテ越年シ本田ニ於テ直チニ初期傳染ヲナシ更ニ七月上旬頃ヨリ盛ンニ其ノ病斑ニ形成セル分生胞子ニヨリ第二次感染ヲナシ著シキ傳播ヲナスモノナリ。而シテ被害莖内ノ卵胞子ハ收穫乾燥セシモノモ圃上ノ地表ニ放置シテ自然状態ニ洒セルモノモ共ニ生活力ヲ維持シ越年傳染ノ中心トナリ得ルモノ、如シ。
 尙靜岡縣引佐郡地方ニテ「大藪」ト稱シ居ル品種ハ品質稍粗硬ナルモ黴甲病ニ對シ多少耐病性ヲ有ス

(ロ) 藥劑撒布試驗

場内圃場無底大圓筒ヲ用ヒ肥料ハ反當疎粕四十三貫三百匁、骨粉十貫、硫酸加里七貫三十五匁ヲ施用シ一區三圓筒宛四區ヲ設置シ三回宛(第一回六月二十三日、第二回七月十一日、第三回七月廿五日)藥劑撒布ヲ行フ。一般ニ發育狀態ハ餘リ良好ナラズ。第一回ノ撒布遲レタル爲メ最初各區共相當ノ發病ヲ見タリ。而シテ第一回撒布ノ效果ハ可ナリ顯著ニシテ七月初旬頃迄ハ「ボルドウ」液區ハ何レモ發病少ナク他區トハ差別明カナリシモ七月四、五日ノ降雨浸水後ハ各區著シク發病シ後期ハ殆ンド概觀的大差ナキニ至レリ。

九月廿五日刈取り調査セル結果次表ノ如シ。

區名	圓筒番號			小計合	被害歩合
	1號	2號	3號		
石灰等量ボルドー區 健全莖	三三六	三六〇	三三九	九九五	一一五
石灰半量ボルドー區 健全莖	三三〇	三四〇	三二二	九九七	一一五
十匁式銅石鹼液區 健全莖	三三〇	三三二	三二二	九九七	一一五
比較(無撒布)區 健全莖	三三〇	三三二	三二二	九九七	一一五
被全莖	一八四	一七六	一七六	五三六	三三、二六
被全莖	一七六	一七六	一七六	五三六	三三、二六
被全莖	一七六	一七六	一七六	五三六	三三、二六
被全莖	一七六	一七六	一七六	五三六	三三、二六

(ハ) 圃場ニ於ケル藥劑撒布豫防試驗
試驗地 引佐郡氣賀町及中川村 二ヶ所

擔當者 遠江疊表組合技術員監督ノ下ニ氣賀町柳瀬次作氏、中川村内山米藏氏試作管理ス。

試驗方法 苗豫防若クハ消毒ト本田ニ於ケル藥液撒布ヲ行ヒテ藥害ノ有無及豫防効果程度ヲ比較調査ス。而シテ肥料其他一般ノ管理ハ擔當者ニ委セ各區均等ニ行ハシム。

藥劑撒布期日

回数	苗床撒布		本田撒布	
	氣賀町	中川村	氣賀町	中川村
第一回	五月四日	五月八日	六月十二日	六月十二日
第二回	五月十日	五月十五日	六月廿六日	六月廿六日
第三回	五月二十日	—	七月七日	七月七日
第四回	—	—	七月廿五日	七月廿六日

本田移植ハ五月廿五日トス。

試驗成績

觀察 苗床ニ於テハ殆ンド發病ヲ認メズ。ボルドー液區ハ何レモ藥害無キニ反シ銅石鹼液區ハ葉及幼莖ニ不正形ノ黃斑點ノ著シキ藥害ヲ現セリ。堀取苗ノ消毒トシテ千倍及一萬倍ノ昇汞水ニ五分及十分間宛浸漬シタルモノ移植後本田乾燥ノ爲メ著シキ藥害ヲ呈セリ。

本田ノ藥劑撒布ハ初期ハ非常ノ好成績ヲ呈シ無撒布區及附近ノ圃場ハ著シク發病セシニ反シ七月上旬迄ハ特ニボルドー液區ハ殆ンド發病ヲ認メズ。銅石鹼液區モ亦相當ノ効果ヲ示セリ。

七月四、五日ノ降雨ノ爲メ氣賀町試驗地ハ二晝夜半、中川村ハ二晝夜間ニ涉リ浸水ヲ受ケシモ七月

中下旬頃迄ハポルドー液區著シキ好成绩ヲ持續セリ。第四回(七月二十五日)藥劑撒布後三―四日ニシテ銅石鹼液區ハ先端部著シク黃變シ藥害ヲ現セリ。尙八月ニ入りテ各區多少ノ發病ヲ來シ特ニ中川村試驗地ニ於テハ其後甚ダシク收穫期ニ至リテハ殆ンド各區差異ヲ認ムル能ハザルニ至レリ。收穫調査 氣賀町ハ九月十六日、中川村ハ同十七日各區別ニ別取リ調査ス。成績次表ノ如シ。

赤ニ被害莖ニシテ病斑アルモ疊表製品ニ供スルモノ
鬼丸ニ甚シク被害莖ニシテ疊表トナラザルモノ
氣賀町試驗地

區名	備考	青		赤		鬼丸合計	赤鬼合計	病害歩合
		生	乾	生	乾			
(一) 無 豫 防		四、六〇	五八〇	六一〇	八〇	七〇〇	二二〇	一七、一
(二) 二苗石灰等量ポルドウ豫防	本田無豫防	四、八〇	五八〇	五九〇	八〇	七、五	二二〇	一七、〇
(三) 三苗石灰半量ポルドウ豫防	同	四、九〇〇	六〇五	五八〇	七五	七二〇	二一五	一五、九
(四) 四苗銅石鹼液豫防	同	四、二〇〇	五五九	四〇〇	五〇	六〇五	八五	一四、〇
(五) 五昇 汞 消 毒 苗 區移植ノ際消毒		三、四六〇	四六五	七八〇	一〇〇	六〇〇	一三五	二二、五
(六) 六石灰ポルドウ豫防	本田共豫防	八、四五〇	九八五	一九〇	二五	一、〇〇〇	七五	七、〇
(七) 七石灰半量ポルドウ豫防	同	四、八六〇	五九九	二二〇	三〇	六四〇	四五	七、〇

中川村試驗地

(八) 銅 石 鹼 液 豫 防 同	三、四八〇	四一五	三七〇	四五	一〇	四七〇	五五	一一、七
(九) 本田石灰等量ポルドウ豫防	四、六六〇	五七〇	四九〇	六五	四五	六八〇	二〇	一六、二
(一〇) 本田石灰半量ポルドウ豫防	四、三三〇	五〇五	二二〇	三〇	七〇	六〇五	一〇〇	一六、五
(一一) 本田銅石鹼液豫防	三、八六〇	四六五	六三〇	七五	三〇	五七〇	一〇五	一八、四

(一) 無 豫 防	三、七四〇	六七〇	一五〇	三一	二〇	七二	五二	七、二
(二) 石灰等量ポルドウ豫防	三、八二〇	六四〇	四三〇	七三	二二	七五	九五	一一、一
(三) 石灰半量ポルドウ豫防	三、三七〇	五七〇	三八〇	七三	二二	七五	一六三	一一、〇
(四) 銅 石 鹼 液 豫 防 同	四、二八〇	七四〇	三三〇	六四	二二	一、四七	一六	一〇、九
(五) 本田石灰等量ポルドウ豫防	三、七三〇	六六〇	二八〇	六〇	二二	七四	八一	一〇、九
(六) 本田石灰半量ポルドウ豫防	三、七三〇	六三〇	二七〇	五三	二二	七五	七五	一〇、六
(七) 本田銅石鹼液豫防	四、〇〇〇	七〇〇	二二〇	四	三三	七七	七三	九、四
(八) 昇 汞 消 毒 苗 移植ノ際消毒	四、五〇〇	七六〇	一一〇	二二	二二	七九	三五	四、四
(九) 昇 汞 消 毒 苗 移植ノ際消毒	三、七八〇	六六〇	二四〇	五〇	二二	七二	六二	八、五

以上ノ成績ニ依ンバ大體苗床並ニ本田ニ於テ四斗式石灰ポルドウ液ヲ撒布セルモノハ効力最モ良好

トナルヲ得タリ。特ニ以上ノ數字ニ現ハレザル品質的關係ニ於テ無撒布區並ニ銅石鹼液區ハ假令青トセルモノ、中ニモ褐色小斑點ヲ有スルモノ多キニ反シボルドウ液撒布區ハ殆ンド褐色點ヲ有スルモノ無ク又伸長ノ度ニ於テモ著シキ好結果ヲ齎セリ。而シテ石灰等量ト半量トノ間ニ於テハ發病豫防歩合ニ著シキ差異ヲ認メザリキ。銅石鹼液ハ苗床並ニ本田ニ於テ却テ藥害ヲ來シ尙豫防ノ效果モ顯著ナラザリキ。

苗床豫防ト本田豫防ノミトノ關係並ニ七月下旬以降ノ藥劑撒布ニ對スル效果及藥害等ノ關係ニ就キテハ更ニ充分ノ試驗研究ヲ要スルモノ、如シ。

六 茶樹ノ餅病ニ關スル試驗

前年度ニ繼續シテ室内ニ於ケル罹病枝ノ病原越年試驗及接種試驗並ニ圃場ニ於ケル豫防試驗等ヲ施行セリ。前年度ニ於ケル罹病枝ヲ室内瓶挿トシ濕潤狀態ニ保ツ時ハ早春ヨリ幼芽ノ伸長ト共ニヨク感染發病スルコトヲ認メタリ。又之等發病部ニ形成セル胞子ヲ健全幼葉ニ接種シ充分ナル濕潤ヲ保タシムル時ハ前年度ニ於ケルト等シクヨク二週間内外ニシテ感染發病スルコトヲ確メ得タリ。

圃場ニ於ケル防除試驗ハ前年度ニ引續キニケ所ノ委託試驗地ニ於テ前年度ノ試驗設計ニ準ジ之ヲ實施シタルモ本年度ハ春秋兩季共ニ發病極メテ少ナクシテ之等ノ成績ヲ比較調査スルコト能ハザリキ。

七 柑橘潰瘍病豫防ニ關スル試驗(繼續)委託試驗

前年度ヨリモ多少試驗設計ヲ變更シテ同一園ニツキ

(一) 主トシテ三斗式石灰半量ボルドー液ヲ用ヒテ夏季ニ於ケル本病豫防藥劑撒布ノ經濟的適期ヲ驗知センガタメ。

(二) 大體本縣ニ於ケル本病傳播ノ初期及ビ各種柑橘病害ノ傳播期ナル六月中旬ト本病傳播ノ最盛期ナル八月中旬ノ二回ニ各種ノ豫防藥劑ヲ撒布シ之等ノ效果ヲ比較調査センガタメ次ノ如キ試驗ヲ施行セリ。

一、藥劑撒布ノ時期ニ關スル試驗

第一區 比較ノタメ無撒布
第二區 三斗式石灰半量ボルドー液ヲ四月十七日、六月廿日、七月十八日、八月二十五日ノ四回撒布ス

第三回 同石灰等量ボルドー液ヲ前同様四回撒布ス

第四區 三斗式石灰半量ボルドー液ヲ六月二十日、七月十八日ノ中二回撒布ス

第五區 同 前 七月十七日、八月二十五日ノ後二回撒布ス

第六區 同 前 同 八月二十五日ノ後一回撒布ス

二、豫防藥劑ノ種類ニ關スル試驗

撒布ハ第一回六月廿一日、第二回八月二十五日ノ二回トス

第七區 三斗式石灰半量ボルドー液

第八區 四斗式石灰半量ボルドー液

第九區 四斗式石灰等量ボルドー液

第十區 十斗式硫酸銅石鹼液

第十一區 十斗式硫酸銅アンモニア石鹼液(製品)

其他無撒布ノ比較區及第二區ニ準ズル番外區ヲ設ク
成績及觀察 八月下旬ニ於ケル發病狀態ハ無撒布區及第七區ニハ點々罹病果ヲ發見シ、又夏芽ノ侵

サレタルモノ多キニ反シ、藥劑撒布區ハ點々夏芽ノ發病セルモノアルモ殆ンド被害果ヲ認メザリキ
 九月初旬石灰硫黃合劑撒布ノ試驗ヲ併行實施スル豫定ナリシモ擔當者ノ都合ニヨリ之ヲ中止セシタ
 メ收穫期ニ至リテ各區共著シク「アカダニ」ノ發生ヲ來シ、特ニボルドー撒布區ニ被害顯著ナルガ如
 シ。

十二月二十五日收穫ニ際シ供試各樹ニツキ左記項目ニ從ヒ調査シタル各區別ノ合計成績表ノ如シ
 一、撒布時期ニ關スル試驗

區名	樹數	健全果		被害果		計		合計	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一區比較無撒布	四	三九六	八六〇	三〇二	七九〇	五九八	一六五〇	九〇〇	五八〇
第二區三斗式石灰半量ボルドー四回撒布	四	四八一	七六〇	七二	二、六〇〇	二九四	八〇〇	六八一	一、八〇〇
第三區三斗式石灰等量ボルドー四回撒布	四	四四五	二、六〇〇	二五	一、〇九一	七二	二、九〇〇	六四一	二、五二〇
第四區同上中二回撒布	三	二七九	二、二〇〇	七四	二、七〇〇	一三三	五、二九〇	二〇六	八、〇一〇
第五區同上後二回撒布	三	四三〇	一、六〇〇	一三三	四、八四〇	一七六	八、七四〇	二九二	三、五八〇
第六區同上後一回撒布	三	二六二	一、七〇〇	二八七	一、五〇〇	四九九	四、三六〇	七四六	五、八六〇

二、撒布藥劑ノ種類ニ關スル試驗

區名	樹數	健全果	被害果	計	合計								
第七區三斗式石灰半量ボルドーA	六	二九二	四、〇九〇	一九	八二〇	五六一	二、三七五	七五三	三、一九五	三六六一	二、八五〇	五	一八五

區名	樹數	健全果	被害果	計	合計								
第八區四斗式石灰半量ボルドーA	六	五八四	四、四六〇	三三	一、二五〇	八六	三、四九〇	一二八	四、七四〇	七〇二	二、〇〇六	七	一六二
同 B	三	五一一	八五〇	〇	〇	一〇	三三〇	一〇	三三〇	六二	一、八〇二	七	一五、一
第九區四斗式石灰等量ボルドーA	五	六四九	二、七四〇	四八	一、六五〇	六一	二、二四〇	一〇九	三、八九〇	七五八	三、〇三四	三	二、七
同 B	三	三〇二	六〇〇	八	二七〇	三三	一、三〇〇	四〇	一、五七〇	三五〇	一、七〇一	四	一一、九
第十區十斗式硫酸銅石鹼 A	三	三六八	三、四三〇	二〇	六八〇	三〇	一、〇八〇	五〇	一、七六〇	四二八	一、九〇二	〇	一一、六
同 B	三	二六二	八、五七〇	二三	七七〇	七五	二、五五〇	九八	三、三三〇	三六〇	一、八九〇	〇	二九、二
第十一區十斗式硫酸銅アンモニア石鹼 A	三	二九二	二、二〇〇	一四	六〇〇	二七	一、一三〇	四一	一、七三〇	三三二	一、八五〇	三	一一、五
同 B	三	三四二	六、八〇〇	〇	〇	一一	四一〇	一一	四一〇	三五三	一、〇九〇	三	二、九
第十二區比較 A	五	四九三	七、八〇〇	一一	五、三三〇	二二	九、一八〇	三三	一、四一〇	八三三	二、九〇四	二	三、八、九
同 B	五	三七〇	一、六〇〇	六四	二、三六〇	九一	三、五〇〇	一五五	五、八六〇	五二五	二、〇二九	五	二九、二

以上ノ成績ニ就テ見ルニ本病除害藥劑撒布ノ時期ニ就テハ初期ヨリ後期ニ至ル四回撒布効果最モ顯
 著ニシテ後期二回撒布是ニ次ギ後期ノ撒布ヲ缺キタル前二回撒布及後期一回ノミノ撒布ハ成績最モ不
 良ナリ。即チ初期ノ豫防撒布ト共ニ特ニ本病ニ對シテハ夏季ノ藥劑撒布甚ダ必要ナルモノ、如シ。
 撒布藥劑ノ種類ニ就テハ顯著ナル相違ヲ示ス事能ハザルモ石灰等量ボルドー液ハ効果最モ良好ニシ
 テ且ツ特ニ夏季ノ撒布ニ對シテハ四斗式ノ稀薄ナルモノモ効果ニ大差ナキモノノ如シ。

八 桃、柿等ノ病害豫防ニ關スル豫備試驗(繼續)

前年度桃其他ニ對シテ施行シタル豫備試驗(藥害調査試驗)ヲ繼續シ更ニ桃ト共ニ豫防藥劑ニ對シ抵抗力弱キ柿其他二、三ノ作物ニ就テ左記各種豫防藥劑ヲ撒布シ各時期ニ於ケル藥害ノ狀況ヲ調査セリ供試藥劑ノ種類及其配合分量

藥劑名	處方	硫酸銅	生石灰	石鹼	水
1	四斗式過石灰ボルドー液	三〇	一二〇	一	一斗
2	同 石灰等量ボルドー液	三〇	三〇	一	同
3	同 石灰半量ボルドー液	三〇	一五	一	同
4	十匁式銅石鹼液	一〇	一	五〇	同
5	六匁式銅石鹼液	六	一	三〇	同
6	販賣豐國固形銅石鹼	十匁式相當量一個(アンモニアヲ含ム)			同

藥劑撒布ノ時期
 第一回 大正十一年三月十六日
 第二回 同 四月十七日
 第三回 同 四月十八日
 第四回 同 五月二十四日

何レモ晴天ノ日「アボルボンブ」ニテ充分撒布ス

供試樹及各時期ニ於ケル被害狀況ノ概要
 一、三月中旬、桃樹ノ蕾乃至開花中ニシテ葉ハ四、五枚伸長シ未ダ充分開展スルニ至ラザルガ如キ状態ノ場合ニ於テハ供試各種ノ藥劑何レモ異狀ヲ認メズ。即チ殆ンド藥害ナキガ如シ。
 二、四月十七、八日頃、桃樹花既ニ落下シ葉ハ六乃至八枚開展シ三寸位伸長セシ時期ニ於テハ供試藥劑中(1)過石灰ボルドー及(2)石灰等量ボルドー液撒布ノモノハ五、六日ニシテ軟弱ナル心葉ノ一部浸潤狀ノ枯死ヲ來セリ。二週間ニ至リ之等枯損葉ノ一部ハ落下シ且ツ斑點及穿孔ヲ生ジ(3)石灰半量ボルドー液及(4)十匁式銅石鹼液ハ僅少ノ斑點ヲ現シ其他(5)、(6)ハ殆ンド異狀ナシ。三週間内外ニ至レバ(1)ハ多少落葉アルモ樹勢ニハ殆ンド影響ナキガ如シ。(2)、(3)順次ニ被害輕微ニシテ(4)以下ノ藥劑ハ殆ンド被害ヲ認メガタシ。
 三、四月十七日頃柿樹新葉五、六枚開展セルモノニ於テハ何レモ五、六日迄ハ殆ンド異狀ナキモ十日内外ニ至レバ供試藥劑(1)ハ葉面ニ斑點ヲ認メ(2)、(3)、(4)順次僅少ノ斑點ヲ現ハセリ。三週間前後ニ至リ(1)ハ藥害最モ甚ダシク現ハレ幼葉ノ枯損ヲ來セリ。(2)以下各藥劑共多少ノ藥害ヲ認ム。
 四、五月二十四日既ニ果實ニ袋掛ヲナシタル桃樹ニ對シテ(4)以下ノ藥劑ヲ撒布セシニ何レモ一週間頃ヨリ多少ノ斑點ヲ現ハシ十日前後稍顯著トナレリ。然レドモ(4)十匁式ノ斑點多少多キ位ノ程度ニテ落葉スルガ如キ事ナク、樹勢ニハ大シタル影響ナキガ如シ。

九 桃ノ炭疽病豫防試驗(委託試驗)

前年度ヨリノ試驗成績ニヨリ大體本縣地方ノ氣候狀態ニ於テハ三月中旬下旬ノ開花及發芽當初ノ桃樹ニ對シテハ殆ンド安全ニ各種ノ豫防藥劑ヲ撒布シ得ルモノノ如ク、又四月中旬落花後葉モ數枚開展伸